

草加市教育委員会会議録

令和元年第2回臨時会

令和元年草加市教育委員会第2回臨時会

令和元年8月5日（月）午前9時50分から

令和元年8月6日（火）午前9時50分から

草加市文化会館 第1・2研修室

○議 題

第32号議案 令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について

○出席者

教 育 長	高 木 宏 幸
教育長職務代理者	村 田 悦 一
委 員	小 澤 尚 久
委 員	加 藤 由 美
委 員	宇田川 久美子
委 員	川 井 かすみ

○説明員

教育総務部長	青 木 裕
教育総務部副部長	本 間 錦 一
教育総務部副部長	福 島 博 行
教育総務部副部長	野 川 雄 一
指 導 課 長	河 野 健

教科用図書選定資料作成委員会委員長
教科用図書選定資料作成委員会副委員長
教科用図書選定資料作成委員会各委員

○事務局

名 倉 毅

山 岸 亮

○傍聴人 令和元年8月5日(月) 20人
令和元年8月6日(火) 3人

令和元年8月5日（月）午前9時50分 開会（草加市文化会館 第1・2研修室）

◎開会の宣言

○高木宏幸教育長 ただ今から、令和元年教育委員会第2回臨時会を開催いたします。

◎前回会議録の承認

○高木宏幸教育長 事務局から前回会議録の朗読をお願いいたします。

————— 前回会議録の朗読 —————

○高木宏幸教育長 ただ今、事務局から前回会議録の朗読がありましたが、これにつきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

（「ありません」と言う者あり）

○高木宏幸教育長 よろしければ、承認することとし、会議録への署名を行いたいと思います。

教育長・委員の署名

○高木宏幸教育長 以上で、前回会議録の承認を終了します。

◎議案審議

○高木宏幸教育長 ただ今から、審議に入らせていただきます。本日の案件は、議案が1件となっております。

なお、本日お配りしております「令和元年教育委員会第2回臨時会説明委員名簿」のとおり、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明員として出席させますので、ご了承願います。

◎第32号議案 令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について

○高木宏幸教育長 それでは、第32号議案につきまして、指導課長より説明させます。

○説明員 令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について申し上げます。

提案理由について申し上げます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により、市立小学校及び中学校において使用する教科用図書を令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書採択に係る発行者一覧の中から採択する必要が生じたため、審議をお願い

いする次第でございます。

なお、教育長及び委員の皆様には、今回の採択に当たりまして、令和2年度使用対象教科用図書の出版社と何ら、関係がないということを誓約書に署名をいただいていることをお伝えいたします。

次に、これまでの経緯について、その概略をご説明申し上げます。

草加市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第5条に基づき、教科用図書選定資料作成委員会は、教科用図書調査研究専門部会及び学校の調査研究結果、教科用図書展示会におけるアンケートを参考に協議及び検討を行いました。

令和元年度教科書展示会につきましては、草加市立中央図書館で6月14日から6月29日までの14日間、開催させていただきました。保護者一般380人、学校関係者763人、教育委員会等関係者2人、計1,145の方が閲覧くださいました。

この後、教科用図書選定資料作成委員会委員から各種目について、ご説明させていただきました。調査の観点、調査研究資料、調査研究報告書をご準備ください。

まずは、草加市の児童生徒の実態について説明後、草加市の児童生徒の実態を踏まえての観点について、ご説明いたします。その後、各発行者の特色、特徴等について、目録の発行者順にご説明いたします。説明の際には、各発行者の報告する特色や特徴がよく表れている学年を選びまして、教科書をお見せしながらご説明いたします。

サポートには、担当の指導主事及び指導員が入ります。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、説明が終わりました。ここで、第32号議案の進め方につきまして、委員の皆様にお諮りしたいと思います。

まず、各種目の担当委員から、選定資料について報告をいたします。

その後、その報告に対する質疑及び協議を行います。そして、採択を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、早速、「小学校 国語・書写」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 国語・書写〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 国語科についてご説明申し上げます。

初めに、本市の児童の実態についてでございます。各小学校では、国語科の学習において、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の学習を通して、言葉について考えさせ、それぞれの力を着実に付けてきているところでございます。

新学習指導要領では、令和の時代を生きる子どもたちに、主体的・対話的で深い学びを身に付けることが求められています。本市の児童は、国語科の学習において、問われたことに対しては答えようとしていますが、やや受け身な姿勢も見られます。自分から進んで課題を見付け、見通しをもって主体的に学習する力を更に付けていく必要があります。また、受け身の姿勢から脱却し、自分で物事を考えることを一層高めるためにも、自ら本を手に取り、多種多様な文章に触れる機会がこれまで以上に必要となります。

そこで、本市の児童の実態を踏まえた観点でございますが、「学校図書館の活用について」を観点といたしました。

それでは、各発行者の特色、特徴について、ご説明申し上げます。

各発行者の第4学年の下巻に「ごんぎつね」という同一教材がございますので、そちらを例に取り、ご説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、まず5ページをご覧ください。学習に当たって、「つかむ」、「学習する」、「ふり返る」という学習の進め方が示されています。そして、次の6、7ページで、その学年で学習する言葉の力が示され、年間の見通しをもてるように工夫されています。続いて、30ページをご覧ください。単元の学習に当たっては、冒頭で、身に付けさせたい力を「言葉の力」として示しています。そして、「つかむ」で学習の見通しをもたせ、主体的に取り組めるように工夫しています。32ページからの教材文の下段、脚注罫線には、5行ごとの数字だけでなく、1行ごとに点が打たれ、何行目かが分かりやすくなっています。49ページから51ページをご覧ください。教材文について考えさせる問いが示されています。51ページ下段、「物語を読んだ感想を友達と伝え合おう」と対話的な学習を促しています。そして、52ページの「ふり返る」で、学習を振り返れるようにしています。ここで、単元冒頭の「言葉の力」が改めて示され、身に付けさせたい力、学習内容を明らかにしています。下段には「こんな本もいっしょに」と読書に親しむように工夫されています。読書へのいざないは、69ページで本を紹介しています。学校図書館の活用につきましては、4年上の28から

31ページをご覧ください。十進分類法について説明されています。このように全学年で図書館へのいざないがなされていて、6年生では地域の図書館の積極的な活用を促しています。

次に、学校図書につきましては、5ページをご覧ください。学習に当たって、まずこの教科書の使い方について、単元名とめあてを確かめて、「学習の見通しをもとう」を読んで流れをつかもうというように、どのように読み進めていけばよいのかが示されています。42ページをご覧ください。教材文の下段の脚注野線には、5行ごとの数字だけでなく、1行ずつに点があり、何行目かが分かりやすく示されています。各単元の冒頭で読むめあてが示され、見通しをもって主体的に取り組めるようにしています。このめあては、60ページの初めの「学習のてびき」、そして、61ページ最後の「振り返り」へとリンクしています。「学習のてびき」では、教材文について考えさせる問いが具体的に示されています。その中で、61ページ上段「話し合おう」で、級友との対話を促しています。61ページ下段には、「国語のカギ」として、大切なポイントがまとめられています。その左には、「この本読みたいな」と読書に親しむように紹介がされています。読書へのいざないは、64ページから67ページで、様々なジャンルの本が紹介されています。学校図書館の活用につきましては、3年上の138ページから139ページをご覧ください。十進分類法の記号の仕組みと本のつくりが示されています。1年生から3年生までは学校図書館へ、そして、4年生と6年生では地域の図書館の利用をいざなっています。

次に、教育出版につきましては、まず2、3、4ページをご覧ください。巻頭で身に付けさせたい力を領域ごとに色分けし、系統的に示し、捉えやすいように工夫されています。5ページの単元の冒頭では、教材文中に出てくる印象的なイラストと一文で、興味・関心をもたせるとともに、めあてが示され、主体的に学習に取り組めるように工夫されています。24ページから27ページをご覧ください。「たしかめよう」、「考えよう」、「深めよう」、「広げよう」と4段階の過程で、児童が読み深め、自分の考えを形成できるように工夫されています。下段には、児童キャラクターを用いて、それぞれの段階での対話的な学習が例示されています。また、26ページにございますように、言葉について着目させ、言葉を学び、語彙を増やせるように工夫されています。27ページの単元末では、「ここが大事」で大切なことがまとめられ、「ふり返ろう」で学習内容を振り返れるようにしています。下段には、「本を読もう」と読書に親しむように工夫されています。読書へのいざないは、156ページ、157ページでジャンルごとに紹介するとともに、次の158、159ページでは、障がいのある方に関しての本も紹介されています。学校図書館の活用につきましては、2年生で図書館へいざなわれて

おります。4年上の46ページから49ページをご覧ください。十進分類法が示され、学校図書館の活用をいざなっています。

最後に、光村図書出版につきましては、まず4ページをご覧ください。巻頭で「学習の進め方」が明記され、見開きの5ページから8ページで、学年で学習することが一覧にまとめられています。11ページの単元の冒頭では、めあてが示され、見通しをもって主体的に学習に取り組めるように工夫されています。29ページまでの教材文をご覧ください。文中に挿絵が多く、それらは大きめで、はっきりとした色合いで表されています。30ページから33ページをご覧ください。教材文について「とらえよう」、「ふかめよう」、「まとめよう」、「ひろげよう」と4段階の過程で、児童がしっかりと読み深め、自分の考えを形成できるように工夫されています。31ページの下段には、対話的な学習が進められるように、「話し合うときに気を付けること」が示されています。31ページの最後の「ふりかえろう」で学習内容を振り返るようにし、32ページの「たいせつ」で、大切な事がまとめられています。下段の「この本、読もう」で作者について紹介するとともに、33ページで関連図書が紹介されています。読書へのいざないは、146、147ページでジャンルごとに本が紹介されています。学校図書館の活用につきましては、3年上の30、31ページをご覧ください。本の十進分類法と本のつくりについて示されています。1年生から3年生までは学校図書館へ、4年生から6年生までは地域の図書館へのいざないがなされています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 1年生の教科書で、幼保からのつながりという観点で、何かこの取組が草加市の子どもたちに合っているな、いいなというところがあったらご紹介いただきたいと思います。

○説明員 本市では、幼保小中一貫教育プログラムがございまして、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、10の姿が挙げられています。その中では、思考力の芽生えや言葉による伝え合いという項目がございます。例えばですが、教科書をいくつか見ますと、学校図書の1年生の導入では、文はないのですが、「動物の絵で親しむように」で導入がなされています。生活の中での挨拶等、それを動物の絵を交えて始めています。

光村図書では、幼稚園で親しんできた、明るい身近な絵を見て話す活動、更に10ページから13ページあたりを見ますと、絵はあるのですが、こちらに言葉、挨拶等の実際の言葉はな

いです。絵を見て、挨拶など対話の力を付けようということで、幼稚園、保育園からの力をそのまま継続していくというような工夫が見られます。

○宇田川久美子委員 低学年は上下に分かれているようですが、5年生、6年生では上下に分かれているもの、分かれていないものがあるようで、この意図や1冊にしたメリット、2冊に分けた方がいいメリットがあれば教えてください。

○説明員 分冊ですと、軽いというメリットがあると考えられます。合冊の場合、1年で1冊の場合は、高学年ですと、今までの学習を振り返り、1学期から2学期の前半についてのものでどういうことを学んだのか、すぐに振り返れるというメリットがございます。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の調査研究の観点から、「学校図書館の活用について」とありましたが、学校図書館の項目が、4者中2者は4年生の上で、他2者は3年生の上で、その扱いが3年生と4年生に分かれているのですが、これは草加市の実態から言うと、3年生の方がいいのか、4年生の方がいいのか、あるいはどちらでもそれほど差はないのでしょうか。

○説明員 専門部会では、より早い時期、3年生で見られた方がよろしいのではないかということでお話がありました。

○村田悦一教育長職務代理者 関連ですが、草加市では、草加市子ども読書活動推進計画が策定され、読書や、いろいろな形で学校と関わりが持たれているのですが、その辺と教科書との関係や、中央図書館との連携など、何か教科書が関わっているところ、あるいはこれから関わっていかなくてはいけないことなどがあれば教えてください。

○説明員 4者中3者については、1年生の教科書から本を読もうということで、図書館へのいざないがございます。実際に各小学校では、中央図書館から職員が来て本を各クラスに勧めてくださっているところです。1年生のうちからそのような活用ができた方がよろしいと考えています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、続いて、書写の説明をお願いいたします。

○説明員 書写について、ご説明申し上げます。

初めに、本市の児童の実態についてでございますが、「書く」活動は、各教科・領域を通して、自己を表現するために必要となる学習活動であるとともに、日常生活の様々な場においても、自分の思いや考えを表現する大切な活動です。そこで、各小学校では、書写の時間においては、まず書く姿勢や筆記具の持ち方に留意して、文字の形や書き順などに気を付けながら、丁寧に正しく美しい文字が書けるように指導を進めております。児童は、一時間一時間の学習

は理解し、観点到気を付けながら書いておりますが、身に付けたものを実際にいかす場においては、やや急いで書いてしまう姿も多く見られ、文字の形に乱れも見られます。

各校では、市内や県の硬筆展や書き初め展に向けて校内展を催し、書くことへの意欲の向上を図ったり、各教科等でのノート指導において技能を確かめたりしております。さらに、児童が主体的に書写の学習に取り組み、しっかりと技能を身に付けることが求められております。

草加市の児童の実態を踏まえた観点でございますが、1点は、毛筆の学習と硬筆の学習との関連性から、「毛筆と硬筆の関わり」、もう1点は、書写で学んだことを、各教科・領域での学習や日常生活における「書く活動」にいかしていくことから、「各教科や日常生活との関わり」の2点といたしました。

それでは、各発行者の特色、特徴についてご説明申し上げます。

毛筆の学習が始まります、各発行者の第3学年のものを例にとり、ご説明させていただきます。

初めに、東京書籍につきましては、サイズがB5判より横に3cmほど広いです。23ページをお開きください。その3cmは、左側に「書写のかぎ」として、単元の学習内容を意識できるように工夫されています。それぞれの書き方の学習ですが、そのページの「人」という文字の書き方について、22ページにございますように、「見つけよう」で書くためのポイントを考えさせ、「たしかめよう」で実際に書きますが、その際、毛筆の穂先の流れは、「とん」、「ぐっ」、「すう」との擬音語を使って分かるようにしています。そして、「いかそう」で他の文字にもいかすように、硬筆教材を設けています。40、41ページをご覧ください。他教科の学習や日常生活にいかすことができるように、「生活に広げよう」のページを設けています。その際、先ほどご覧いただいた左側の「書写のかぎ」で、それまで学習してきた何をいかすかが示されています。

次に、学校図書につきましては、12、13ページをご覧ください。初めに教材文字を提示してから、その文字を書くために、「たしかめて書こう」で児童キャラクターの吹き出しを用いて、めあてを持たせています。そして、「考えて書こう」では、書き方のポイントを「書き方のカギ」として示しています。その際に毛筆の筆遣いは、穂先が分かるように2色の連続写真で表しています。そして、14ページのように、「生かして書こう」で、硬筆で書き、毛筆で学習したことを硬筆で書き、いかすようにしています。38ページから41ページをご覧ください。日常生活の中にかせるように、はがきや手紙の書き方を教材として取り上げ、先ほどご覧いただいた単元同様に、「ためして書こう」、「考えて書こう」、「生かして書こう」

という学習の流れで主体的に学習できるようにしています。

次に、教育出版につきましては、17ページから20ページをご覧ください。17ページのように、初めに教材文字を提示して文字をイメージさせ、18ページの初めにあるようにめあてを確かめています。そして、硬筆で試し書きをさせて、「考えよう」で、書き方のポイントを考えさせ、めあてを持って主体的に学習できるように工夫されています。毛筆の筆の動きが分かりやすいように、大きな写真で示され、穂先は朱墨で表すとともに、「ここが大切」で、ポイントが朱書きで示されています。それから、硬筆でまとめ書きをさせて、19ページ下の「生かそう」で、毛筆で学習したことを硬筆で確かめ、「ふり返ろう」で学習を振り返らせ、さらに次の20ページのように、硬筆の学習でいかすように工夫されています。日常生活の中にかせるように、次の21ページには「暑中みまい」の書き方が載っています。33ページから35ページをご覧ください。手紙の書き方を取り上げていますが、35ページの上にあるように、書写としてのポイントとして、「文字の大きさ」と「行の中心」について、分かりやすく示されています。

次に、光村図書出版につきましては、22、23ページをご覧ください。下段の「たいせつ」に示されているように、「考えよう」、「たしかめよう」、「いかそう」の3段階で見通しを持って学習が進められるようにしています。上段のように、毛筆の筆の動きは分かりやすいように大きな写真で示され、穂先は朱墨で表されているとともに、「ななめほさきちゃん」と猫のイラストが筆の流れを示しています。巻頭をお開きください。そのキャラクターのシールが付いています。自分が書いたものにそれを貼り、学習を振り返れるように工夫されています。22ページの下段に、「28ページ こう筆のまとめ」とあるように、毛筆で学習したことは硬筆で確かめ、硬筆でいかすようにしています。18、19ページをご覧ください。「手紙の書き方」が載っています。このように、「書写」で学習したことを国語の学習、そして、日常生活にかさすようにしています。

最後に、日本文教出版につきましては、18、19ページをご覧ください。初めにめあてを、そして、1、「かえる」のイラストの「考える」、2、「かめ」のイラストの「たしかめる」、3、「いか」のイラストの「いかす」と、学習の流れが示され、主体的に学習できるように工夫されています。毛筆の筆の動きが分かりやすいように、穂先は朱墨で表されているとともに、筆圧の強さが、穂先イラストと「スーッ」、「ピタッ」という吹き出しで表されています。そして、3、「いかす」で、毛筆で学習したことを硬筆で確かめ、硬筆の学習でいかすようにしています。44、45ページをご覧ください。書写で学習したことを日常生活の中にかせる

ように、手紙やはがきの表書きについて取り上げられています。書く時のポイントが右下枠内に示され、45ページの右下にあるように、文字の大きさは赤で分かりやすく示されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○加藤由美委員 1年生、2年生の最後に、水書用紙が今回ありますが、水筆は各者で付録で付いているのか、それとも自分で用意するものなのでしょうか。

○説明員 筆は付いていないので、筆は各自で用意して水書用紙に書くことになります。

○宇田川久美子委員 国語の教科書と書写の教科書と発行者が同じであるメリットがあるのかどうか教えていただけますか。

○説明員 発行者が同じですと、各教材で同じものが載っておりますので、その点は分かりやすいとは思いますが。

○宇田川久美子委員 特に同じである必要はありますか。

○説明員 県内では25採択地区があるのですが、国語と書写で同じ出版社を採用しているのは18地区で、7地区で異なる出版社を採用しています。児童数で見ますと、25.2%に当たりますので、客観的に考えますと、大きな問題はないかと推察されます。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の観点で、「毛筆と硬筆の関わり」ということでしたが、要するに、深い関わりを持ってほしいということでしょうか。具体的には、どういうところで深い関わりを持てているのか、もしあれば、教えてください。

○説明員 毛筆の学習がそれだけで終わることなく、それを硬筆にいかすということでありますので、例えば、教育出版を例にお話ししますと、18、19ページ、学習の初めで、まず試し書きを硬筆で書き、その後、毛筆で書いて、それをまとめ書きで、また硬筆で書いて、毛筆で学習したことを次の20ページのように、硬筆で示し、実際の生活でいかせるようにしています。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど加藤委員から、水書用筆について話がありました。学習指導要領の改訂で毛筆と硬筆との関連で入ってきたと思うのですが、もう少し毛筆、硬筆の関連で、いわゆる1、2年生では硬筆、3年生から毛筆ですよね。1、2年生で、水書用筆が使えるということは、より毛筆と硬筆の関連に結び付いていくと思うのですが、実際にはいかがでしょうか。

○説明員 委員さんがおっしゃられたように、新学習指導要領の低学年で、点画の書き方が加

えられました。それはより適切に運筆する能力を高めるということでございますので、水書の用紙で、筆の流れを確かめ、水書用筆で書くことにより、3年生からの毛筆の学習にもつながっていくということで、大切な学習だと考えます。

○高木宏幸教育長 1、2年生の低学年の段階で、硬筆の文字を書くときの力の入れ方は、子どもたちは、最初に平仮名でも漢字でも書く時に、同じような力を入れます。でも、毛筆は、やはり強弱があるので、そのことと硬筆をうまくいかすことにより、硬筆と毛筆の関係をお互いに高めることができるというイメージでしょうか。

○説明員 おっしゃるとおり、鉛筆ですと、どうしても力が入って、「とめ」や「はらい」が、低学年の子どもたちですと、グッととめる動きが多く見られます。筆を使いますと滑らかに、特に「はらい」についてはスツとはらうなど、力の入れ方が筆ですと余計に分かりやすいので、そのようなものが今回取り上げられております。

○高木宏幸教育長 今、説明の中で、硬筆、毛筆を含め、各教科や日常生活の関わりというところで、子どもたちの実態を踏まえた観点がありました。今回の全国学力・学習状況調査の中でも、そのような問題が出されていますが、予想よりもできていないという結果が出ていますけれども、これについてはどのように受け止めていますか。

○説明員 書くということになるので、実質的には国語の方に関連してくることだと考えているところですが、自分の考えを書き表すという点で、かなり問題が見られていたので、そこについては、本市でも力を入れていく必要があると考えます。

○宇田川久美子委員 水筆のことで、発行者によっては、水筆というところと絵筆などにとあるのですが、草加市では、この水書用紙というものには、何で書くことになっていますか。

○説明員 まだ導入されていないので、実際には使ってはいないのですが、水筆を使うか、又は絵の具の筆でも代用していただけます。

○宇田川久美子委員 絵の具の筆は、字を書くようなものではないですね。

○説明員 絵の具の細筆もこのような形にはなっておりますので、絵の具は太い筆と、このように、先が細いものもあります。

○宇田川久美子委員 特に水筆を用意してということではないですか。

○説明員 特に用意しなくてはいけないということではありません。絵の具の筆の場合には、そちらでも書けます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 社会・地図」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 社会・地図〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 社会科についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、情報化社会が到来し、今後それが急速に進展すると言われている今日も、調べ学習や体験的な活動は意欲的ではありますが、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、正しい情報を取捨選択するとともに、資料を読み取り、それを活用する力や、調べた内容から自分の考えを持つことや様々な方法で表現する力などを身に付け、主体的に活動する児童の育成が更に必要であると言えます。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、社会の教科書におきましては、「公民としての資質・能力の基礎を育成するための工夫」、地図では、「地図・資料の特徴」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

教科書は、各発行者の6年生、単元といたしましては、主に「江戸時代の町人の新しい文化と学問」を例にとり、ご説明させていただきます。

東京書籍につきましては、重さに配慮して、「政治・国際編」と「歴史編」と分冊構成がとられています。初めに、「政治・国際編」の12、13ページをご覧ください。学習の進め方として、学習問題を「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」を基本とした問題解決的な学習を分かりやすく進めていけるように工夫されています。具体的には46ページから順を追ってページをめくってみますと、「つかむ」、「調べる」がありまして、「まとめる」、「広げる」を挟みまして、「いかす」ということで、学習段階が色別に明確に示されていることが分かります。次に、「歴史編」の77ページをご覧ください。ここでは、学習場面に応じた学び方を「まなび方コーナー」として、「歴史地図を読み取る」という事例が示されています。次に、98ページをご覧ください。「まとめる」では、「文章でまとめる」、「討論する」、「説明する」などの言語活動を軸にした多様な表現活動が提示されており、ここでは、「キャッチフレーズをつくって発表しましょう」という活動が示されています。また、小単元の「学習問題」を、ここでは上の方に再提示し、学習問題に立ち返った考察を促すとともに、小単元の学習に出てくる「ことば」の一覧を提示し、まとめの活動にいかせるような工夫がなされています。

次に、教育出版につきましては、年間を通して活用しやすいように、学年一冊となっていま

す。初めに、64、65ページをご覧ください。児童のキャラクターが、64ページ真ん中辺りで、「ア・ウを見て」、65ページでは「ウを見て」と、根拠となる資料を番号で示しながら考えを提示しています。これにより、資料に基づいた見方・考え方ができるように工夫されています。次に、141ページをご覧ください。右の方に「学びのてびき」があり、系統的に資料活用の技能が学べるようになっております。

次に、150、151ページをご覧ください。150ページの左側には「この時間の問い」、151ページの右下には「次につなげよう」が例示されています。この「問い」から展開していく流れを重視することで、各時間の「問い」がつながり、学習問題の解決に一貫性が保たれるように工夫されています。次に、162ページをご覧ください。「まとめる」においては、重要語句を再確認・整理することで、基礎基本的な知識の定着が図れるように工夫されています。また、小単元の「学習問題」と「キーワード」を再掲することで、学習の整理と追求結果の確認に役立つようになっています。

最後に、日本文教出版につきましては、年間を通して活用しやすいように学年一冊となっています。初めに186ページをご覧ください。鍵のマークの「キーワードコーナー」と本のマークの「むずかしい言葉」で、社会科の学習で大切な言葉を解説することで、学習内容の定着を図る工夫がされています。次に、157ページをご覧ください。まとめにおいては、学習問題について考えたことを、友達と交流し、これまでの学習を振り返ることで、学習したことを深められるように工夫されています。次に、158ページをご覧ください。「わたしたちの学びを生かそう」が設置されています。ここでは、子どもたちが自ら学び続け、社会の一員として社会に関わっていくことができるように、多様な教材が用意されています。このページでは、「江戸時代リサイクル新聞をつくろう」という教材が提示されています。江戸時代の文化と学問について学習した後、この時代の生活の工夫について興味・関心を持った子どもたちが、それを更に追求していく活動を取り上げています。

次に、「地図」でございます。

東京書籍につきましては、3年生から6年生までの4年間の使用に耐え得るよう、しっかりとした製本仕様となっております。初めに13、14ページをご覧ください。「地図帳の使い方」を設置し、地図記号や索引、方位、縮尺、地形表現、土地利用といった基本的な地図の読み方を丁寧に解説しているという特徴が見られます。次に、17、18ページをご覧ください。地図活用の手がかりを人物キャラクターが吹き出しで示し、児童が地域の特色に気付くことができるように工夫されています。次に、7ページをご覧ください。3年生に地図の仕組みと約

東事が分かるように、7、8ページで大きな鳥瞰図、9、10ページで真上からの図、そして、10ページの右下の地図へというような視点の変換が分かるように工夫されています。

最後に、帝国書院につきましては、3年生から6年生までの4年間の使用に耐え得るよう、しっかりとした製本仕様となっています。初めに7ページをご覧ください。「地図って何だろう」、その後の9ページの「地図のやくそく」、15ページの「地図帳の使い方」において、地図の定義、方位、地図記号、距離の求め方、記号と色、索引、縮尺といった基本的な地図の読み方が提示されているという特徴が見られます。次に、29ページをご覧ください。下の方に「地図マスターへの道」を設置し、児童が主体的に地図帳を活用できるように、また、地図活用の技能や社会的な見方・考え方が身に付くように工夫がされています。次に、20ページをご覧ください。3年生からの使用を考慮して、28ページまで見やすい「広く見わたす地図」を設置し、さらに、大きなイラストを掲載することで、親しみやすく地図学習ができるように工夫されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 草加市の児童の観点というところで、公民としての資質・能力の基礎を育成とありますが、今の説明で見えにくかったのですが、この公民としての観点から見た何か特徴的な記載はありますか。

○説明員 公民としての資質・能力の基礎の育成は、小学校社会科の究極的な狙いでありますので、全てのことに関わるのですが、例えば東京書籍ですと、歴史編の99ページにありますように、単元末で「ひろげる」を提示することで、学習に広がりや深まりを持たせられるようになっています。100ページの「ひろげる」では鎌倉のことが例になっております。

続いて、教育出版ですと、例えば6年生の271ページでございます。ここでは学んだ事実を根拠にして、自分なりの考えを表現し合う選択、判断の場面では、様々な視点やキャラクターにおいて提示され、自分に近い考えを選択して思考することができるようになっております。ここでは国際協力と日本の役割についての学習を踏まえ、持続可能な開発目標の中から、自分がこれから実行したいことを選択、判断し、交流することになっております。

日本文教出版では、同じく6年生で28、29ページ、人権や福祉など、基本的なテーマについてコラムの充実などにより、現代的な諸問題に触れることができるようになっておりまして、ここでは学童保育と待機児童についての問題を取り上げております。

○川井かすみ委員 身近な地域を取り上げるという意味で、埼玉県のことを多く記載している教科書はどちらになるのでしょうか。

○説明員 教科書は各学年、様々ですが、東京書籍は4年生で、さいたま新都心、5年生で春日部、加須、所沢、6年生で稲荷山古墳、川口市を取り上げています。

教育出版は、4年生で見沼代用水を、日本文教出版は、3年生で川越を取り上げております。

○小澤尚久委員 環境、防災という観点から、先ほど震災復興のことについて触れていただいた部分もあったのですが、そういった環境や防災の観点から工夫されているような記載などがありましたら教えていただければと思います。

○説明員 防災ですと、4年生の自然災害の単元がそこに当たりまして、東京書籍では、75ページからになります。東京書籍では、地震をメインに取り上げています。特徴的なのは、地域で災害に備えてつくられている自主防災隊の活動の話など、地域における防災の取組を丁寧に提示しており、草加の子どもたちが今年6年生で体験する避難所運営訓練に役立つようになっております。また、94ページにあるのですが、これは避難所シミュレーションを取り上げ、地震が起きて、学校が避難場所になった場合、自分だったらどうするかを実際の立場になって考えることができるようになっております。

教育出版は82ページからの単元になっております。メインが地震に備えるまちづくりで、選択教材として水害に備えたまちづくりがあります。水害を選択しますと、12ページ分の水害のページが載っております。草加の4年生の副読本は、「わたしたちの草加」がありますが、自然災害の単元として水害をメインに載せてありますので、草加市の取組と他市の取組を比較しながら学習を進めていくことが可能となっております。

また、教育出版は自治体や地域の方々の話が非常に多く豊富に掲載されており、社会に参画している人々の姿から、臨場感豊かに学ぶことができるようになっております。

続いて、日本文教出版ですが、70ページ、東京都の水害をメインで取り上げております。地域の関係機関や人々がこれまでにいろいろな協力をしてきたことが分かるようになっております。ここでも、先ほど述べた通り、「わたしたちの草加」と比較しながら学習を進めていくことができます。また、85ページには、自助・共助・公助がキーワードで解説しており、子どもたちが発達段階に応じて、自助・共助を考えることができます。まとめでは、私たちにできることを考え、多くの川に挟まれた草加市の子どもたちにとって、水害等に対する考えを深めることができるようになっております。

○加藤由美委員 地図について、今まで社会は東京書籍の教科書で、地図が帝国書院というこ

とですが、特に使いづらかったとか、そういうことはなかったでしょうか。

○説明員 どちらも工夫されておりまして、今まで使いづらいという意見は聞いておりません。

○村田悦一教育長職務代理者 社会科の情報として、資料がたくさんあるわけですが、それぞれの教科書会社で資料の取り上げ方や、資料の読み取りなど、何か工夫に違いがあるのか教えてください。

○高木宏幸教育長 それに加えてですが、やはり社会科は、草加の子どもたちの実態にあるように、主体的に物事を考えていくこと、歴史にしても、公民的なものについても、主体的に考えていく、そのためには資料の提示というか、資料をどう読み取って活用し、社会科のねらっているところに子どもたちの学習が入っていくかというところで、今、村田委員からあったように、資料の提示の仕方、配列、そういうものが子どもたちが考える上で何か効果的な提示の仕方が必要だと思います。例えば、写真にしてもそこを大きく取り上げる、地図でも何か分かりやすく読み取れるような工夫などがあれば紹介していただきたいと思うのですが、先ほどの6年生の歴史のところを見ていかがですか。歴史のところを見て、その資料や取り扱い方で何か特徴的なことはありますか。

○説明員 基本的にはそれぞれの教科書全てに見開きで、見やすく反映するようなつくりにはなっております。実際の人々の話を載せることにより、またそれを評価できるようなつくりになっています。

○村田悦一教育長職務代理者 そういう意味では情報ということで、東京書籍で新聞を読もうということで新聞の記事が出て、これは6年生の、62ページですが、そういう意味では、今、新聞を学校で活用しようという取組もあります。特に社会科で、教科書の中で、新聞記事に限らず、そういったものをどう授業にいかそうとしていますか。ここには一つの新聞を読もうということではありますが、教科書としてはどのような扱いになっていますか。全者で扱っているのか、あるいはここだけなのか、違いはあるのでしょうか。

○説明員 それぞれ表現の仕方は違うのですが、「まなび方コーナー」や「まなび方、調べ方コーナー」とそれぞれありまして、そこで、見る、聞く、調べる、読み取る、表現する、それぞれ明確に分かれて、各学年、系統的にそのような学びができるようにはなっております。

○村田悦一教育長職務代理者 地図の方で1点お聞きしたいのですが、先ほど両者とも3年生から扱うということで、4年間でしっかりしたつくりになっているということですが、今、かなり情報化が進み、地図の後に様々な情報が出ています。3年、4年たつとかなり古くなってしまおうと思うのですが、何か毎年追加の情報があるのか、副読本的に各学校が買って、対応し

ていくのでしょうか。地図の後ろに出ている情報と、4年間で変わっていくことに対する対応はどのように各発行者では考えているのか、あるいは学校がどう対応しているのでしょうか。

○説明員 各学校が教科書以外に、資料集を導入していますので、そちらで確認したり、今回、両者ともQRコードが付いていまして、東京書籍ですと96ページになります。帝国書院は103ページにQRコードが付いていまして、スマートフォンをかざすと、最新の情報が得られるようになっています。

○高木宏幸教育長 先ほどの地図の使い方ですが、地図はまさに最も重要な資料だと思っています。この地図帳をどのように使うかは、社会科の中で狙っている資質・能力にも資するものでありまして、そういうことで考えると、東京書籍も帝国書院も地図帳の使い方というところで示されていますが、子どもたちにとって、よりこの地図の使い方の紙面を見たときに、指導に当たる際に、東京書籍と帝国書院のそれぞれの特徴を踏まえると、どのように評価しますか。

○説明員 まずは3年生ということで、地図に親しませたいということを考えますと、両者は非常に工夫されていまして、東京書籍の方は、最初のページは、絵だけで文字がないつくりになっていまして、ここで非常に親しみやすくスタートできるかと思います。

帝国書院も最初のページで、世界の挨拶や、かわいらしいイラストを載せたりなど、より親しみを持てるようにしています。帝国書院は、先ほど述べたように、広く見渡す地図が載っていますので、それで更に親しみを持って学べると思います。

○宇田川久美子委員 子どもたちに資料に興味を持ってもらいたいという観点から言うと、来年、東京オリンピックがありますから、とても興味深いことではないかと思うのですが、例えば地図帳の資料で何かオリンピック関連のものが載っているなどの特徴はありますか。

○説明員 どちらも載っていまして、東京書籍ですと85ページ、帝国書院は100ページにございます。東京書籍は、夏季・冬季のオリンピックの開催地とワールドカップ開催地を一覧にした地図を設けています。また、帝国書院も、夏季・冬季のオリンピックの開催地を設けてあります。あと、東京書籍の47、49ページ、帝国書院の61、62ページを開けますと、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催するところですが、競技名と開催する場所が載っております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校国語、書写、社会、地図の教科用図書に係る採択に入ります。

採択は、無記名投票により行います。これから委員の皆様にご投票用紙を配付いたします。採択すべきと思う発行者の投票欄に、1者だけ○をお付けください。記載はボールペンでお願い

いたします。

なお、複数の発行者に○を付けたり、○以外の印は無効となりますので、ご注意ください。書き損じされた場合には、はっきりと分かるように二重線で消していただいて、新たに○をお付けください。

投票は、宇田川委員から順に、時計回りで記入した全ての投票用紙を半分に折った上でお入れください。何かご質問はございますか。

それでは、投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、宇田川委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、宇田川委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

国語、光村図書出版株式会社6票ですので、光村図書出版株式会社といたします。

書写、教育出版株式会社3票、光村図書出版株式会社3票、同数でございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、教育長による決定となります。私は、教育出版を選ばせていただきましたので、教育出版株式会社といたします。

社会、東京書籍株式会社6票でございますので、東京書籍株式会社といたします。

地図、東京書籍株式会社1票、株式会社帝国書院5票でございますので、株式会社帝国書院といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、午後0時20分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長 「小学校 算数」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 算数〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 算数科についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、これまで問題解決的な学習に重点を置いた指導の充実を図ってきた成果が表れ、平成31年度埼玉県学力・学習状況調査の結果において、数学的考え方についての草加市の平均正答率が県の平均正答率をやや上回ることができました。このことから、引き続き、日常生活と関連付けた場面を問題解決的に学習することを重視するとともに、具体物、図、言葉、数直線、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を、発達段階に応じて系統的に進めていくことが学力向上につながるということができます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、幼保小中を一貫した教育の充実を図るために、算数科においては、内容の5番目の観点として、「発達段階や学年の段階に応じた指導への配慮」といたしました。

次に、各発行者の特色・特徴についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年及び第1学年のものを例にとってご説明させていただきます。

初めに東京書籍につきましては、6年生の34ページをご覧ください。単元導入では、これまでの学習を想起した上で、話し合い活動を通して単元の学習課題に気付かせる構成となっています。35ページでは、四角の1として、緑の網掛けで問題文、ページ下の双葉マークの緑のアンダーラインでは学習課題が示されています。次のページでは、四つ葉マークがついた緑の網掛けで、学習課題と正対したまとめが示されています。また、学習内容に合わせて、図、数直線、式などを用いた考え方などが大きく丁寧に取り上げられています。このように、毎時間

の問題解決的な学習の流れが1時間ごとに分かる構成となっております。

次に、1年生①を1ページ目から順番にご覧ください。入学当初の初めの2単元のみ、A4判サイズの教科書となっております。28ページをご覧ください。各ページがワークシートとして活用できるようになっています。書き込みのマスには、ノートのマス目と同程度の大きさの方眼が全てに用いられているなど、児童が効率よく学習活動に取り組めるよう配慮されています。また、数の構成の理解のために繰り返し使われている、さくらんぼ図と呼ばれる表し方に特徴が見られ、この表し方は他学年でも系統的に使われていきます。

次に、大日本図書につきましては、6年生の26ページをご覧ください。単元導入には、日常生活の場面から、これまでの学習を踏まえて、新たな学習課題につなげられる構成となっております。27ページをご覧ください。問題に「じっくり深く学び会おう」と付けられている場面では、ページの端に1時間の学習の流れが色の付いた帯で示されています。学習問題ごとにめあてマークを付けた学習課題が、そして、学習の大切なことは、発見マークを付けた赤線の枠の中にまとめられています。数直線図については、巻末の数直線図の書き方のページが示されており、必要に応じて復習できるよう工夫されています。

次に、1年生の教科書を1ページ目から順番にご覧ください。初めに、これまでの遊びや生活と算数とのつながりに気付かせ、続いて、算数の学習の学び方が確認できる構成となっております。学習問題は初めから文字でも示されています。38ページをご覧ください。吹き出しを使い、考え方のポイントなどが具体的に示されています。

次に、学校図書につきましては、6年生の34ページをご覧ください。単元導入では、漫画を読み進めながら、新たな学習問題につなげられる構成となっております。A4判の幅の広い紙面をいかし、ページの左端には学習の流れが帯のように示されるとともに、ページの右側には、モンスターのキャラクターを用いて数学的な見方・考え方が例示されているなど、児童が活動の見通しを持って学習活動に取り組めるように工夫されています。また、学習内容に合わせて、数量関係が捉えやすくなるよう、数直線と併せて4マス関係表が取り上げられており、これらは、他学年にも系統的に使われています。

次に、1年生上巻を1ページ目からご覧ください。文字の使用は抑え、キャラクターを中心とした絵本のような挿絵で、児童の算数への興味・関心を高めるよう工夫されています。30ページをご覧ください。数の構成を学習する場面では、色分けされた箱図を使用して、児童が視覚的に捉えやすくするよう工夫されております。

次に、教育出版につきましては、6年生の52ページをご覧ください。単元導入は、2ペー

ジにわたって既習事項をもとに、はてなマークで示された学習課題の解決の仕方を考えさせた上で、新単元の学習に取り組ませる構成となっています。54ページからをご覧ください。なるほどマークが付いているところでは、課題解決のための良い考え方を振り返る内容が示されています。そして、児童の気づきを新たな学習課題として、「だったら」のマークで示し、問題解決的な学習が深まるよう工夫されています。

次に、1年生の教科書を1ページ目からご覧ください。文字の使用は抑えて、左右のページを見比べて、間違い探しをしながら数の違いに気付かせるなど、児童が楽しみながら算数の学習に取り組めるよう構成されています。38ページをご覧ください。数の構成を学習する場面では、折り込んだ部分を開くと、言葉や図など様々な形で数の構成を捉えられるように工夫されています。

次に、振興出版社啓林館につきましては、6年生の36ページをご覧ください。単元導入では、巻末の「じゅんぴ」問題とリンクし、単元に必要な既習の学習内容が事前に復習できるようになっています。38ページをご覧ください。主な学習課題は、めあてのマークを付けて赤字で示されています。また、学習内容の大切なことはまとめマークを付けて示され、何についてのまとめなのかが分かるように枠の上に言葉で明示されています。学習内容に応じて、数直線や数量の関係図、言葉の式などが組み合わせて取り上げられています。

次に、1年生の教科書を1ページ目からご覧ください。17ページまでは「わくわくスタート」のページとなっています。幼児期の体験を思い出し、算数につなげたり、生活場面をもとに、徐々に算数の学習に慣れていったりできる構成となっています。27ページをご覧ください。数の構成を学習する場面では、おはじきのゲームを通して、楽しみながら数量感覚が身に付けられるように工夫されています。

最後に、日本文教出版につきましては6年生の41ページをご覧ください。単元学習に入る前に、関連する既習事項を確認するための問題が用意されています。42ページの単元導入では、これまでの学習を振り返って、新単元の課題解決につながる考え方や数直線の使い方などを確かめることができる構成となっています。45ページをご覧ください。主な学習課題には、めあてマークを付け、赤い文字で示されています。また、47ページには、学習内容の大切なことが赤字のまとめや紫色の網かけなどで、整理されています。

次に、1年生上巻を1ページ目から順にご覧ください。5ページまでは、「さんすうのはじまり」として、幼児期の遊びや生活の場面を思い起こさせる写真が多く用いられています。

38ページをご覧ください。数の構成を学習する場面では、数ブロックや箱図を用いて、数

の構成が視覚的に捉えやすくなるよう工夫されています。

以上、学年を絞り、特色や特徴を挙げさせていただきました。他の学年のものにつきましても、児童の発達段階に合わせ、児童が主体的に問題解決的な学習、対話的な学習を通して学びを深めることに重点を置いた内容となっており、それぞれが工夫を凝らしている点が見られました。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 東京書籍の1年生の①がA4判と特徴的だと思うのですが、この大きさのねらいと、メリット、デメリットのようなものがあれば教えてください。

○説明員 A4判の大きさのメリットは、このままワークシート的に活用ができるということです。実際に、挿絵の画面に数ブロックを置いていたり、数の練習として数字をマスの中に書き込んでいたり、そういった活動がこの教科書を1冊用意するだけで行うことができます。大変効率良く学習が進められるのではないかと思います。

デメリットとして唯一考えられるとすれば、大きさが大きいということで、子どもたちの持ち物、ランドセルの中が、それから、引き出しの中が容量としていっぱいになってしまうという点が挙げられるのではないかと思います。

○宇田川久美子委員 そのまま大きな字で書き込めるので、今のメリットは理解できましたが、少し文字等の情報量が少ないのかと思います。特にそういうことはありませんか。

○説明員 文字の使用を抑えている発行者は他にもございます。まだ1年生、4月当初は、アイウエオから学習する段階ですので、文字による説明が足りないというところは、学習段階に応じて配慮がされていると捉えられると思います。

○小澤尚久委員 今度、小学校から数学的活動という文言が入ってきたと聞いておりますが、その辺について何か意識した、工夫した点などありましたら何点か教えていただければと思います。

○説明員 これまで算数的活動と呼ばれていたものが新学習指導要領からは数学的活動に置き換わりました。この活動の大きなねらいは2点押さえていることにあります。一つは、子どもたちの活動が目的意識を持ったものであるかということ。もう一つは、子どもたちの活動が主体的な学びであるかということです。この2点を押さえていることが、算数の学習の中で数学的活動に当たっていきます。これを実現させるために、例えば東京書籍では、各単元の冒頭

に単元プロローグを設け、日常的な場面から既習事項を活用し、話し合い活動を通して、学習のめあてをつくることができるようになっており、教育出版では、単元導入が見開き2ページ分を用いて、身近な場面から問題を発見し、しっかりと考えの見通しを持てるような構成になっております。各発行者においてそれぞれに工夫が見られていると思います。

○加藤由美委員 具体的にお聞きしたいのですが、東京書籍はここに書き込めるという利点があって、例えば大日本図書の34ページの1と四角とありますけれども、実際にはノートを活用するのでしょうか。それともここに書き込むようになるのでしょうか。

○説明員 その場合ですと、マスの大きさがやや小さめですので、実際の授業の中では、ノートもしくはワークシートを別に活用することが多いのではないかと思います。

○川井かすみ委員 1年生の教科書からQRコードが載っている教科書がいくつかありますが、どのように活用されるのでしょうか。

○説明員 QRコードについては、東京書籍のDマークを示されたものが1年生から6年生まで、そして、学校図書も1年生から6年生までQRコードがあります。啓林館についても同様です。QRコードが示されていないものについても、ホームページのアドレスの中からそれぞれデジタルコンテンツにつながるように、各社、そのような配慮がされています。これは、デジタルコンテンツを授業中に接続できるICT機器を使えば、授業の学習場面の中にも活用することができますし、自宅でデジタルコンテンツにつなげていけば、家庭学習に活用できるようにもなっております。

○村田悦一教育長職務代理者 6者は、基本的には問題解決的な学習を全部とっていると理解していいのでしょうか。

○説明員 はい。

○村田悦一教育長職務代理者 それぞれの教科書が同じようにやっていたら、そこに差はないと思うのですが、どこで差は出てきますか。

○説明員 例えば東京書籍については、問題解決的な学習の流れが毎時間ごと、つまり、めあてが必ずあり、それに正対したまとめが必ずあるような、1時間の中にその問題解決的な学習がきちんと毎時間入っているところに特徴があると思います。その他の発行者についても、場面ごとになっていますけれども、まとめの多さであったり、めあての提示のされ方であったり、その量の違いが差となって現れているのではないかと思います。

○高木宏幸教育長 草加市では、幼保小中を一貫した教育を進めているのですが、その中で、幼稚園、保育園で培ってきた数の概念など、遊びの中でいろいろなことを学んできていると思

います。それを小学校の算数につなげていくその接続の部分や、あるいは算数から数学へ、中学校の数学につながるような小学校6年生の編集場面など、その辺りの各者の中で幼保小、あるいは小中一貫というところでの特徴はどのような点があるでしょうか。

○説明員 幼保から小学校へという部分については、先ほど1年生の教科書の最初の部分で、全ての発行者について見ていただいたとおり、それぞれの発行者が小学校入学前の生活や遊びの中のどんな部分が算数とつながっていくのかを想起させるような場面からスタートしており、そこについては円滑につながっているのではないかと思います。

そして、小学校から中学校への接続については、各発行者についても、巻末又は別冊の形で、中学校数学を意識した特集となっている部分が設けられております。中でも東京書籍と大日本図書については、目次の部分にそれぞれ学習する内容が、中学校とどのようにつながっていくのか、その系統性が目次の部分に示されております。

また、それぞれのページの中に中学校数学とリンクする部分にマークを付けて、何がどのようにリンクしているのかを示されるようなページなども設けられております。

○高木宏幸教育長 問題解決的な学習の流れがどの教科書も工夫されているということですが、算数、数学の専門的なところから見て、よく一般に言われることは、算数、数学というのは積み上げの教科だから、その積み上げがしっかりできていないと、中学校の数学に行ったときに、大きな学力差に表れてくると言われていると思うのですが、その中で特に単元配列として、3、4年生の算数、ここに壁があるのではないかという指摘があります。3、4年の算数をしっかりと乗り越えることで、5、6年、中学の数学につながっていくとよく言われるようですが、具体的にはどこに子どもたちの壁と言われるようなものがあるのでしょうか。それに対して、各発行者、何らかの乗り越えられるような手立てや工夫などがあれば紹介をお願いいたします。

○説明員 子どもたちが算数の学びでつまづく大きな一つのポイントとして、論理的な説明の部分で、根拠をもとに筋道を立てて説明するというところにつまづいてしまうということが挙げられます。簡単な計算問題ならできるけれども、文章問題で出てきたときにそれを解決するところで理解がなかなか定着しません。そのことについて、例えば東京書籍では数直線図やさくらんぼ図、添付図、そういったものを系統的に取り入れることで、子どもたちのつまづきを、図や表などを用いることで分かりやすくするような取り上げられ方がされております。

学校図書では、4マス関係表という四つのマスを使って、その四つのマスの関係表をもとに式や答えを導き出していくという関係表を使っております。4マス関係表の使い方を見てみよ

うというような、4マス関係表に特化したページなども設けられています。そういったところに特徴が見られております。

○川井かすみ委員 プログラミング学習については、どのように取り入れられていますか。

○説明員 プログラミング学習については、1年生から6年生まで全ての学年で取り上げられているのが、まず大日本図書の「プログラミングに挑戦」というコーナー、それから学校図書の「プログラミングのプ」というようなコーナー、この2者については、1年生から6年生まで全ての学年でこのコーナーが設けられております。

啓林館については3年生から、東京書籍そして日本文教出版については、5、6年生でプログラミングを体験しようというような、プログラミング学習につながるコーナーが設けられております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 理科」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 理科〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 理科の教科書について、ご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございます。観察や実験の活動については、意欲的であります。理科で学んだことを日常生活にいかすこと、他教科等で学んだことを理科の学習で活用すること、理科で学んだことが将来役に立つと感じる児童の割合が低いことが、課題として挙げられます。児童一人ひとりが自分事として課題を設定し、見通しを持って観察・実験に取り組み、結果を考察することを通して、日常生活と関連付けたり、結果と自らの予想とを比較検討したりする活動が大切になってきます。このことから、児童一人ひとりが主体的・対話的に観察・実験に取り組むようにさせ、深い学びへとつなげていくことが必要であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、実感を伴った理解をさせ、理科で学んだことを日常生活にいかすことに課題があるということから、「実社会・実生活との関連」を観点として取り上げました。

それでは、各発行者の特色・特徴等について、本市の課題をもとにした観点を含めてご説明申し上げます。

なお、具体的な例は、各発行者、第6学年の冊子で説明いたします。

初めに、東京書籍についてです。東京書籍の特徴は、児童が自ら問題を見出す場面を重視し

ており、主体的に学習に取り組む工夫がなされているということ、導入や考察の場面にヒントが記載されており、学習すべき自然現象の視点を児童が確認できるようになっているということ、示されているQRコードやURLからインターネットにアクセスすることで、動画などの豊富なデジタルコンテンツを利用することができるということです。児童自ら問題を見出す場面を重視していることについてですが、12ページをご覧ください。単元の導入に、見開きで「レッツ・スタート」を掲載しております。興味・関心を高める内容で、単元全体の課題につながる問いも示されているため、児童の問題意識を高める工夫となっております。次に、学習すべき自然現象の視点を児童が確認できることについてですが、15ページをご覧ください。「理科のミカタ」として、考察すべき内容のヒントが記載されており、児童が視点を確認した上で考察できるようになっております。最後に、QRコードなどからのインターネットアクセスについてですが、50ページをご覧ください。下部に「インターネット」のマークが示されています。ここにはデジタルコンテンツが用意されていることを示しており、巻末のQRコードからインターネットにアクセスすることで、動画やワークシートなどの、豊富なデジタルコンテンツを利用できるようになっております。

次に、大日本図書についてです。大日本図書の特徴は、写真や図が大きく、効果的に配置されているということ、実験器具の使い方が巻末にまとめられており、初出時だけではなく必要などきに確認できるということ、実験結果から考察するための視点が示されており、思考力を育成する場面が設定されているということです。まず、写真や図が大きく、効果的に配置されていることについてですが、31ページをご覧ください。可能なものはほぼ実寸大で提示されており、大変分かりやすくなっております。次の32ページでも実寸大で結果の写真が掲載されております。30ページから32ページにかけての問題解決場面でも、実験の流れや方法などが分かりやすく、写真や図で示されております。次に、実験器具の使い方が巻末にまとめられていることについてですが、210ページから215ページにかけてご覧ください。巻末にまとめられていることで、様々な単元や学習場面ですぐに活用することができるような工夫となっております。最後に、考察する視点が示され、思考力を育成する場面が設定されていることについてですが、16ページをご覧ください。実験結果からどのような内容で考察すればいいのか、児童キャラクターが会話している様子を掲載することで分かりやすく示されており、児童一人ひとりの問題解決における思考を助けるような工夫となっております。

次に、学校図書についてです。学校図書の特徴は、各学年の最初に、その学年で求められる理科の見方・考え方、問題解決の力が明確に示されているということ、実験器具の使い方が1

回だけではなく、後の学習や学年でも記載されており、繰り返し振り返ることができるということ、問題解決の流れがページの左端に示されているということです。まず、各学年で求められる理科の見方・考え方、問題解決の力が明示されていることについてですが、4ページをご覧ください。比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど、各学年で身に付けることが求められている力などが巻頭に示され、その学年の最初の理科の授業で確認することができることにより、児童にも学習の流れや身に付けるべき力が明確になり、児童一人ひとりが見通しを持ち、学習に臨めるような工夫となっております。次に、実験器具の使い方を繰り返し記載していることについてですが、223ページをご覧ください。検流計は3年生で最初に使用しますが、6年生でも電気の学習で使用しますので、再度使い方が掲載されていることにより、繰り返し振り返ることができます。最後に、問題解決の流れがページの左端に示されていることについてです。11ページから14ページにかけてご覧ください。「問題をみつけよう」、「問題」、「観察・実験」、「わかったこと」のように、問題解決の流れをサイドバーに示すことで、学習過程が分かりやすく明示されており、児童の思考の流れを助ける工夫となっております。

次に、教育出版についてです。教育出版の特徴は、単元の導入ページに、「学習のつながり」を示しており、学びの系統性を一目で確認することができるということ、実験器具の使い方は、それぞれの実験方法のページに掲載されているため、児童が確認しながら実験に取り組むことができるということ、豊富なコラムが掲載されており、実生活の場面と照らして考えたり、日常生活の事象を学習したことをもとに考えたりすることができるということです。まず、単元導入のページに「学習のつながり」を示していることについてですが、10ページをご覧ください。左下に「学習のつながり」が示されております。前学年までに学習したことと今後学習することが明示されていることにより、小中一貫教育の観点からも系統性を意識しながら学習することにつながります。次に、実験器具の使い方が実験方法のページに掲載されていることについてですが、204、205ページをご覧ください。器具の使い方のページと実験方法のページが見開きで並んで掲載されているため、児童が確認しながら実験ができ、分かりやすい構成となっております。最後に、豊富なコラムが掲載されていることについてですが、189、190ページをご覧ください。ここには「資料」、「科学のまど」、「チャレンジ」が掲載されておりますが、このように各所にコラムが掲載されており、学んだことを実生活の場面に照らし合わせて考えたり、日常生活での事象から考えたりすることができ、実生活との関連が図られています。

最後に、啓林館についてです。啓林館の特徴は、問題解決の過程に沿って構成されており、今学習していることがどの過程にあるか、児童が常に確認しながら進めることができるということ、写真が大きく鮮明なため、1枚の写真から様々な情報を引き出すことができるということ、単元の最後に、学習内容を1ページにまとめており、単元のまとめとして活用できるということです。まず、児童がどの学習過程にあるか、確認しながら進めることができることについてですが、10ページから12ページにかけてご覧ください。「問題」、「予想」、「実験」、「結果」、「まとめ」というように、問題解決の過程に沿って大きく項目を示した上で、矢印で結んであるため、児童が問題解決の過程を確認しながら、見通しを持って学習を進められる工夫となっております。次に、大きく鮮明な写真から様々な情報を引き出すことができることについてですが、135ページをご覧ください。火山の噴火の様子を鮮明な写真で表現しております。噴煙の上の方は火山灰が小さく、下の方は大きい様子が見て取れます。また、火口に近い方は降灰が多く、離れるに従って、火山灰が減る様子も写真から読み取ることができます。最後に、学習内容を単元最後に、1ページにまとめていることについてですが、19ページをご覧ください。単元の最後に「まとめノート」として、その単元で学んだ内容が1ページにまとめられております。児童が学習のまとめとして活用したり、教員が教室掲示として活用したりすることができます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 小中連携ということで、小学校と中学校の主要科目で唯一扱っている発行者が違う教科が理科だと思いましたが、同じ発行者を扱った方が良いと思う点と、扱う必要がないと思う点を教えてください。

○説明員 同じ発行者が良いと思う点についてですが、草加市では、小中連携として、中学校の教員が小学校に行って、指導する場面もあります。その場合には、中学校で教えている教科書が良いと判断する教員もいるかもしれません。しかし、小学校では、小学校の教員が主に教えておりますので、同じ発行者でなくても、教科書の内容の方が大事だと思いますので、必ずしも同じ発行者である必要はないと考えておりますので、この教科書の調査の部会では、一緒であることが望ましいのですが、教科書そのものの内容が大事だということで、必ずしも同じものではなくても大丈夫だと考えております。

○小澤尚久委員 草加市の児童の実態のところ、実社会・実生活との関連という面で、具体

的にこういう場面が特に関連してきている、効果的であるというところがあれば教えてください。

○説明員 説明で使用しました6年生の教科書を使いまして、述べさせていただきます。各者とも実社会・実生活との関連については工夫が図られておりますが、まず東京書籍についてですが、16ページの辺りに学びをいかしていくためのコーナーがございます。そこでは日常生活における様々な現象について、児童が学習したことを使って考え、説明するような内容の問題を取り上げておりまして、理科の有用性を実感できるように工夫されていると言えます。

そのほか、巻頭のページなどに理科の広場というコーナーがございます。理科で学んだことが様々な職業につながっていることを紹介していきまして、自分の将来につながるようなことが実感できるのではないかと思います。2ページにも載っております。様々な職業の方のコメントなどが細かく載っております。

大日本図書につきましては、24ページに「理科の玉手箱」というコラムがあります。身近な生活の中で学んだことと関係のある資料が載せられておりまして、より深い学びを身に付けられるようになっております。また、違うコーナーで言いますと、35ページのように、単元末にあるところですが、「学んだことを生かそう」というコーナーで、既習内容と実生活を結び付けた問題を出題することによって、問題解決的な学習活動ができるように工夫されているところだと思います。

学校図書については、23ページにある資料や「活用」というようなマークが付いたコーナーがありますが、生活と結び付きが深く、参考になる資料が掲載されております。そのほか、単元全体を通して、最初の問題を考える場面のところで、自然の現象であるなど、児童の身近な生活から問題提起されていますので、最初の問題、考えるところの場面で、そういったところから学習をスタートすることができるようになっております。

教育出版についてですが、巻頭の部分や56ページなどにメッセージというコーナーがございます。理科や科学に関係する人からの学年、発達段階に合わせた思いが伝わるようなメッセージが掲載されております。様々なコーナー、コラムにおいて学んだことを実生活の場面に照らして考えるなど、日常生活との関連が図れるような内容が掲載されております。

啓林館についてですが、22ページのような、「つなげよう」というコーナーにおいて、学習内容を身近なニュースに関連させて考えさせるような場面がございます。そのほか、オリンピックやパラリンピック等の内容が多く取り入れられておりますので、児童の関心・意欲が喚起されている部分になっているかと思えます。

○村田悦一教育長職務代理者 最初に草加市の児童の実態のお話の中で、「理科で学んだことが将来役に立つと感じる児童の割合が低いことが課題」ということがありましたが、これはなぜ低いのかということをごどう考えていますか。実生活、実社会との関係もあると思うのですが、どう捉えていますか。

○説明員 低い原因ですが、おそらく理科で学んだことは理科で学んだこととして子どもたちの中で終わっていて、それが日常生活につながっているということに関しての子どもたちの意識が低いところが原因ではないかと考えております。今回、この実社会、実生活との関連が図られている工夫について、各発行者、調査することによって、子どもたちにより合った教科書が得られるようにということで、この観点を書かせていただきました。

○村田悦一教育長職務代理者 今、子どもの意識ということで、以前、理科離れということがありました。あれは、子どもたちよりも教員の指導にある意味で責任もあったのではないかと個人的に感じていますが、そういう意味で、草加の子どもたちの意識、あるいは、最近言われませんが、理科離れという視点でいうとどう捉えていますか。

○説明員 今おっしゃられたように、理科離れに関しては、教員側の方の課題もあると思います。やはり小学校の段階においては、小学校の教員の方も理科のことを、苦手意識を持っている教員もおりますので、その辺りについて子どもたちへの指導が十分なされていないところがあると思いますので、この理科離れに関しては、子どもだけではなくて、教員の方についても課題があると考えております。それに関して、教科書に実験等が丁寧に説明されているなど、工夫された各コラムが掲載されていることによって、これを活用した指導を教員が行うことにより、子どもたちへの理解、興味・関心が高められる工夫になるのではと考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 様々な課題がありますが、選ぶときの視点として、一番大事な視点はどこになるのでしょうか。

○説明員 子どもたちの将来役に立つと感じる割合が低いなど、日常生活にいかす場面が課題だと考えておりますので、やはり観点としましては、実社会・実生活との関連が図られている部分が大事かと考えます。

○宇田川久美子委員 興味を持つというところでは、QRコードや実験など、そういう部分で特徴的な教科書はありますか。

○説明員 QRコードにつきましては、各者とも用意されておまして、発行者によってはまだ、この先が全部仕上がっていない部分もありますが、各者とも実験の動画があり、また実際に子どもたちが観察しにくいような場面の写真、動画等の掲載があるなど、どの発行者につき

ましてもQRコード、その先のデジタルコンテンツについては用意されております。

○高木宏幸教育長 小学校の理科から中学校の理科につなげるということで、小中のつながりや学びの系統性などの説明が一部ありましたけれども、他の教科書全体でそういう視点からいうと、どんな工夫がありますか。

○説明員 小中のつながりに関して、6年生の教科書には、各者とも中学校とのつながりが載せられております。

東京書籍ですと、17ページをご覧ください。「理科のひろば」、「はってん」と書かれています。「中学1年で学ぶこと」のところでは示されていますが、こういった形で、中学とのつながりについて各所に配置されています。それから、216から217ページにかけては、6年生が1年間かけて学んだことが示されているのですが、ここにも「中学1年で学習すること」ということで示されています。

大日本図書については、同じような形ですけれども、27ページの「サイエンスワールド」、「中学で学ぶこと」、「発展」というような形で示されているように、このようなものが各所に配置されております。また、222ページには、「中学校になったら」というようなコーナーが設けられていて、中学で学ぶことがまとめられて示されているところです。

学校図書につきましては、特にこれまでの2者のように、中学何年というような評価はありませんが、37ページのように、資料の発展として、そのこの単元で学んだことの発展的な内容を示すことによって、小学校だけではなく、その先の学習ということで基本的な内容が示されています。

教育出版につきましては、例えば10ページのように、単元の最初に学習のつながりということで、子どもたちの学習、それから、この先の学習ということで示されています。あとは18ページのように、「はってん」、「中学1年」というような形の欄が設けられて、学習することの内容が示されているところです。

啓林館につきましては、30ページにあるように、「発展」、「中学校」というマークが付いたコーナーがございまして、この中学校で学習する内容が考えさせるような問題が示されているところが各所に配置されております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 生活」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 生活〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、生活科の教科書について、ご説明申し上げます。

まず草加市の低学年児童の実態でございますが、情報化・少子化・都市化等の進展に伴いまして、子どもの育ちに変化が見られています。具体的には、様々な情報機器に囲まれて生活している児童は、メディアを通して知識を獲得することに慣れており、例えば、昆虫の名前は知っているが、実際につかまえたり、飼ったりした経験がないなど、直接的な体験や実感を伴う理解が不足しているというような現状があります。

さらに、学校と地域との関係において、子どもたちが積極的に社会参画する機会や社会性を発揮する機会を維持・拡充することが課題であり、これらを解決することが、学校・家庭・地域が一体となって目指す「草加っ子」（15歳の姿）の実現に資するものであると考えております。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、五つの観点で調査を行いました。

生活科におきましても、今回、育成すべき資質・能力として、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」の三つの柱に整理されております。この三つの柱をそれぞれ観点としております。

さらに二つ観点を付け加えております。一つは、人や自然、社会などを対象として、直接的な働きかけをもとに探求的な学びや深い学びを展開できるよう、「気づきの質の高まり」という観点です。もう一つは、「幼児教育との円滑な接続」の観点です。特に、スタートカリキュラムの充実を念頭に置きながら、生活科を核としまして、幼児教育の成果を教科等の学びにつながることができるかを観点としております。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

まず東京書籍です。上巻1ページから13ページをご覧ください。幼児期に育まれる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校の生活や学習のどの場面にかせるかを教師・児童がイメージできるよう工夫されております。上巻10ページ、左下をご覧ください。ここに、保護者向けの丁寧な説明が付されており、小学校入学当初のスタートカリキュラム実施に対する理解の浸透を図る工夫がなされております。続きまして、下巻15ページをご覧ください。他教科との関連が示され、生活科を核とした合科的指導・関連的指導の実施につながる工夫があります。これに加えまして、下巻104ページをご覧ください。この「つながる ひろがる」は、生活科の学習が中学年以降の各教科の学習活動とのつながりが示され、「小学校学習指導要領解説 生活編」に明文化された生活科の機能を反映させる資料となっております。

下巻107ページをご覧ください。「かつどうべんりてちょう」は、学習の中で利活用でき、下巻122ページ「やってみよう 考えよう」に示されている子どもたちの姿は、「思考力・判断力・表現力等の育成」につながる資料となっており、他教科にも十分活用できるものとなっております。上巻72ページをご覧ください。「もっと楽しくできるかな」で、ここに代表されるように、各単元の終わりに「学びに向かう力」の育成につながる、「より楽しく生活する」、「より豊かな活動にする」といった意欲が湧くような工夫がなされています。

続きまして、大日本図書です。上巻30ページ、31ページの見開きページをご覧ください。ここにある大単元のスタートや小単元のスタートには、児童が生き生きと活動している写真が効果的に配置されており、学習の興味・関心を高めたり、活動全体を捉えやすくしたりする工夫となっています。上巻23ページ右側の「せいかつことば」をご覧ください。ここにあるように、動作、ものの様子、変化など、状態を表す言葉や、五感を使って気付いたことや感じたことを表す言葉などが適宜示され、言葉での交流が活発になるような工夫があります。これは「思考力・判断力・表現力」の育成や気付きの質を十分に高めるものとなっています。続きまして、下巻112ページ、「学習道具箱」をご覧ください。ここにあるように、学習に用いる道具を児童自らの力で作成できる教材が用意されており、学習活動に対する意欲を高める工夫と、その教材の持つ機能が児童の活動を焦点化する工夫がなされています。

続きまして、学校図書です。こちらは、教科書全体としまして、写真や絵が大きく、説明や吹き出しなどの文字情報が必要最小限にまとめられていることで、児童の自発性や主体性に沿った活動の促進や好奇心や探求心を沸き立たせる工夫となっております。目次をご覧ください。このように学習する時期が、また、各ページの左上に「どきどき」、「いきいき」、「ふむふむ」、「にこにこ」の4段階で学習過程を示しております。このことは児童に学習の見通しを持たせる工夫となっております。上巻1ページ冒頭をご覧ください。児童の学び方を示すモデルとして、ここにいるキャラクターが各単元の要所に登場します。そのキャラクターの発する言葉が活動を発展させたり、継続させたりする工夫となっております。具体的に上巻54ページをご覧ください。この4人のキャラクターの発言が、考えや活動を広げたりするものとなっております。また、別のところでは、分かったことを分析的に捉えたりするような工夫となっております。このことは、資質・能力の三つの柱が一体的に育まれる活動につながるものと考えております。下巻10ページをご覧ください。学習カードの例示があります。児童に対してだけでなく、朱書きのコメントは教員に対する例示にもなっております。

続きまして、教育出版になります。上巻末127ページ、下巻末117ページに、「学びの

ポケット」がございます。こちらの方をご覧ください。生活科の学習を進める上で必要な「知識・技能等」と、他教科との関連が分かりやすく整理され、スタートカリキュラム編成や生活科を核とした合科的な指導、関連的な指導の実施に向けた参考資料となっております。上巻15ページをご覧ください。絵本等で児童になじみの深い「いぐら」が登場し、児童に活動を促したり、また下巻51ページには、思考を促したりする工夫があります。児童がこれらに応えることで活動が主体的になったり、気付きの質が高まったりすると考えます。続いて、上巻81ページをご覧ください。単元の振り返りのページにメモ欄があり、ここに書き込むことで教科書だけで学びの履歴を振り返ることができる工夫や、自分の成長を自覚できる工夫があります。

続きまして、光村図書出版です。上巻3ページをご覧ください。右側に示しておりますマークによって、学習活動を「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3段階で展開し、児童の主体的な活動を促す工夫がなされております。上巻27ページをご覧ください。単元の終わりに、児童が学習の振り返りをするときに、上巻145ページにあるシールに記入し、ここに貼ることで、学習の成果を実感できるよう工夫されています。さらに、上巻136ページをご覧ください。各単元の終わりに貼ったものをここに集約することで、最終的には学びの履歴や成長の実感を持てるような工夫とともに、発展的な活動を児童自らが気付けるような工夫となっていると考えます。次に、上巻49ページをご覧ください。「どうすれば」のコーナーに対象への働きかけ方を示したり、活動を通して身に付けたいルールや約束などが示されたりしております。これは活動を通して、規範意識や道徳性を育む工夫となっております。

続きまして、新興出版社啓林館でございます。上巻1ページの「がっこうだいすき あいうえお」をご覧ください。幼稚園や保育園との円滑な接続に関する内容が示されております。また、下巻129ページ巻末、「ステップブック」をご覧ください。こちらには、生活科と中学年以降の教科等とのつながりや学びの連続性を示す内容が取りまとめられています。これは、「小学校学習指導要領、生活科編」に明文化された生活科の機能を反映させるものとなっております。これに加えまして、保護者への説明が丁寧に示されております。また、各単元、「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階で構成されており、ねらいや学習のプロセスが明確になっていること、また、そのことが教科書左側のタブに示され、児童も今、何をする段階にあるのかが分かるようになる工夫となっております。上巻33ページをご覧ください。このように各大単元の最終ページの、「できるかな できたかな？」コーナーには、児童が学習の成果の振り返りができる工夫が、また、「ひろがるきもち」のコーナーには、学んだことを

いかす姿を具体的に示し、学びを生活にいかそうとする態度を養うことができる工夫となっています。また、こちらの方も、3人のキャラクターが発する言葉は、児童の活動の励みや注意喚起を促すものとなっています。

最後に、日本文教出版でございます。全体的に単元と、それを構成する小単元がテーマ色、シンボルマークで統一されていることで見やすくなっています。上巻2ページをご覧ください。左側に登場する「せいかつたんけんたい」の3人のキャラクターが各ページに登場し、児童の主体的な活動を促したり、また、次の3ページの上を示されたマークによって活動の際の注意喚起をしたりしております。続きまして、2ページ下の方をご覧ください。各小単元の左下に育成すべき資質・能力に沿った学習のめあてが示され、さらに副題が「比べる」「例える」など、分析的に考えたり、試行錯誤したり、創造的に考えたりなど、思考力・判断力・表現力などの育成に資する活動を促すものとなっており、生活科の目標につながる工夫がなされております。上巻末125ページの「ちえとわざのたからばこ」をご覧ください。こちらでは、生活科の学習や体験を通して身に付く「知識・技能」などが整理されており、他の教科での学習活動の参考資料になるなど、合科的な指導や関連的な指導にいかせるものとなっています。また、上巻37ページから44ページをご覧ください。こちらの方は山折り、谷折りとなっておりますけれども、こちらの方を折って使用すると、植物の成長過程が分かるなど、特に、草花や野菜の栽培に関する内容が充実しております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 教科書のサイズがそれぞれ異なりますが、低学年の子どもが扱う上でのメリット、デメリット等がありましたら教えてください。

○説明員 東京書籍ですと、1年生の他の教科書とサイズが一緒になっています。学校図書は学校図書でサイズが一緒になっているという点で、ランドセルに均一に収まりやすいというメリットはあります。また、サイズを拡大することによって、情報量や文字のサイズが広くとれるというメリットがございます。

○小澤尚久委員 全国各地はもちろん、埼玉県内でも生活環境はかなり違っていると思うのですが、この子どもたちの実態にあったように、直接的な体験や実感を伴う理解を考えた場合に、草加の子どもたちが利用していく上で、こういうところは何か草加の子どもたちの学習につながっていくというところがありましたらご紹介いただければと思います。

○説明員 直接的な体験であるなど、実感を伴うような体験は、生活科のねらいとなっておりますので、それぞれの教科書はそういったことを踏まえて、例えば直接的に昆虫を採集するなど、季節を感じた活動をするという内容になっております。大きくどこの教科書がより豊かな体験になっているかということの差異は、感じるがございます。

○村田悦一教育長職務代理者 児童が積極的に社会参画する機会や社会性を発揮する機会について、課題があるということですが、生活科だけで担っていくものではないと思いますが、どのようにお考えですか。

○説明員 生活科の学習そのものが身近な人との関わり方、徐々に生活を広げていくというような内容になっています。実際には、生活科だけに关わる問題ではなく、学校教育全体に关わる問題として、社会との関連性を考えていかなければいけないのですが、まずは生活科の中で、人との関わりを学ぶ、自然との関わりを学ぶ、そして、地域社会との関わりを学んでいくことが生活科のねらいにもつながっていますので、ここでまず土台を育てていくということがとても大事なことではないかと思っております。

○村田悦一教育長職務代理者 幼保小中を一貫した教育の中で、草加市にはスタートカリキュラムというすばらしいものがあると思うのですが、今ここに7者あります。そのうち、より適しているのは何者でしょうか。また、草加市の子どもの実態や、幼保小中連携の中で今できているものとの兼ね合いを踏まえ、どこの教科書が採択されても問題はないと考えてよろしいのでしょうか。

○説明員 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫が、小学校で求められているところです。このことから、小学校は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体的なイメージ、そして、その姿が小学校の生活や学習のどんな場面で捉えるのかを、小学校の先生たちがイメージを持てるものがとても有効であると考えています。

東京書籍の上巻の4ページをご覧いただきたいのですが、見開きのページになっているところで、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の項目と、項目ごとの具体的に育っている姿が表記されています。さらに、イラストを見ていただくと、小学校で発揮している場面が示されておりますので、十分にスタートカリキュラムで編成していく上では、効果があると考えます。

同じように、学校図書の上巻の4ページをご覧いただきたいのですが、こちらは、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、「ちゃんとできるよ」という表記が、自立心の表記を簡素化しています。こちらは自立心がイラストでもいかされている場面が示されているので、スタートカリキュラムを編成する上で十分効果があると考えています。

他の5者につきましては、代表して、啓林館をご紹介します。2ページと3ページの見開きのページをご覧いただきたいと思います。文章や文字で表記はされておりませんが、幼児期の終わりまでに育っている姿の具体が、写真や絵で示されています。一つ例を挙げますと、3ページの右上に自転車に乗っている写真、こちらは諦めずにやり遂げることで達成感を味わうといった自立心の育ちが表されている具体的な姿になっていますが、これが小学校ではどこに出ているかという、12ページに「できるところがふえていく」とあるように、こんな姿にかさねますということがここで表記されています。小学校が幼児教育を理解する上で、東京書籍や学校図書のように、対比的に示されている方が見やすいかと考えます。

○川井かすみ委員 例えば、東京書籍の下巻52ページと54ページに、車椅子の人が挿絵で書かれているなど、インクルーシブを意識した挿絵がありましたが、こういった写真やイラストは、児童の視点、指導の視点から、使いやすいというものとはどのようなものになるのでしょうか。

○説明員 写真やイラストであるなど、それぞれ自然に子どもたちが受け入れられるように、様々な学習の場面で、各者、工夫がなされています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校算数、理科、生活の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、川井委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、川井委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

算数、東京書籍株式会社6票ですので、東京書籍株式会社といたします。

理科、大日本図書株式会社 2 票、教育出版株式会社 4 票ですので、教育出版株式会社といたします。

生活、東京書籍株式会社 5 票、株式会社新興出版社啓林館 1 票ですので、東京書籍株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長　ここで、午後 2 時 5 分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長　それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長　「小学校 音楽」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 音楽〉

○高木宏幸教育長　説明員の方、お願いいたします。

○説明員　音楽の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、音楽好きな児童が多く、歌唱、器楽とも意欲的に取り組んでおります。新学習指導要領に示されている指導内容、共通事項を基盤とし、知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力も徐々に育成されてきております。

今後につきましては、学習内容や指導内容を明確にして、6 年間又は 9 年間の連続性や系統性を図り、質の高い音楽活動を通して音楽性を高めていく必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、音楽においては、一つ目に「指導内容の明確化」、二つ目に「教材の選択」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第 5 学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

教育出版につきましては、初めに 16 ページをご覧ください。フォスターの作品が取り上げ

られ、左上に示された課題文で、「和音や低音のはたらきを感じ取って演そうしよう」と投げかけ、和音や低音にはどのような効果があるのかを児童に考えさせる構成になっています。そして、17ページの「もっとあそぼう」では、和音の部分をアレンジして演奏できるような工夫がなされています。次に、31ページをご覧ください。透明シートで楽器の種類を示し、児童の興味・関心を高める工夫がされています。全体的に、日本の音楽から世界の音楽まで、多様なジャンルの音楽が教材として取り上げられており、児童が多様な音楽経験ができるように工夫されています。

次に、教育芸術社につきましては、初めに34ページをご覧ください。同じくフォスターの作品が取り上げられております。左上には、「和音の移り変わりを感じ取りながら演奏しましょう」と学習のねらいが明確に示されております。ページ下には、響きの違いを確かめる方法が具体的に示され、児童が和音の移り変わりを主体的に感じ取れるよう工夫されています。次に、58ページをご覧ください。旋律づくりの手順が分かりやすく示されており、吹き出しの言葉を手掛かりとしながら、主体的に学習できるよう工夫されています。このように各教材が、それぞれの指導のねらいに適合するよう選択されており、系統的な題材構成と合わせて音楽性を高めることができるように工夫されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○加藤由美委員 草加市の児童の実態のご説明の中で、質の高い音楽活動をということがありますが、もう少し詳しく意味合いを教えてくださいと思います。

○説明員 新学習指導要領の改訂に伴いまして、主体的・対話的で深い学びを実現できるような効果的な取組ができるようにというところで、教育出版では、「学び合う音楽」というコラムや、「学びナビ」で学び方が示され、児童が見通しを持って学習を深める工夫が見られます。

例えば、5年生の11ページをご覧ください。「タッカ」のリズムを「タタ」のリズムに変えて歌い比べながら、表現の工夫を進めていくようになっています。そして、教育芸術社では、学習の手順を示した指示文やキャラクターの吹き出しにより、児童が意見を交流したり、自分の考えを深めたりできるような工夫が見られます。15ページをご覧ください。リズムの違いを歌い比べて、「感じのちがいや気付いたことについて話し合しましょう」と、何を話し合うかが具体的に示されております。

また、リズムだけではなく、強弱の効果につきましても、話し合うようにするとともに、曲

の山に気付かせるキャラクターの言葉が示され、12ページの左上にある「曲の特徴を生かして、明るい声で歌いましょう」というねらいが達成できるよう、きめ細かい工夫が見られます。このように子どもたちが考え、次の学習につなげられるような工夫がされているというところが、質の高い音楽活動とつながっていると考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 今、質の高い音楽活動ということで、学び合う、話し合うということが出てきましたが、指導内容の明確化と教材の選択のそれぞれの視点や観点は、どのように捉えたらいいのですか。

○説明員 まず、指導内容の明確化というところにつきましては、指導者側もこの時間に何を学習させるのかという指導のねらいが明確になっていること、子どもたちがこの時間に何を学ぶのかということが明確になっていることというところで、2者とも共通しておりますが、それぞれのページの左上の題材名のところの工夫が、子どもたちにとっても、先生方にとっても分かりやすいかどうかという視点で考えております。

そして、二点目、教材の選択につきましては、2者とも多様な音楽を取り入れておりますが、教育出版ですと、世界の音楽、ジャズ、映画音楽というような、多様なジャンルにわたって教材が取り入れられております。教育芸術社につきましては、小中一貫教育という視点で、中学校につながる音楽、生活の中の音楽等が多く取り入れられております。

こちらの二点に視点を当てて、教材を見させていただいております。

○村田悦一教育長職務代理者 教材の選択の方で、特に、小中一貫という形での視点もあるということですが、文部省唱歌というか、いわゆる昔からの伝統や日本らしさというものは学校教育、義務教育の中でしか学べないところがあると思います。ただ、そういうものもだんだん少なくなって、実際、学校ではみんなの歌などを副教材で取り組んでいるということで、この2者に限っては、いわゆる文部省唱歌や今まで慣れ親しんできた音楽が今後どのような形で小中学校の教材として出ていくのか、何か特徴的なことがあればお願いします。

○説明員 学習指導要領では、文部省唱歌や童謡などを扱うことで、日本の音楽に愛着が持てるようにしております。両者とも、童謡、歌唱ともに丁寧に扱っております。また、各学年に文部省唱歌を含めた共通教材、4曲が示されております。発行者によって、教材への位置付けや学習内容等に特徴がありますので、6年生の教科書を例にして説明をいたします。

教育出版、6年生ですが、共通教材、4曲中、2曲を題材に位置付けまして、他の2曲につきましては、日本の歌、みんなの歌という取り扱いになっております。42ページをご覧ください。「音楽に思いをこめて」の題材に「ふるさと」を取り上げて、歌詞を読んで、作者の思

いを想像し、表現にいかしていく学習が設定されております。縦書きの歌詞は、「うさぎ追いしかの山」と表記されております。

続きまして、教育芸術社では、まず6ページ、目次の左上をご覧ください。共通教材を「ころのうた」として、「古くから歌いつがれ、これからも歌いついでいきたい歌」と説明があり、4曲全て題材内に位置付けられております。44ページをご覧ください。人々が大切にしてきた歌として、こちら「ふるさと」が取り上げられております。46ページには、学習の進め方が具体的に示され、児童が歌詞や曲の特徴をいかして、主体的に表現を工夫できるようになっています。こちらの縦書きの歌詞は、「うさぎ追いしかの山」と表記され、楽譜の息継ぎの位置と整合しています。このような特徴が見られます。

○川井かすみ委員 草加市は、音楽都市宣言をしていて、なおかつ、毎年、もう昨年で30年目を迎えたハープフェスティバルも行われており、草加市にかなりゆかりがあると思いますが、そのハープについては、各者で何か取り上げられているものがありますか。

○説明員 指導者によっては、世界の音楽として、音楽の時間に触れてみるという活動もごさいますが、草加市の学校で特に多いのは、ハープコンサート、クラスコンサートという時間を位置付けまして、ハープ奏者に来ていただいて、演奏を聴き、実際に子どもたちがハープを体験させていただくということを毎年やっております。

○宇田川久美子委員 今のことに関連して、草加市の子どもたちは、器楽とも意欲的に取り組んでいるということで、高学年になると、教科書には多様な楽器が出てきますが、実際に学校で触れられる、体験できるという楽器はあるのでしょうか。

○説明員 現在、市内小学校では、鍵盤ハーモニカとソプラノリコーダーにつきましては、個人所有の楽器として取り扱っております。このほか、学習指導要領では、それぞれの学年で取り扱う楽器といたしまして、オルガンなどの旋律楽器、木琴、鉄琴などの打楽器が例示されております。これらの楽器につきましては、各学校で整備されておまして、子どもたちは教科書にある合奏曲を演奏する活動を通して、それぞれの楽器に親しんで、体験しております。また、和楽器につきましても、琴や和太鼓などが学校に整備されております。各学校では、学習形態を工夫しながら、児童一人ひとりに演奏の経験を積ませているところでございます。

○宇田川久美子委員 2者から選ぶので、関連ではなくて、それぞれの最大のセールスポイントを教えてもらっていいですか。

○説明員 2者ともに、見開き、左上に課題文が例示されているというところでは共通しておりますが、特に、教育出版につきましては、児童に活動を誘発するような示し方になっており

ます。また、資料面、資料性というところで工夫が見られまして、様々な音楽が用意されております。指導する際は、これらの多様な音楽に精通した上で、児童の実態や指導のねらいに即して選択していくことで、児童の多様な音楽を経験させていくということができる教材となっております。

教育芸術社につきましては、何を学ぶかに加えて、活動の手順が示されております。活動の手順が示されていることは、音楽をあまり得意としていない教員でも、誰でも同じように授業が進められるという利点がございまして、低学年にとっては大事なポイントとなります。また、1年生から6年生までの系統性が、誰が見てもよく分かる構成となっているのが教育芸術社の特徴となっております。

○宇田川久美子委員 先ほど、理科のときに、先生の中で苦手意識があるというようなことがありましたが、音楽のような専科に対しても、そういう意識をお持ちの方もいらっしゃいますか。

○説明員 おります。専科でも、人がいないのでお願いします、ということでやっていただいている先生も中にはおりますが、やはりここではこういう学習をしていく、指導していくのだということが明確になっていて、手順が見えていて、とても指導しやすいと思います。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 図画工作」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 図画工作〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、図画工作科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、児童が主体的に活動し、自ら作り出す喜びを味わうことに課題が見られます。そのために、「つくる」と「考える」は一体化していることに留意しまして、児童が主体的に活動する時間を十分に確保し、自ら作りたくなるように、また表現したくなるように指導を充実させる必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、図画工作では、造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることと、主体的な活動を引き出せる題材の設定及び題材ページの特徴に視点を置き、「幼保小中を一貫した教育を充実させるための題材の設定の工夫」を観点にしました。

それでは、これから1学年、5学年、6学年の中から、主体的な活動を引き出せる題材の設

定について、電動糸のこぎりを使用する題材等を例にとって具体的に説明させていただきます。

初めに、開隆堂出版でございます。1、2年上巻の2、3、4ページをご覧ください。入学してきた児童が、小学校の図画工作の学習でどんな学習をしていくのか、具体的にイメージを持たせられるように活動している児童の写真を掲載し、小学校の学習へスムーズに接続できるよう、工夫が見られます。続いて、5・6年下巻の46、47ページをご覧ください。小学校のこれまでの図工の学習が中学校の美術科や技術・家庭科などの学習につながることや、中学校へ向けて、小学校で学んだ力をいかしていろいろなことにチャレンジできるように写真を掲載し、工夫しております。5、6年上巻の教科書14ページをご覧ください。「糸のこの寄り道散歩」という題材ですが、この題材で初めて電動糸のこぎりを使用して、作品づくりを行います。本題材では、「電動糸のこぎりの使い方を学び、自由に曲線切りした板の形の組み合わせ方を試したり、見付けたりして、作りたいものを創作する」活動を行います。この活動を通して、初めて扱う道具に慣れ、自由に板を動かして、電動糸のこぎりですべてを切るという技術を身に付けていきます。さらに、自由に切った形から様々なイメージを持たせて、自分の思いを作品に表していきます。これらのことから、「造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることのできる」題材と言えます。児童のやってみたい、作ってみたいという気持ちを持たせるために、題材名や、その下のリード文で本題材での大まかな活動をイメージしやすくしています。そして、学習のめあてを育てたい資質や能力の三つで示し、その言葉も「板の切り方や組み合わせ方を工夫しよう」というように、「〇〇しよう」と児童向けの表現となっています。

めあてに対する振り返りですが、三つのめあてから、本題材で最も大切と思われる一つに重点化し、「〇〇かな」と児童に投げかける表現とし、児童の主体的な活動を促すようにしています。題材ページの写真を見ますと、児童の活動場面やそのときの会話、制作しているときの表情や手の動きなどが、児童が発想や構想をするときのヒントとなっています。さらに、作品例のコメントや吹き出しなども児童が発想、構想していく上で重要なヒントとなっており、主体的な活動を促すような工夫が見られます。また、この題材で必要となる技能や作品づくりの手順も写真で紹介されており、分かりやすくなっております。本題材で扱う電動糸のこぎりや紙やすりの詳しい使い方、安全な使い方については、ページの下の方に、54、55ページを見るようにと書いてあります。54、55ページをご覧ください。こちらは写真や絵を大きく使い、児童自身が使い方を確認できるようになっており、安全面や片付けの方法も示してあります。さらに、各ページにQRコードが掲載されており、こちらをタブレット等で写しますと、題材の参考作品の写真や制作の手順の動画を見ることができるようになっております。この題

材は、この後、6年生の学習につながっていきます。5・6年の下巻40・41ページをご覧ください。これまで学んできた電動糸のこぎりなどの道具を使用して、さらに「ちょうつがい」の技術を紹介し、生活の中で役立つ入れ物を作製していく題材です。この「わたしはデザイナー 12さいの力で」という題材では、1枚の板から生活に役立つ入れ物を工夫して作る力を付けようとしています。このように電動糸のこぎりという一つの道具から、5年生から6年生へ系統性を持たせて、題材を配置することにより、これまで身に付けた技能を使いながら、その段階で求められる材料や用具の扱い方や技能について、系統的に指導し、その後の中学校の美術や技術・家庭につなげていくような題材設定の工夫が見られます。

続きまして、日本文教出版についてご説明いたします。1、2年上巻の2、3ページをご覧ください。入学してきた児童が幼稚園・保育園でどんな活動を行ってきたのか想起させ、小学校の図工でどんな学習ができるか期待を持たせられるように写真を掲載し、小学校へスムーズに接続させるための工夫が見られます。5・6年下巻の64、65ページをご覧ください。「中学生になるあなたへ」というメッセージ式となっております。小学校の図工の学習を振り返りながら、中学校の美術の学習に、また、技術・家庭の学習に期待を持てるような写真を掲載しております。5・6年上巻の20、21ページをご覧ください。「糸のこすいすい」という題材では、初めて取り扱う電動糸のこぎりを使って、板を自由に切り、次に切り込みを入れて組み合わせていくという活動となっております。開隆堂出版と同じように、電動糸のこぎりですべてを切るという初めて使う技術を身に付け、その形から様々なイメージを持たせて、自分の思いを作品に表していく学習です。「造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることのできる」題材でございます。特徴といたしましては、どの題材も共通して、一つの題材を見開き2ページで構成しており、左ページ上部に題材名、それから、その上に学習内容を示し、題材名の下のリード文で、児童が題材に対して興味・関心を高めるようにしています。その右側の黒板には、学習のめあてを育てたい資質や能力の三つで示しています。学習の振り返りとして、右ページの下に、活動を通して感じたことなどを話し合う際の参考となるものが示されています。題材ページの写真などを見ますと、制作の過程が左ページ上から下へ、そして右ページへ順番に示されています。また、児童が実際に板を切り出す様子や、切り出した形から組み合わせていくなどの制作している途中の写真や会話により、活動の見通しを持たせるようにしています。さらに、発想や構想のヒントとなる言葉も多くあり、児童の主体的な活動を促すようになっています。

技能面になりますが、切り込みの作り方が同ページに説明されております。電動糸のこぎり

の使い方や注意点については、巻末60ページの「使ってみよう 材料と用具」に写真やイラストを大きく使い、詳しく示されております。この題材の発展として、切った板を組み合わせ、絵に表す題材や、切った板を使って楽しく遊ぶものを作る題材が本教科書に掲載されています。使用しなかった板や電動糸のこぎりを使って新たな形に切った板を使って、新たな視点を持たせ、作品づくりをしていきます。6年生へのつながりですが、5、6年下巻の32ページをご覧ください。「1まいの板から」という題材で、1枚の板から無駄のない使い方を考えて、生活を楽しく豊かにするものを作ることをねらいとしています。「むだのない使い方」と示すことによって、高学年ならではの「計画性」をねらいとして高めています。ここでは、制作に当たって、アイデアスケッチを書いて計画を立て、工作用紙などで試しに作って組み立て方などを試し、無駄のない木取りにも配慮しながら工夫して制作する活動が期待されます。この題材からも、5年生から6年生へ系統性を持たせて題材を配置することにより、これまで身に付けた技能を使いながら、その段階で求められる材料や用具の扱い方、技能について系統的に指導し、その後の中学校の技術や技術・家庭につなげていくような題材設定の工夫が見られます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 教科書内にあるQRコードの活用方法ですが、そのQRコードは、授業の中で子どもたちに見ていただくのでしょうか。それともご家庭に帰って、作品集を見てくださという形になるのでしょうか。

○説明員 タブレットでそのQRコードを写すことが可能なところであれば、その場で見て、児童がその場で作っている様子であったり、実際に動くおもちゃを作ったときのおもちゃが動く様子だったりなど、制作の手順を見ることが可能です。また、環境的に難しい場合には、家庭で見ていただくということになります。

○小澤尚久委員 中には、温めているアイデアがあっても表出するのが苦手な子どももいると思います。そういう苦手意識のある子どもたちにとっても何か取り上げ方、投げかけ方として工夫されている場面や、逆に、得意な子どもたちはどんどん発展させていけるような、子どもたちへの支援として、有効なところがあったらいくつか教えてください。

○説明員 両者に共通して言えることですが、発想や構想することが苦手な児童は、この教科書の中に示されている完成作品のコメントや、会話の言葉のところをヒントにする、また、表情等を見て、作ってみたい、楽しそうだなという思いを持たせるようなことが挙げられます。

また、技能面で苦手な児童については、作業している手元がアップで写っている写真もあり、また、巻末の材料や用具の扱い方のページが、活動していく上で参考になっています。得意な子については、教科書の参考例から、それを更に工夫するような声かけ等によって、よりよい作品となるよう工夫していけると思われます。

○小澤尚久委員 それでは、両方の教科書とも同じようにそれぞれの子どもたちに配慮した工夫が、十分になされているということですね。

○説明員 はい。それぞれ表現の仕方は違いますが、その発想や構想のヒントとなるものが多く掲載されております。

○加藤由美委員 低学年の方で、生活の教科書の中にも紙コップで工作などをして、道具を使ったりすることがありますが、その使い方や生活の教科書と連動して、何かうまく使えることがあるのでしょうか。

○説明員 動き方を工夫したり、飾りを工夫したりというところで、表現するということが主にあります。生活科では、主に気付きなどの部分で、紙コップなどの使用法が示されていると思われます。

○宇田川久美子委員 電動糸のこぎりなどが出てくるわけですが、安全面への記載はそれぞれいかがですか。

○説明員 今回、両者とも非常に大きく電動糸のこぎりの使い方を写真やイラストで示してありまして、手の位置などが非常に見やすくなっていると思います。ですから、そこをしっかりと見ることによって安全面への配慮ができると思います。

○宇田川久美子委員 どちらの発行者も同じように安全面というところでは配慮されていると考えていいのですか。

○説明員 はい。開隆堂の方は安全面という部分で項目立てて、「安全」であったり、「かたづけ」というところが載せてあることが特徴としてあります。

○村田悦一教育長職務代理者 図画工作の前が音楽でしたが、草加市の児童の実態で、「音楽好きな児童が多く、歌唱・器楽とも意欲的に取り組んでおります」という話からスタートしましたが、図画工作は、「児童が主体的に活動し、自ら作り出す喜びを味わうことに課題が見られます」と説明がありました。草加市でも自尊感情や自己有用感を大事に、自分の書いた作品、作ったものに喜びを見出せないとしたら、大変な問題になってしまうと思いますが、最初の「課題が見られます」というのは、どういうところでしょうか。指導者の問題でしょうか。

○説明員 なかなか難しいところですが、教員の指導力の問題もあるかもしれませんし、道具

の問題など、いろいろなことが絡み合って、主体的な活動を促すような場だったり、時間が設定できないというようなどころも見られます。

○村田悦一教育長職務代理者 例えば、1年生の教科書の中を見ると、生活科と同じような形の「さわる」などがあります。内容的には、生活科が1、2年で社会、理科につながりますが、図画工作は1年から来て、中学で美術、技術・家庭へとつながるあたりが、なんとなく未分化です。中学では美術になって、その後、高校へ行けば書道、音楽、技術という芸術科の形になっていきますが、そのところがうまくいかないために、自分でやっていることの喜びが見出せないのかと、私は自分なりに解釈しています。先ほどの説明を聞くと、とてもいい教科書ですから、まだ使いこなせていないのかもしれませんが。そういう意味では、学校でもっと図画工作や生活科、あるいは他の教科との関連をいかしながら授業をしていかないと、図画工作のよさがいきていかないという感想を持ちました。

そういう意味では、視点としては、題材設定の工夫ということですから、教科書や実生活、あるいは生活科でやったことなどがうまく関連していけば、子どもたちは自分の作ったもの、書いたものに喜びを見出していけるかと思います。

○高木宏幸教育長 今の村田委員の発言に合わせますと、工作でも、いろいろな興味・関心を持って、こういうものを作りたい、こういうものを知りたいなど、そういったものはすごく大事だと思います。今、村田委員からありましたが、この開隆堂は、「あわせてまなぼう」というところで、音楽や国語、道徳というように関連付けている部分が、特に1、2年生にあります。日本文教出版はいかがですか。

○説明員 特に限定して書かれてはいません。

○高木宏幸教育長 この違いはどのように受け止めますか。特に記載がなくても、それは指導者側は当然意識しているという前提で、大きな支障はないのか。あった方がそういう視点を逃さないで、授業づくりにつなげることができるのか、どうでしょうか。

○説明員 やはり教科書の中に明示されている方が、教員もそうですし、子どもたちも、国語で関連されるんだな、国語も見てみようかな、という感じになると思いますので、非常に大事なことかと思います。

○宇田川久美子委員 例えば、開隆堂の1、2年上の8ページだと、「好きなもの いっぱい 食べ物、乗り物、動物、お花、いろいろ描いて楽しもう」というところに、「あわせてまなぼう」道徳と書いてありますが、ここで道徳の何を学ぶのですか。

○説明員 命や生き物です。あるものを大切にしていこう、好きなものを大切にしていこうと

いうようなところにつながっていきます。

○宇田川久美子委員 草加市の児童の実態のところ、「つくる」と「考える」が一体化していることに留意してということですが、「つくる」と「考える」の一体化とはどういう意味か、教えてもらっていいですか。

○説明員 児童がこの作品を作りたいという思いの中で、じゃあ、どういうものをつくろうかなと考えます。「つくる」と「考える」を一緒に、同様にしながら、主体的に表現活動を進めていって、作品づくりをしていく、作りながら考える、考えながら作るというようなことを一体化して、ということと捉えています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 家庭」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 家庭〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 家庭科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、家庭生活に関して、児童は調理や裁縫などの実習を好み、意欲的に取り組んでおります。家庭科の学習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けようという意欲は十分にあります。しかし、知識・技能の確実な習得には個人差が大きく、また、家庭科の学習が生活をより良くするという考えに結びつくまでには至っていません。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、家庭科における観点を次の二点といたしました。一点目は、「確実な知識・技能の習得」、二点目は、「実践的・体験的な学習活動」でございます。

各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。確実な知識や技能の習得につきましては、まず、教科書4ページ、「学習の進め方」をご覧ください。この教科書の特徴である3ステップでの学習過程が示されています。題材ごとに、(1)見つめよう、(2)計画しよう・実践しよう、(3)生活に生かそう・新しい課題を見つけようの3ステップ構成になっており、問題解決的に学習できるようになっています。15ページにステップ1、16ページにステップ2、22ページにステップ3が示されています。このような3ステップの学習過程によって、問題解決的な学習を進めることができ、基礎的・基本的な知識や技能が着実に身に付けられるように工夫され

ています。18、19ページをご覧ください。実習題材は、イラストや写真を多く使い、紙面の大きさから、見やすく、実習の流れがよく分かるようになっています。さらにDマークのついた部分は、調理や製作に関するデジタルコンテンツを活用した学習ができるようになっています。130ページをご覧ください。縫う・切るなどの作業的な学習の実寸大の資料が「いつも確かめよう」として巻末にまとめてあります。次に、95ページをご覧ください。本市の観点である「実践的・体験的な学習活動」につきましては、「生活を変えるチャンス！」のページで、学習したことをいかして家族のために家庭での実践ができるよう実践の進め方を例示し、意欲が高まるように工夫されています。続いて、124、125ページをご覧ください。草加市の幼保小中を一貫した教育の視点では、幼児や高齢者、外国から来た人との関わりを通して、共生の視点に気付くことができるよう配慮しています。最後に3ページをご覧ください。巻頭の目次の次に、「成長の記録」として2年間の学習内容の一覧表があり、学習の振り返りができるようになっています。

続きまして、開隆堂出版についてご説明いたします。確実な知識や技能の習得につきましては、基礎的・基本的な学習をスモールステップで積み重ねることで、着実に知識・技能を身に付けられるよう構成しています。まず3ページをご覧ください。題材ごとに学習の流れの3つのステップ、①見つける・気づく、②わかる・できる、③生かす・深めるとして、学習の進め方が示されています。10ページをご覧ください。各ステップに合わせてめあての提示があります。13ページにはチェック欄も設けられ、19ページには学習後の振り返りと自己評価を促し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように工夫されています。14、15ページをご覧ください。見開きで学習の流れが分かるようになっており、15ページ右上にあるQRコードによる動画や、実物大の資料、調理や製作の流れがつかみやすい横並びの配列などの工夫がなされています。実習の流れが写真と説明で分かりやすく表示され、安全面の注意が必要なところには、13ページにあるようにチェック欄が設けられ、しっかりと確認・振り返りができるようになっています。本市の観点である「実践的・体験的な学習活動」については、各題材の学習の終わりに「生活に生かそう」があり、学習したことをどのようにいかしたいかを児童に考えさせ、実践できるよう配慮しています。また、自分や家族の「生活」を見つめ直し、生活をより良くしていくストーリー性があります。続いて、76、77ページをご覧ください。「レッツ トライ 生活の課題と実践」において、課題解決のステップを示し、学習したことを振り返り、新たな課題を解決するための取組が実践できるよう工夫されています。最後に、126、127ページをご覧ください。草加市の幼保小中一貫教育の視点では、中学

校技術・家庭科「家庭分野」の学習内容が紹介されており、小学校の学習内容を振り返り、中学校の学習に対する見通しと、小学校と中学校の円滑な接続となるような学習のつながりが分かりやすく示されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○加藤由美委員 教科書二つの大きさが違って、ページ数も違いますが、大きいメリット、小さいメリット、デメリットがもしあれば教えていただければと思います。

○説明員 東京書籍は、大判でございますが、1ページ当たりの情報量は、東京書籍の方が多いです。開隆堂の方が1ページ、見開き当たりの情報量は多くないです。東京書籍は、先ほど申しあげましたとおり、「いつも確かめよう」というところで、手を当てると、ちょうど子どもの手と同じ大きさになります。開隆堂も、特に写真や絵を大きく使って、情報量は少ないですが、パッと見た感じは、子どもたちが内容に入りやすくなっています。

○宇田川久美子委員 先ほど安全についての話がありましたが、この両者の安全対策の記述について分かりやすさなどに違いがありますか。

○説明員 安全対策に関しましては、東京書籍は、題材の中で、安全指導マークというものを示して、注意を喚起しております。開隆堂は、安全に実施しようというガイダンスのページがあるほか、題材の中で、衛生も含めた安全マークで示しておりまして、安全の意識付けがなされております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど開隆堂の、「生活をよりよくしていくストーリー性」とはどういうことなのかをもう少し詳しくお願いします。

○説明員 この見開きのページのところを見ると、題材が配列されておりますが、例えば5年生が左のピンクのところ、右側のグリーンが6年生でございます。家族の生活、再発見、生活を支える家族の仕事というものについて、最初、仕事で、自分にできないかなというところから、お湯を沸かすところに入って行って、お湯を沸かして、お茶を飲み、それがゆでる調理につながっていき、ゆでる調理からというストーリーがあります。また、学校や地域の実態に応じて学習、年間指導計画でももちろん入れ替えをすることもありますが、このまま順番で行くと、その季節に合った学習をし、最後に「持続可能な社会を生きる」や「共に生きる地域での生活」となったとき、中学校での学習となっていくストーリー性があると感じています。

○村田悦一教育長職務代理者 小中学校は9年間、特にこの家庭科ですと、5、6年生、中学校の家庭、技術という学習が終われば、男子でも女子でも自分で調理して、裁縫して生活ができるという意味でのストーリー性、確実性は、そういう視点で見たときには東京書籍も開隆堂も変わらないのですか。これは小中の家庭科だけではなくて、中学校の家庭科も見据えた上でお聞きしているのですが、その辺は何かありますか。

○説明員 もちろん東京書籍も、最後は中学校に向けてということで、中学校に行って、こういう学習をしたり、自立したりしていくという文言が入っています。生活をより良くするというよりも、最後は、小学校2年間、中学校3年間の学習を終えたときには、生活の自立ということをとータル的に考えると、ゴールは同じところにあります。

○宇田川久美子委員 アレルギーについての取扱いはありますか。

○説明員 はい。アレルギーでございますが、両者とも食物アレルギーについての記載がございます。例えば、ゆでる材料として、今までは卵を使っていたのですが、新学習指導要領では、青菜やジャガイモなどを扱うことになりました。さらに、卵に関しては、ゆでる題材の調理の活用例として出ていますので、アレルギーに対して、やはり配慮をされています。また、開隆堂に関しましては、QRコードで読み込んだ際に、食物アレルギーとはどのようなものか、どういうものが危険なのかというパワーポイントのような資料も提示される仕組みになっています。17ページの上のQRコードがそれです。

○宇田川久美子委員 今のところで、東京書籍にはアレルギーに対してのQRコードなどはないのですか。

○説明員 東京書籍は、5ページのDマークが付いているものは、ここから読み取れるようになっておりまして、こちらを読み取ると動画が出てくるのですが、アレルギーに関しては、特にそちらで、パワーポイントのような動画資料で提示されています。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど意欲的に取り組んでいるけれども、個人差が大きいということが最初にありましたが、その個人差に対応しているとか、男女差も含めてですが、こちらの方が個人差への対応が随所に見られるとか、そういった違いや特徴的なことはあるのでしょうか。

○説明員 やはりどうしても個人差が出るのは、技能の習得に関しては、1回やっただけでできることを何回もやらなくてはいけないところだと思いますが、両者とも動画がありますので、例えば動画を見ながら、自分で何回も繰り返すことができます。1回で見ようと考えたと、例えば開隆堂であれば、「利き手はどちら?」、もちろん利き手も個人差がございますから、利

き手はどちらということで、技能の方で習得できるようになっておりますし、東京書籍の方も同じように、右と左の場合というように出ておりますので、個人差に対応は可能だと思います。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 保健」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 保健〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 保健の教科書についてご説明を申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童意識調査や草加市立小中学校体力向上推進委員会での調査において、健康な生活に運動や食事、睡眠が大切であると答えた児童の割合が全国平均よりも高いという結果が見られた一方で、実生活で実践されていない現状が見られます。

例えば、ほぼ毎日朝食をとってはいますが、バランスのとれた食事がとれていないことや、学年が上がるにつれて睡眠時間が確保できていないことなどが挙げられます。自分の生活を見直すことを通して、健康に良い生活について実践する意欲を持てるようにすることが課題であると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、保健においては、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培うことが必要なことから、「規則正しい生活の確立」といたしました。

各発行者の特色、特徴等について、各発行者の第3・4学年のものを例にとりご説明させていただきます。

初めに、東京書籍、「新編 新しいほけん」につきましては、まず、教科書の12、13ページをご覧ください。左上にあるように課題が明確に示され、「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」という学習の流れになっております。次に、14ページをご覧ください。「まとめる・生かす」のステップでは、キーワードを入れてまとめ、振り返りができるようになっており、課題の設定からまとめまでの流れに沿って授業を展開できる構成となっております。また、ステップごとに記述する欄があり、健康な生活についての理解と課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成が図れる構成になっております。授業終末には資料が配置され、学習したことを自分の生活にいかせるよう工夫されております。また、全体的にイラストや写真、資料が大きくレイアウトされ、配色が

見やすくなっていて、児童に分かりやすい教科書となっております。

次に、大日本図書、「たのしいほけん」につきましては、初めに教科書の6・7ページをご覧ください。各章の導入に学習をナビゲートするゲームを提示し、児童がその学習への興味・関心を高められるよう工夫されております。次に、10、11ページをご覧ください。1時間の学習内容が、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「活用して深めよう」という流れで、課題解決的な学習を展開できるようになっており、課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成が図れる構成となっております。また、ページ下にある「ミニちしき」では、単元に関連した役立つ知識を紹介し、学習したことを更に広げられるよう工夫されております。続いて、18ページをご覧ください。単元終末には、「もっと知りたい！」が配置され、発展的な学習に取り組める内容やウェブサイトが掲載されており、学びを更に深めるよう工夫されております。

次に、文教社、「わたしたちのほけん」につきましては、初めに、教科書の6、7ページをご覧ください。1時間の学習内容が「ふり返ってみよう」、「考えてみよう」、「新しい自分にレベルアップ」という流れになっており、初めの学習活動の「ふり返ってみよう」では、自分の生活を振り返る過程で課題を見付けられるよう工夫されております。次に、8、9ページをご覧ください。学習のまとめが、黄色いテキストボックスで示されていたり、重要な語句が太字で記載されていたりするなど、健康な生活についての基礎的・基本的な内容を理解できるよう工夫されております。また、「新しい自分にレベルアップ」では、学習したことを実生活でどのようにいかすのかを考えさせる場面が設定されていたり、16ページにありますように、単元終末の「わたしのけんこうせん言」では、学習したことを実生活で実践できるような場面が設定されていたりして、健康な生活を営む資質や能力を育成できるよう工夫されております。

次に、光文書院、「小学ほけん」につきましては、初めに、教科書の12、13ページをご覧ください。右上にありますように学習課題が明確に示され、1時間の学習内容が「はじめに」、「話し合おう・考えよう・調べよう」、「生かそう・伝えよう」という流れで、課題解決的な学習の構成になっております。「はじめに」では、自分の生活の振り返りから始まり、自分の生活の中から課題を見付けられるよう工夫されております。また、課題を解決するために考えたり調べたり話し合ったりする学習活動が設定され、思考力・判断力・表現力等の育成が図れる構成となっております。次に、14、15ページをご覧ください。「広げよう・深めよう」が配置され、動画やウェブサイトなど、学びを広げ深める資料が充実しております。また、近年の生活習慣や生活環境の変化、ストレスやインターネット被害など今日的な課題に対応した

資料やホームページアドレスが掲載されており、発展的な学習を支援するよう工夫されております。

最後に、学研教育みらい、「新みんなのほけん」につきましては、初めに、教科書の8、9ページをご覧ください。1時間の学習内容が「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」という流れで構成され、それが毎時間、見開き1ページで示されていることで、児童は見通しを持って課題解決的な学習に取り組めるよう工夫されております。また、8、9ページの下にあるように、いろいろなマークが記載され、詳しい説明や関連する情報、他の学年、他の教科の学習内容とのつながりが示され、学習内容と関連付けながら授業を展開できるよう工夫されております。次に、10、11ページをご覧ください。「もっと知りたい・調べたい」では、学習したことと関連した内容や発展的な内容が掲載され、学んだことが広げ深められるよう工夫されております。また、学んだことを実生活にいかせるようなシートがあり、健康な生活を営む資質や能力を育成するための工夫がなされております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 現代の中で、小学生でも心の病気などを訴える子も多いかと思いますが、そういうものの扱いは、各者、どのようになっているのですか。

○説明員 心の健康につきましては、5・6年生の教科書を見ていただきたいのですが、心の健康というところがございますので、そちらの中でも記載されてはいるのですが、最近、よく話題に上がってくる、例えばLGBTなどに関しては、まだ小学校では、具体的な言葉は教科書には出てきておりません。ただ、LGBTに関しましては、光文書院には、唯一、発展の中に取り上げられているところがございましたので、そこは他者にはなかったと、一番印象に残っております。場所は、光文書院の3・4年生の33ページをご覧くださいと思います。

「性についてのなやみ」というところで、これは他の教科書にはなかったかと思いました。

○宇田川久美子委員 性は分かりましたが、鬱などについてはどうですか。

○説明員 5・6年生の教科書で、最初の心の発達の中に、思春期における心の変化などが出てきますが、鬱という表現はなかったと記憶しております。ただ、心が落ちていくと、体にも不調が起きるといような内容は書いてあります。光文書院の16ページ、17ページと同じようなものが他の教科書にもあります。

○小澤尚久委員 中学校への接続という観点で、有効である内容や捉え方があったらいくつか

教えてください。

○説明員 中学校への系統性のあるというところで考えていきますと、どの発行者も発展的な内容ということで、それぞれ中学校で習うようなことが小学校の教科書にも記載されております。また、具体的に見たときには、大日本図書と学研教育みらいは、中学校何年生で学習します、という表記がありました。他のところについては、内容については書かれておりません。

○宇田川久美子委員 薬物乱用などでは何か特徴的に詳しく、分かりやすく書かれている教科書はありますか。

○説明員 やはり学習指導要領の中に入っていることがメインで書かれていますので、どの発行者でも同じように書かれております。発展的なところでも、中学校のつながりなどもございますので、小学校でやっているところと違うとは思いますが、大きな違いはあまりなかったと思います。5・6年生の教科書の最後の方のページに、薬物乱用等は載っております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほどの実態の中で、実践する意欲が持てるようにとありましたが、これは言葉を変えれば、主体的にということでしょうか。そういう意味では、資料が多かったり、書き込める場所があつたりしますが、草加の子どもたちに合っている、主体的に意欲を持って他の学習に取り組めるようなものは何かありますか。

もう一点、規則正しい生活の確立という視点は、5・6年の保健を見たときに、少し小さいのではないでしょう。保健学習の中で、もう少し健康全般を見ていくような形でないと、規則正しい生活だけでできればいいのか、逆に言うと、規則正しい生活すらできていないのかということになってしまいます。この辺の視点はいかがでしょうか。

○説明員 まず、規則正しい生活というところに視点を置いたのは、子どもたちの実態として、食生活はしっかりとしています、食べなければいけない、早寝早起きしなければいけないというところは、とても意識をしている実態はあるのですが、実際にそれが睡眠時間の確保であったり、又は食べる物の内容であったり、そういったところはあまり意識ができていないという実態がありました。そこを専門部会では重く捉えて、ただの「早寝早起き朝ご飯」ということではなく、具体的にしっかりとそれぞれができていくような子どもたちを育成していきたいということで、選ばせていただいております。

続いて、教科書に書き込んだり、ワークシートのようになっていたりということが、実態に合っているかどうかというところですが、実際に書き込みがある、なしのよさというところでも考えたときに、教科書の中に書き込むスペースが多ければ多いほど、それがワークシートの役割を果たすことにもなります。子どもたちは教科書だけがあれば、その中で自分の思いや考え

方も書いていきますし、他のワークシートを用意する必要がなくなりますので、1冊にまとまっていて使いやすいと感じております。

ただ一方で、ワークシートが増えてしまって、その内容を実生活に結び付けるところが多くなってしまいますと、どの発行者も「発展」というところで扱ったりしていますが、その内容はどちらかというと、保健で勉強したことを実生活でいかす特別活動などでよく指導する保健指導というところで行うものであったり、又は学習したところでいかすということで、ご家庭で取り組んでいただきたいような内容であったり、そういった書き込みを意識して作っているところも見受けられましたので、それをよしとするか、しないかというのはまた別かと思いません。一長一短あると思いますが、子どもたちからすると、どちらにせよ、教科書になれば、先生方が用意したワークシートなどを使いながら、自分の考えを持ったり、まとめたりしながら授業を進めていくということが保健学習であると感じております。

○高木宏幸教育長 5・6年の保健のところで、先ほども宇田川委員からご指摘がありました。健康という中で、心の健康という単元で、特に自分の悩みがあったときにどう気持ちを伝えるかや、心と体のつながりなど、今の思春期の子どもたちにとって、非常に大きな課題だと思います。心の健康という題材で各者が扱っていますが、より子どもたちの中にスーッと順序よく、スムーズにこの学習をしっかりと展開できるような工夫や、何か特筆すべき編集をしている発行者はありますか。

○説明員 やはり心の健康に関しては、資料等も多く載っております。どの発行者でも、単元で勉強してきた後の資料の部分にいろいろなケースが載っていて、それに対してのスクールカウンセラーが答えていたり、又は、現在プロとして活躍しているような有名選手の方々が、以前どうやって過ごしてきたかなど、心について学んでいくことなどが文章で書いてあったり、それぞれの工夫がございますので、どこが特筆というところは申し上げられませんが、各者、ただの学習内容として終わらせるのではなくて、いろいろ考える場面や、資料が付いております。

○加藤由美委員 睡眠を確保するというところで、今、情報社会で、子どもたちも6年生のほとんどの子が携帯電話を持っていて、携帯電話でラインを行い、夜中までお布団の中で見たり、それがいじめにつながったりすると思うのですが、その情報モラルについて載せているところはありますか。

○説明員 具体的に教科書の内容から少しずれた部分の補足や、関連した資料が載っているホームページのアドレスを記載している発行者がございます。例えば光文書院では、15ページ

にスマートフォンやタブレットの使い方など、生活にリンクするところがありますが、こういった内容のものがどの発行者にもあると思います。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校音楽、図画工作、家庭、保健の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、加藤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

音楽、株式会社教育芸術社6票ですので、株式会社教育芸術社といたします。

図画工作、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

家庭、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

保健、東京書籍株式会社3票、株式会社学研教育みらい3票、同数でございますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、教育長による決定となります。私は、東京書籍株式会社を選ばさせていただきましたので、東京書籍株式会社といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、午後3時55分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長 「小学校 外国語」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈小学校 外国語〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 外国語についてご説明申し上げます。

草加市の児童の実態でございますが、草加市学力・学習状況調査質問紙で、小学校5年生、約9割、小学校6年生、約8割の児童が「外国語活動の授業が楽しい」と回答しており、授業の中では、特に「友達と英語で話すこと」が一番楽しいと回答した児童が多くおりました。そこで、外国語に多く触れたり、外国語によるコミュニケーションを体験したりすることを通して、コミュニケーション能力の素地を育成することが必要であると言えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、「英語でのコミュニケーションを図る楽しさが体感できるような工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年のものを例にとってご説明させていただきます。

東京書籍株式会社につきましては、初めに2ページをご覧ください。八つのユニットと三つのテーマに分かれた「Check Your Steps」がございます。次に、3ページをご覧ください。この教科書の使い方が明記されております。具体的には63ページをご覧ください。三つのテーマのうちの一つ「中学校への扉を開けよう」の单元となっております。次に、64ページ、65ページをご覧ください。毎時間、最初に歌とチャンツを行い、中心となる活動を行って、最後に、巻末、「Sounds and Letters」を使って、文字指導を行う構成となっております。「Starting Out」で音に出会い、66、67ページの「Your Turn」で会話に慣れる構成になっています。「Starting Out」で出てきた音声を繰り返し聞いて、先生や友達とのやりとりを通して、繰り返し聞いたり言ったりして、語や表現を練習させるパートとなっております。68ページ、69ページの「Enjoy Communication」は、今まで学習してきた語や表現を使う活動で身に付けた力を見取るまとめのパートとなっております。70ページ、71ページ、単元の最後の「Over the Horizon」は、コミュニケーション活動と同じテーマを身近なことや他教科に

つなげ、外国の文化等を学べます。80ページをご覧ください。「Check Your Steps」のコーナーでは、ユニット7・8の「Enjoy Communication」の活動で使った巻末のコミュニケーションカードを添付します。作成したカードを振り返りながら、卒業記念の寄せ書きを作成し、スピーチを考え、発表するページとなっております。96ページをご覧ください。「学び方みつめた!」では、小学校で身に付けた言葉の力がつながるように学習を整理しております。別冊「Picture Dictionary」は、小学校3年生から6年生で扱うべき600語から700語や表現が1冊にまとめられています。次に、開隆堂出版株式会社につきましては、初めに表紙をお開きください。自分の学習を見通せる「CAN-DO マップ」がございます。Project 1、2は、身に付けた知識や技能を活用する単元となっております。具体的には75ページをご覧ください。6年生最後の取組として「感謝の気持ちを伝えよう。」という活動を行います。次に、77ページをご覧ください。「Let's Play 1」でスキット、寸劇を作成し、「Let's Play 2」で、できたスキットを発表します。78ページには、スキットをいかして、感謝の手紙をグループ、そして、個人で書き、「Let's Try」で、お世話になった人を招待して発表会をするといった活動となっております。次に、60ページをご覧ください。各単元では、単元の始まりで、目標とする活動が分かり、ゴールを意識しながら学習を進めます。「Let's Listen 1」で英語を聞いて、「Let's Chant 1」でリズムに合わせて英語を言って、「Let's Play 1」で英語を使って活動しています。続いて、62、63ページでは、聞く活動の後、「Let's Play 2・3・4」と、英語を使った活動がございます。64ページ、65ページをご覧ください。「Let's Chant」の後、「Let's Play 5」で、なりたい職業とその理由を尋ね合い、「Let's Play 6」で、職業カードを聞いて、その職業となりたい理由を考えて言う活動がございます。66、67ページをご覧ください。「Let's Listen 3」で英語を聞いた後、例を見て書き、「Let's Try」で将来の夢を発表します。右下の「ふりかえりをしよう」で学習の到達点を知って、次につながっています。巻末81ページの「文字に慣れよう」が単元ごとに設定され、読む、書くの基礎が体系的に養えるようになっております。102ページに、「中学校へつなげよう」という付録もございます。また、112ページには、「この教科書で学んだことリスト」があり、何ができるようになったか確認でき、学習内容を振り返ることができるようになっております。

次に、学校図書株式会社につきましては、初めに2、3ページをご覧ください。レッスンは10単元あり、3ページ下に記されているように、「Word Corner」では様々な単語を学び、「Project Time」という、学びを高めるコーナーが年に2回ございます。次に、103ページをご覧ください。レッスンの扉では、目標や学習の進め方が示されています。足跡一つ分が1

5分間で、モジュール学習にも対応できる構成となっております。105ページをご覧ください。上にStepとして、レッスン8の歌、Scene8が太字で示され、このページの学習内容が示されています。レッスンの1時間目から4時間目までは歌を歌ってから、104、105ページのような見開きのLesson Sceneの英語活動を授業の最初に繰り返します。106ページ、107ページをご覧ください。107ページのStepに流れが書いてあるとおり、最初に歌を歌って、Lesson Sceneの英語を聞き、「Let's Listen」と「Let's Chant」で目標表現を繰り返してインプットします。そして、左のページ、①音声を聞いて、後に続いて言う活動で1時間目を終了します。2時間目もStepに書かれているように、最初に歌を歌って、Lesson Sceneの英語を聞き、「Let's Listen」と「Let's Chant」を行い、右のページ、②聞く、ペアで伝え合う、③の(1)、音声を聞いて、単語を読む。(2)で音声を聞いて、英文を指で追う。④音声を聞いて、英文をなぞってから書き写して、2時間目を終了します。同じように、108ページ、109ページもStepで示されているように進みます。109ページ⑤では、学んだ表現を使った異文化や他教科関連の活動を行います。110ページをご覧ください。「Use & Check」でレッスンの総復習として、場面を変え、4技能をバランスよく取り入れた活動で学びを深めます。111ページには、5年生から話がつながっているイギリスを舞台とした「Shaggy's Story」が掲載されております。下段の「Check Time」で学びを振り返ることができるようになっていきます。

次に、株式会社三省堂につきましては、初めに4ページをご覧ください。「HOP」「STEP」「JUMP」という三つの大単元で学習を進めております。次に、77ページをご覧ください。「HOP」では大単元の全体像を把握して、学びの見通しを立てます。78ページ、79ページをご覧ください。「Panorama」は、その課のターゲットや表現や語句について、場面を通して出会います。80ページから、Part1、Part2、Part3と進みます。各パートとも、左ページ上段は、「Listen & Talk」で、ターゲットの表現を学びます。下段は、「Sound Chant」等で、語句や表現の練習をします。Part1のストーリーは、なじみのある物語を英語で味わいます。Part2の「Enjoy Reading」は、お話を聞きながら文字に親しみます。Part3の「Enjoy Listening」では、各パートで経験した表現をまとまりのある文を聞いて確認します。86ページ、「Write & Talk」は、経験したターゲット表現で、発表ややりとり、各活動を行い、レッスンのまとめとなっております。次に、98ページ、99ページをご覧ください。「JUMP」では、「STEP」で積み重ねてきたことをもとに自分のことを表現します。98ページ、「考えよう」では、グループの活動を基本として、主体的・協働的に学びます。「発表の準備をしよう」は、

大単元内のステップで経験してきた表現の中から自分の思いを伝える表現を考えます。「友達に伝えよう」でペアやグループで伝え、「伝えよう」で全体に発表するなど、大単元のまとめの活動となっております。100ページ、「JUMP 2」では、できなかったことを修正したり、友達の姿から学んだりしたことをいかせるようになっております。101ページの「CAN-DO リスト」、「英語でこんなことができた!」や、128ページ、「6年生で学習した主な表現」では、5・6年生で学習した主な表現を振り返り、児童の変容が実感できるようになっております。次に、教育出版株式会社につきましては、初めに2ページをご覧ください。九つのレッスンと二つの読み物、「Let's Read and Act」と国際理解コーナー「Let's Look at the World」がございます。次に、5ページをご覧ください。冒頭に1年間の目標を示し、英語でできるようになりたいことを考えるようになっております。86ページをご覧ください。見開き1ページで、まずは単元の目標を意識させ、「Let's Watch」で映像を見て、内容を捉えます。

「Let's Say It Together」で口慣らしをします。「Let's Think」では、気付きや思考を促す問いが設定されています。次に、88ページをご覧ください。「Let's Listen」で聞き、89ページの「Activity 1」でやりとりをする活動を行います。「Let's Think 2」では、友達の夢を応援する英語について考えております。90ページをご覧ください。「Activity 2」では、就きたい職業についてやりとりをする活動を行います。91ページの「Let's Read and Write」で読んだり、書いたりします。そして、単元の目標活動としての「Final Activity」では、学習した語句や表現を使い、やりとりや発表による発信活動を行います。ここで使用している風船シートは、巻末に自己表現のためのワークシートとして収録されており、児童の成果物として評価にいかせるものになっております。92ページをご覧ください。文字と音声のコーナー、「Sounds and Letters」で、音声と文字への気付きを促しております。93ページの「Review」は、復習と振り返りのコーナーとなっており、「レッスンをふりかえろう」では、三つの観点に沿って、達成度を確認し、次の活動につなげております。身近な学校生活に関するテーマや教科横断的な内容も盛り込み、特別活動、学校行事などとの関連を図った教材配列となっております。また、104ページをご覧ください。「Let's Look at the World」は、言語や文化、世界とのつながりを感じられる国際理解のコーナーとなっております。

次に、光村図書出版株式会社につきましては、初めに6ページをご覧ください。九つのユニットがあり、一つのユニットには、Hop!・Step 1・Step 2・Jump!という流れで学習が進みます。次に、94ページをご覧ください。右上の「Goal」にこのユニットでできるようになっていることを示し、そのGoalの下には各単元の目標が端的に示されています。94ページ左下の

「Story」は、見開きのイラストを手がかりにして、アニメーション映像を視聴し、内容をつかむ活動です。95ページ右下には、学習する語彙に楽しみながらなれる活動、「Let's play」が設定されております。96ページ、97ページのStep1をご覧ください。「Let's watch」で、ストーリーを見た一場面を見て学ぶ表現を確かめます。「Let's listen」で英語を聞いて、「Let's chant」で語句や表現になれる活動を行います。「Let's play」では楽しみながら語句や表現になれ、「Let's try」で、学習した語句や表現を使い、お互いの考えや気持ちを伝え合います。最後に、「Let's write」では、学習した語句の表現を書くことが設定されております。98ページ、99ページのStep2も流れは同じで、聞く活動から、徐々に話す・書く活動へと進んでおります。100ページ、101ページ、「Jump!」をご覧ください。慣れ親しんできた語句や表現を用いて、文字を指で追って読む活動や、世界の映像を見て話し合う活動を踏まえて、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動が設定されております。右下の「ふりかえろう」では、巻末の「CAN-DO」シールを使って自己評価するようになっております。

102ページ、103ページをご覧ください。単元末には「Fun Time」があり、文字の遊び、英語の歌等が紹介されております。114ページ、115ページをご覧ください。「Review

世界の友達」が、各学年に三つずつあり、世界の小学生12人が紹介され、児童の学習意欲や異文化理解への関心を高めております。116、117ページをご覧ください。巻末に、中学校へ向けて、英語の学習を続けていこうというページが2ページでまとめられております。次に、株式会社新興出版社啓林館につきましては、初めに表紙をお開きください。ユニットは八つございます。年間3回「REVIEW」として、学期のまとめのコーナーがございます。次に、74ページ、75ページをご覧ください。単元の扉では「GOAL」が示され、既習事項を使った即興的なやりとりや、新しい語句・表現の導入を行います。「Listen and Guess」で、聞いて推測したり、「Jingle」で、ユニットで使う単語や表現をリズムに合わせて言ってみたりします。76ページ、77ページをご覧ください。Part1では、ユニットで使う単語や表現を確認し、後の学習につなげます。78ページ、79ページのPart2では、更に新しい表現にも触れて、学習を進めます。このパートの「Activity」では、学んだ語句の表現を使ったやりとりの活動を行っております。二つのパートで聞くこと、話すことを中心とした活動を通して、学習事項の定着を図ります。80ページ、81ページをご覧ください。Part3では、それまで学習したことをいかして、ユニットのまとめとなる活動を行います。このパートの「Activity」では、発表の活動となっております。このように、段階的にインプットからアウトプット活動へつながるように構成されております。各パートの最後に書く練習があり、書くことに少しずつ

慣れていくことができます。82ページの「Looking Back」では、振り返りと自己評価を行うことができます。「Did you know?」のコーナーでは、日本と異なる外国の言語的・文化的な内容への気付きを促しています。83ページのように、単元末には、「Let's Read」や「Let's Read and Write」があり、単語を読んだり書いたりして、文字と音との関係を学習します。94ページをご覧ください。先ほど紹介しました年間3回の「REVIEW」のページでございます。復習問題で、知識及び技能を問う問題に挑戦したり、思考力・判断力・表現力等を働かせたりする活動を行うことができます。120ページをご覧ください。「Can-Do List」で、基本技能、5領域別の目標を確認でき、5年生、6年生でできるようになったことを振り返ることができます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 現行で使用している文部科学省の教材と何か大きく異なる点があるようでしたら教えてください。

○説明員 各者とも5・6年生が使用していた文部科学省の教材「We Can!」との対応が考えられております。

○小澤尚久委員 草加市の取組で、小学校5年生の9割、6年生の8割が楽しいと答えているというお話でしたが、今までの積み重ねをいかせるような教科書の内容、取組などがありましたらいくつか教えてください。

○説明員 平成30年度、令和元年度の2年間は、新学習指導要領への移行期となっており、5・6年生においては、現行の学習指導要領を踏まえた「Hi friends」と、新学習指導要領を踏まえた「We Can!」を併用して学習を行っており、どの発行者も「We Can!」とのつながりを踏まえた学習内容となっております。聞く、話すの活動が多く盛り込まれていて、新学習指導要領で新たに加わる読むこと、書くことの活動につなげております。書くことでまとめがなされている部分は、言語の定着において大変効果的だと考えておりまして、言語活動を通して、文字指導を行うことを大切に考えます。そのことを踏まえた上で、例を挙げさせていただきます。

6年生の書く活動について説明させていただきます。東京書籍、64ページ、65ページをご覧ください。5・6年生で、「Sounds and Letters」で、アルファベットや名前を中心に書く活動があり、6年生では、「Let's Read and Write」で、毎時間、モデル文を見ながら自分

のことについて書く活動がございます。

学校図書は、6年生の107ページ、5・6年生で単元の2時間目、4時間目、6時間目に、アルファベットの音の動きや目標表現を指でなぞったり、書き写したりする活動があり、110ページで、まとめの「Use & Check」でも書く活動がございます。

光村図書でございますが、6年生、97ページでは、「Let's Write」で学習した語句や表現をなぞったり、書き写したりする活動がございます。101ページのように、書く活動が含まれている部分もございます。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の児童の実態ということで、今までの外国語活動から、外国語科になるということで、5年生が9割楽しいと言っていたのが、6年生で8割に減ってしまっています。1割減っていることを英語の担当としてどのように考えていますか。また、中学校へ行って1年生で7割、6割、5割とだんだんと減っていってしまうのではないかとこの心配があります。英語は、週何時間授業をしますか。

○説明員 5・6年生の英語は週2時間です。

○村田悦一教育長職務代理者 週2時間で、1年間やっていくときに、内容が豊富ですし、これを教えるのが英語の専門ではない担任の先生です。もちろんALTがいますが、ALTは、草加ではどのように担任の補助、アシスタントをやっていくのかを、今の時点で教えてください。難し過ぎて目標が高いと、英語嫌いになってしまう心配があるのですが、この教科書を使えば大丈夫だというお話を聞いて、教科書を選びたいと思います。

○説明員 小学校の段階では、聞いたり、話したりする活動を学校で行うことが、とても大切だと考えております。5年生から6年生でなぜ外国語が楽しいという回答が低くなっているかということについては、小学校5年生は初めての出会いでございますので、期待感等もあると思います。6年生になり、英語に対しての期待感の部分で、少し減っているのかと個人的に考えております。

また、教科書については、聞くことから導入して、映像を見たりすることから始めていますので、むしろ言語の発達段階からすると、我々が小さいころから学んでくるのは、聞いて、話して、読んで、書くという順番で言語を習得していますので、その聞くことと話すことを中心にどの発行者も作成されておりますので、子どもたちの負担に配慮した構成になっていると考えられます。

○加藤由美委員 5・6年生で楽しいという意見が多かったのが、教科書ができたことによって、つまらないということに変わらないでほしいと思います。子どもの視点も大切ですが、英

語が苦手な先生方もいらっしゃるって、先生方の視点から見て、コミュニケーションがとても取りやすい教科書かどうか、そういった部分がありましたら教えてください。

○説明員 例えば、東京書籍の64ページ、65ページですが、「Let's Read and Write」で、毎時間、モデル文を見ながら、自分のことについて書き写す活動がごございます。89ページは、書いたことをまとめている部分になります。68、69ページの「Enjoy communication」では、Step1で、まず音声を聞いた後、声に出して読む、次に、さっき書いたセリフを声に出して読む、それを友達と交換して読む、といった活動が「Enjoy communication」で、Step2、Step3と進んでまいります。

さらに、80ページ、81ページで、巻末からユニット7・8の活動で使った巻末コミュニケーションを添付して、作成したカードを振り返りながら、卒業記念の寄せ書きを作成し、スピーチを考え、発表するページになっています。

開隆堂でございますが、6年生の37ページ、ペアで20年後の自分を想像し、同窓会の練習を行った後、38ページでは、世界で活躍する自分になりきって、20年後の同窓会をしようという活動につなげていくということで、活動を段階的に行っていきます。

学校図書は、右上に、Stepが示され、どのように進めるかということが先生方には見えると思います。英語学習の入門期に当たりますので、小学校段階では、音声によるインプットを最重要視していきまして、音声インプットをできる限り多く繰り返し、その中で子どもの気付きを促していることを基本的に行っています。

また、各発行者、先生方にとっても、子どもたちにとっても使いやすいように工夫されており、各発行者の特徴がごございます。

○宇田川久美子委員 去年、外国語の授業を見せていただいた時に、他の授業とは異なって、子どもたちの身振り手振りのコミュニケーション能力が高く、生き生きと活動している姿に驚いて、すごいなと思いました。これを伸ばしていけたらと思っていたのですが、このように教科書となってしまったことで、わくわく感のようなものが少なくなってしまうといけないと思いますので、わくわく感が特徴的にあるような教科書はありますか。

○説明員 どの発行者もわくわく感が持てるように、単元などで異なりますが、工夫はされております。

○高木宏幸教育長 現在、小学校は外国語活動で、これが教科になります。ここがまず大きな違いです。今は、外国語活動で子どもたちは英語に慣れ親しみ、楽しんでいることが数字に表れていて、ほとんどの子が楽しんでいます。その中心は音声による学習です。中学校の英語科

を見ると、どこでどんどん差がついてくるかという、文字が入ってきて、極端に言うと、アルファベットが入ってくる、子どもたちの中には、アルファベットの大文字と小文字の違いや小文字のbとdの違いなどでつまづくということがありますね。ですので、音声から文字に、言葉の習得の過程をなぞって行って、音声を重視しながら、英語学習を進めることによって、英語が大好きになっていくとつなげていくしかないと思います。小学校6年生の段階で、中学校に見られる英語の学力差が出てしまうと、これは狙っているところが違うと思うので、文字の導入と定着をどのようにしていくかが大切だと思います。教科書を見ると、5年生と6年生では、文字の入ってくる量が違います。3・4年生は外国語活動があり、その流れで5年生になるので、少し文字が、ペンマンシップが入り、6年生に行くと思いますが、特徴的だと思うのは、文字に入るところで、開隆堂は、「文字に慣れよう」ということで、教科書の後半に、5年生も6年生にも入れていて、分けています。これは大きな、他の発行者と違うところかと思いました。このように分けていることのメリットとデメリットありますか。5年生の教科書は6年生と比べると絵が多く、文字がだんだん後半に入ってくる流れになっていますが、5年生でペンマンシップという、大文字、小文字を学びますよね。その辺りの各教科書の文字の取り扱い方、特にこの開隆堂は分けて、「文字に慣れよう」と後半に分けて、ある意味で別冊のような形になっているようにも見えます。この辺りはどのような評価をしているのかお聞きします。

○説明員 発行者によって、特徴付けているものはございます。例えば、東京書籍でしたら、6年生の64ページ、65ページの「Sounds and Letters」で、アルファベットや名前を中心に書く活動があります。「Let's Read and Write」で毎時間、モデル文を見ながら自分のことについて書き写すといった形で取り込まれているのが特徴でございます。

開隆堂は、先ほどありましたように、後ろにまとまっております。

学校図書については、107ページや109ページのように、2時間目と4時間目と6時間目にこの文字を聞いて、単語を読んだり、英語をなぞってから書き写すことがパターン化されているのが特徴でございます。

三省堂につきましては、6年生の86ページ、「Write & Talk」で書く活動を取り扱っております。

教育出版、6年生の91ページ、風船シートがありますが、「Let's Read and Write」で読んだり書いたりする活動が、各単元末に設定されて、後ろにワークシートが付いております。

光村図書につきましては、6年生、99ページの右下に「Let's Write」というコーナーが

ございますので、学習した語句や表現をなぞったり、書き写したりする活動があります。

啓林館につきましては、6年生81ページの単元末に、「Let's Read and Write」で、アルファベットや書く活動があり、話したり、聞いたり、慣れ親しんだ表現を用いて、自分が言いたいことを選択して書く部分があります。開隆堂は特化しておりますが、書くことについては、それぞれの発行者が折り込んでいます。

○川井かすみ委員 辞書は使われるのでしょうか。中学生になってから辞書を使うのか、それとも5年生のうちから使っていくことになるのでしょうか。単語が分からなかったら、辞書を見て調べるといったことはありますか。

○説明員 基本的には、各発行者も単語については巻末に解説がございます。「Word List」という形で載っている発行者や、東京書籍の別冊で、「Picture Dictionary」があったり、絵辞典であったり、単元に沿うような形でカードであったりなど、様々でございます。

○川井かすみ委員 例えば、教科書に載っている単語が分からないということではなくて、先に耳で覚えて、その単語はこういう意味だと覚えていくので、全く辞書は使わないで耳だけで覚えるということですか。

○説明員 各発行者は、最初に使いたい語句については、映像や音声で繰り返し聞かせておりますので、文字として、辞書で調べる形で進んではいきません。

○川井かすみ委員 聞いて、その聞いたものと単語の意味が合っていないと、不安になることもあると思います。単語一つ一つについて、どこまで子どもたちに教えていますか。例えば、5年生の教科書で、耳で何となく聞いていけばいいのか、それとも書いてある単語の意味を全部覚えていかなければいけないのかというところで、あまりにも単語が多いので、教科書だけを見ると、不安になるかと思いました。分からない単語があるならば、どうやって調べるのか疑問に思ったので質問しました。

○説明員 小学校の学習指導要領で、書くことについて、まず定義を申し上げますと、まずは大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする、又は、語順を意識しながら、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにするということが一つと、あとは、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにするというものですので、両方とも音声を十分に聞くということで、書き写す、基本的な表現で書くことができるということでございますので、こちらの教科書で分からなかった単語を辞書で文字を見て探すという活動ではないかと思います。ですので、十分に聞くことや映像でインプットされるような

構成になっています。

○高木宏幸教育長 草加では、小学校の全ての外国語活動、英語科について、ALTとのチーム・ティーチング、あるいはチーム・ティーチングを組めるようなALTの配置をしておりますが、これは各者、このALTのこと、チーム・ティーチングの授業づくりに関しては、扱い方として扱いにくいとか、これは扱いやすいといったことはありますか。ALTのチーム・ティーチングを行った時に、この教科書だとすごく活動として、授業の組み立てがしやすいと思えるような編集をしている教科書というのは、どの発行者も工夫をして、そういったことに対応できるような編集になっていると理解してよろしいでしょうか。

○説明員 はい。各発行者、工夫されていると考えられます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「小学校 道徳」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈道徳科 道徳〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 道徳科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市では、「心豊かな児童生徒の育成」を掲げ、学習を通して「いのちの尊さ」や「いのちの大切さ」を意識させております。全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査等の結果からも、自尊心や自己肯定感を高めていくことが大切であると言われ、道徳を通して、少しでもそれらの力を高めていくことができればと考えています。

そこで、草加市の児童の実態を踏まえた調査の観点として、「『いのちの大切さ』を実感できる工夫」を設定いたしました。

次に、各発行者の特色、特徴についてご説明申し上げます。

初めに、東京書籍についてご説明いたします。4年生の41ページをご覧ください。「学校を幸せな場所にするのは、だれだろう」と挿絵をもとに児童に問題を投げかけています。それを受け、42ページでは、「わたしの見つけた小さな幸せ」という間接教材に取り組みます。46ページをご覧ください。「いっしょになって、わらっちゃだめだ」の教材を読み、実際のクラスの様子を想起させるようになっています。このように2時間を連続してユニット形式の学習にすることで、児童がいじめについて、より深く考えることができるようになっています。86ページ、87ページをご覧ください。「出会う・ふれ合う」というコーナーがどの学年も二つ設けられています。「あなたのやさしさにありがとう」では仲間のよさを感じられるよう

にしています。121ページ、122ページをご覧ください。ここでは「もっとこうすれば、きちんとできる」という内容で、自分自身の振り返りをするようになっています。「いのちの大切さ」に関しては、学年に応じた資料を各学年三つずつ取り上げています。低学年には、自分に関わる命、中学年には、命の連続性、高学年には、国際親善や戦争を題材に取り上げています。

次に、学校図書についてご説明いたします。学校図書は全学年、読み物教材でまとめられた「きづき」と、活動教材の「まなび」の2冊からできています。読み物教材の「きづき」4ページをご覧ください。「はじめのいっぽ！学級づくり」があり、より良い学級集団を形成することが大切であることに気付くよう工夫されています。読み物教材の「きづき」、6ページ右下をご覧ください。それぞれの教材の下にQRコードがあり、登場人物の紹介や補助資料を見られるようになっています。いじめの問題について、読み物教材の「きづき」38ページをご覧ください。教材「かたづけ当番」は、一人に片づけを押しつけてしまい、それに気付かずに遊んでいることについて、漫画で分かりやすく問題提起をしています。これを受けて、「まなび」の29ページには、自分の考えや友達の考えを書き、意見を交流しながら、公平公正について考えを深められるようになっています。「きづき」128ページをご覧ください。「ちょっと待って」では、情報モラルだけではなく、相互理解についても考えさせる教材になっています。

次に、教育出版についてご説明いたします。どの学年にもいじめについて学習する教材があります。4年生の36ページ、37ページをご覧ください。「分けへだてなく」という主題名で、いじめについて考えようとストレートに取り上げ、その後「プロレスごっこ」を読み、みんなで教材文を通していじめについて考えます。「いのちの大切さ」については、1年生は3教材、2年生から6年生までは2教材を連続させて配置し、ユニット形式で掲載しています。4年生の130ページ、131ページをご覧ください。命はどうして大切なのか、事前に話し合いをさせてから、「おばあちゃんとの思い出」について学びます。さらに134ページの「命—せいいっぱい生きる—」の教材を読み、生きたくても生きられなかった命のはかなさについて考えます。また、いじめや自殺にも触れて関連性を持たせる工夫があります。53ページをご覧ください。「やってみよう」のコーナーがあり、2人1組になって、挨拶をする側、される側のロールプレイを行うことにより、そのときの気持ちを考えさせることができるように工夫されています。73ページ、74ページ、75ページにも同様に「やってみよう」があり、謝りに行く場面を演じる体験を通して、そのときの気持ちを考えさせる工夫があります。

次に、光村図書出版についてご説明いたします。目次の前に詩が掲載され、全学年「みんな生きてる みんなで生きてる」で終わっている詩で、生命の尊重を意識させるようにしています。50ページをご覧ください。教材文の中にはQRコードがあり、教材文の音声、関連情報の外部リンクを紹介してもらえます。「いじめをゆるさない心」のコーナーが各学年に設定されています。4年生の41ページ、45ページ、49ページをご覧ください。「ひとりぼっちのYちゃん」では、続けて、45ページの「学級会での出来事」や49ページの「いじめを見つけたら」を連続して扱うことにより、いじめ問題に対して、様々なケースから考えられる工夫があります。「いのちの大切さ」については、三つの教材が掲載されています。104ページをご覧ください。「生き物と機械」の教材文があります。本物の犬とロボットの犬を通して、生き物の大切さと不思議さについて考えさせています。さらに「学びの記録」、66ページ、144ページ、186ページが学年、3か所設けられ、自分の成長を実感できるとともに自尊感情を育むよう工夫されています。

次に、日本文教出版についてご説明いたします。教科書より一回りサイズの小さい「道徳ノート」が別冊でついているのが特徴です。4年生の28ページをご覧ください。全ての資料の資料名の横に、主題やあらすじ、主な登場人物のイラストの絵が掲載されています。84ページをご覧ください。いじめ問題については、全学年において「いじめをなくすために」のコーナーを設け、いじめをなくすにはどうしていけばいいのか、考えさせるようになっています。「遠足の朝」に続いて、88ページ、89ページをご覧ください。「心のベンチ」、「なくそう！ いじめ」では、いじめについて話し合った後に、90ページの「いじりといじめ」の教材を読み、さらに学習を深められるようになっています。読んで考えて、更に読むというサンド形式の学習が工夫されています。104ページ、105ページをご覧ください。「友達のよいところさがし」ビンゴゲームが設定されています。ゲーム型の「心のベンチ」のコーナーが各学年に設けられ、意図的に友達とゲームを通して関わりを持ち、人間関係がつかれるようになっています。

次に、光文書院についてご説明いたします。10ページをご覧ください。いじめ問題について、4年生では最初に学習を始めます。新しい友達のことを知るにはどうすればいいのか、みんなで意見を交え、次の「みんなでやってみよう！」の言葉のキャッチボールができるようにするためのロールプレイを行い、温かな人間関係を形成しようとしています。「いのちの大切さ」に関しては、53ページをご覧ください。「みんなの命」の扉で、「命を大切にするためにできることってどんなこと」について、まず話し合いをしてから、「レスキュー隊」の教材、

156ページの「五百人からもらった命」を通して、さらに命の大切さについて掘り下げて考えるように工夫されています。資料の下部には、考えるためのヒントや大切な見方が書かれて、児童の思考を促すようになっています。巻末の折り込み式に「学びの足あと」を毎時間記入できるように設けられています。158ページをご覧ください。「ちびまる子ちゃんと考えよう！」が全学年に設けられ、「みんななかよし 楽しい学校」等のテーマで学年に応じた課題を提供し、意欲的に話し合いができるようにしています。

次に、学研教育みらいについて説明いたします。3ページをご覧ください。QRコードで、教材に関わる画像、動画、音声、外部リンク情報を引き出せるように工夫されています。教材のページにはマークが記されています。他の教科書と一番違うところは、教材文では、意図的に全ての学年において、主題名を記載しないことで、児童が自ら主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うよう構成されているところです。62ページをご覧ください。いじめ問題について、「山びこ村の二人」では、仲間外れについて考えさせています。66ページをご覧ください。「休み時間のできごと」では、身近な題材を扱い、69ページにある「つなげよう」で、「自分の使っている言葉をふり返ってみよう」の学習を通して、「いやな気持ちにしない・させないことの大切さ」を主体的に考えられるようにしています。「いのちの教育」を最重点のテーマとし、複数時間扱いのユニットとしています。4年生では三つの教材のうち、123ページの「ウミガメの命」で自然界の生き物について、続く「えがおのクリニックラウン」で命の尊さについて学習します。

次に、廣済堂あかつきについて説明いたします。教科書の中に組み込まれている「道徳ノート」が別冊になっています。いじめの問題については、53ページをご覧ください。「同じ仲間だから」の教材文には、仲間外れのことについて取り上げています。36ページをご覧ください。「相手の心によりそって」のコーナーでは、コミュニケーションの在り方について、話し合いを通して、より良い人間関係をつくることができるように学習を設定されています。続いて、76ページをご覧ください。「げんたの消しごむ」と「正しいことは勇気をもって」の2時間続きの学習を通して、人間関係がつくっていけるように工夫されています。「いのちの大切さ」に関しては、全学年で3時間を配当し、2時間連続で設置しています。「道徳ノート」をご覧ください。関係する一つから三つの資料記述部分があり、学級の実態等によって柔軟な使用方法が考えられるようになっています。ノートの24ページをご覧ください。心に残っている授業の記録として記述箇所が設けられています。また、最後のページに「心のしおり」があり、先生や家の人に見てもらった記録をする場所があり、家庭との連携が図れるようにもな

っています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 道徳は、感じ方や考え方はそれぞれだと思うのですが、評価をする場合の観点や支援はどのように考えて、評価をしていくのですか。

○説明員 授業の中で、メインになるところの主発問を教員は用意をしております。それに従って、子どもたちがその中でどのように考えてくれるのか、また、最初の段階では、アンケート等をとっていますので、事前の学習のところの子どもたちの様子、そして、授業を通してのメインになったときの自分ごととして考えたりもしながら、児童がそこで変容について考えていきます。また、評価等については、ワークシートやノートに子どもたちの言葉を書いたり、また、授業中の発表などから見取っていくことをしております。

○川井かすみ委員 そうすると、評価はどれだけ意欲的に考えられるかや積極的に関わっているかといったことになりますか。

○説明員 はい。また、授業の中で、最初の部分と授業が終わってから、こういう考えもあるんだと気付くことや他の友達と話し合ったり、考えを深めたりしながら、授業の中での変容というところも評価を上げていくようにしています。

○村田悦一教育長職務代理者 今の評価と関わる場所もあるのですが、草加市の子どもたちの実態の中で、自尊心や自己肯定感を高めていくということがありました。具体的には、道徳を通じて、自尊心や自己肯定感がどのように高まっていくのかが分からないのですが、どのような指導で自尊心や自己肯定感が高められるのでしょうか。

○説明員 道徳の勉強をしていく中には、内容項目がございます。その中で例えば、自分はあまりよさがいいという学校や学級の実態に応じては、個性伸長の学習の中で、より自分にとってよさや、それから、友達等の話の中で、自分にはこんな良いところもあったんだというような学習をすることができると思います。それによって、まず自己肯定感は、一つの学習を通して高めていくことが考えられると思います。

また、すぐに諦めてしまう子どもについては、粘り強さというところについて欠けてしまっていると思いますので、その内容を特化していきながら、頑張ることはこんな良いところがあるんだ、自分はこういうことはできないけど、これだったら頑張れるというところについて、学習を通して、又は、友達の中で、よさに気が付いていき、学習を進めることができると思い

ます。

○村田悦一教育長職務代理者 どの教科でも、主体的・対話的で深い学び、考え、議論する道徳という意味では、自尊心や自己肯定感が高まっていくと考えているのですが、特に今、主体的・対話的で深い学びを同じような内容で、同じような取り扱いなのでしょうか。あるいは、何か違いはあるのでしょうか。

○説明員 例えば、5年生の学習で、「すれ違い」というものがございます。学研教育みらいですと152ページ、光村図書では37ページ、学校図書では20ページ、日本文教出版については136ページ、これは全て同じような題材になっています。この中で、今までですと、一人の主人公に対して、この主人公の心の変容についていろいろ話し合っていくところでありましたが、ここの表記が一番分かりやすいのは、光村図書だと思いますが、光村図書の場合には、この段階で上にも下にも文章が書かれています。内容については、それぞれの発行者の表記の問題だと思いますが、今までですと、文章の中に一人の主人公について、その主人公の変容を追っていく学習であったものが、このようにお互いの立場の違う友達について、こっちの子どもであれば、どのように考えるのか、一方、こちらの場面だとどのような気持ちになるのか、それぞれの学習が主体的・対話的で、考え、議論するという視点からも活用することは可能かと思います。様々な発行者でこのような工夫がされています。ですので、この教材をもし扱うのであれば、どちらの主人公の話をしてみたいということで、意図的に自分が選ぶことができますかと思います。また、そうではなくて、お互いのこの時の気持ちについて追っていく、考えるという学習展開もできると思います。どのように話し合いたいのかを子どもたちと一緒に授業を組み立てていくというのも一つの方法としてはあると思います。

○高木宏幸教育長 「すれ違い」という題材で構成されている単元がありますが、これはそれぞれの教科書の違いがあります。例えば学研は、主題を書かないで、子どもたちにこの教材を通して、考えさせる。他の発行者、光村図書で言えば、「相手の立場」が書いてある。それから、日本文教出版も「相手の立場も大切に」と書いてあったり、さらに教科書によっては、読む前から、その教材のあらすじやリード文のようなものが書いてあるものもあります。これは、同じ「すれ違い」ということでも、この違いは、メリット、あるいはデメリットということに関しては、どのように受け止めますか。

○説明員 こちらは5年生の教材になってきますので、高学年になればなるほど、書いてある文章が長くなってきます。45分の中で授業をセッティングした場合に、これをいかに早く読み取ってもらい、どれについて話し合いをしていきたいかをタイトな時間で話し合いをしなければ

なりません。そうなったときに、経験の浅い教員の場合ですと、テーマが最初に書いてあることによって、読み進めていかなくても、最初のところで子どもたちが確認できて授業が進められるというメリットがあります。

一方で、もう既にテーマが出ているということになりますので、意見が最初に主題名などがあるがために、それが遮られてしまう可能性もあるということがあります。

逆に、ないことによって、子どもたちと一緒に授業を進めていくような授業のスタイルが、確立できることもあるかと思います。これは教員の経験値や教材分析をどれだけ行っているかということにも差が出てきてしまうということがあります。ですので、一概にどちらが良いとは言えないということがあります。

○加藤由美委員 情報モラルについて、各者の特徴がありましたら教えていただければと思います。

○説明員 今回の教科書では、どの発行者も情報モラルについては、非常に丁寧に扱っております。その中で、発達段階に応じまして、子どもたちの、例えば1年生ぐらいでしたら、これはいいのかなということで、友達のことを勝手に黒板にいたずら書きをするといったところから触れる内容もございます。発達段階に応じてということもあるのですが、高学年になりますと、携帯電話のトラブルも学校現場で発生しておりますので、そのことについて考えていく内容も多くございます。その中で、6年生の教材の中では、学研教育みらいの110ページ、こちらには、「会話のゆくえ」という教材で、携帯の画面で初めのうちは、「ねえ、みんな」と話をしていくのですが、後半になると、ある一人の子どもの悪口のようなものになっていき、このままでいいのかなと、投げかける教材も一つございます。

また、光文書院の同じく6年生でございます。こちらの48ページですが、「ほんとうに大丈夫？」の教材については、今までの学習に対してのユニット型のもので組み合わせ、教材を読んだから、52ページのように、資料に基づいて、みんなで話し合いをしていくようなものもございます。また、日本文教出版の56ページ、57ページでは、「心のベンチ」があり、辿っていけるようなものということで、いろいろな内容が、ただ読むだけではなく、それぞれの発行者によって扱うものの工夫がされております。

○村田悦一教育長職務代理者 主題名がないということについて、教員の視点から、学ぶ児童の視点で見ると、主題名のみなのか、いろいろとあらすじなどが書いてあったほうが主体的・対話的で深い学びができるのか、いかがでしょうか。それぞれの子どもの実態に応じたものが良いと思うのですが、どちらが良いとは言いきれないのでしょうか。先ほどは、教員の視点か

らのお話でしたが、子どもたちの視点から見ても同じですか。

○説明員 子どもたちの視点から見ても、あることによって、やはり妨げられることもあると思います。草加市の中でも学校がたくさんありますので、その学校の児童の実態に応じても違ってくるのかと思います。

○宇田川久美子委員 道徳ノートが付いている発行者がありますが、ノートがあることのメリットとデメリット、また、ノートの中で何か特徴的なことがあれば教えてください。

○説明員 道徳ノートについては、3者が別冊でございます。こちらのノートについては、発行者ごとに、その項目の教材に応じて、どのように学習をしていったら良いのか書き進めていくものもあれば、この内容項目について、いくつかのものが一緒になっている発行者もでございます。また、付いていない教科書につきましては、各学校で道徳ノートを活用しており、ワークシートや別に1冊のノートを用意して、学習の中で、例えばアンケート等で、友情についてはこのように思っているということが、学習が終わったときに、「じゃあ、今日の勉強でどんなことを感じた？書いてみて」と言って書くと、結構、上と下が変容していることが分かるものが多いので、そういうようなノートを使っているところも多くございます。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより小学校外国語、道徳の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、小澤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、小澤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

英語、開隆堂出版株式会社5票、学校図書株式会社1票ですので、開隆堂出版株式会社とい

たします。

道徳、株式会社学研教育みらい6票ですので、株式会社学研教育みらいといたします。
以上でございます。

○高木宏幸教育長 以上で、小学校用教科用図書の採択につきましては、決定いたしました。

現在審議しております第32号議案でございますが、本日の審議はここまでとし、中学校用教科用図書の採択につきましては、明日8月6日に引き続き審議を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、本日の審議はここまでとし、中学校用教科用図書の採択につきましては、明日8月6日の審議とさせていただきます。

○高木宏幸教育長 それでは、明日8月6日の日程について、事務局からお願いいたします。

○教育総務部長 明日8月6日火曜日の会議につきましては、時間は午前9時50分から、場所は本日と同じく、ここ文化会館第1・2研修室で引き続きお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

◎閉会の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、以上をもちまして、本日の委員会を終了いたします。

午後5時25分 閉会

令和元年8月6日(火) 午前9時50分 開会(草加市文化会館 第1・2研修室)

◎開会の宣言

○高木宏幸教育長 ただ今から、令和元年教育委員会第2回臨時会を再開いたします。

審議の途中となっております、第32号議案「令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について」、引き続き審議を行うことといたします。

◎議案審議

○高木宏幸教育長 ただ今から、審議に入らせていただきます。本日お配りしております「令和元年教育委員会第2回臨時会説明委員名簿」のとおり、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明員として出席させますので、ご了承願います。

◎第32号議案 令和2年度使用小学校及び中学校用教科用図書の採択について

○高木宏幸教育長 それでは、審議の途中となっております第32号議案ですが、昨日同様、まず、各種目の担当委員から選定資料について、報告をいたします。その後、その報告に対する質疑及び協議を行います。そして、採択を行いたいと思います。

それでは早速、「中学校 国語・書写」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 国語・書写〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、国語科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、草加っ子の基礎・基本を重点として、各中学校で指導を積み重ねています。全国学力・学習状況調査の結果から、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の基礎・基本の内容については、身に付いていることがうかがえます。しかしながら、「話すこと・聞くこと」において、目的を正確に捉え的確に話すこと、「書くこと」において、必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと、「読むこと」において、文章の展開に即して心情を理解すること、また古典に親しむこと、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことなどに課題がありました。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「言語活動を豊かにする工夫」、

「学校図書館の活用や読書指導の工夫」、「伝統的な言語文化（古典）の指導の工夫」、と設定いたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。国語科につきましては、各発行者の第1学年及び第3学年のものを例にとって、言語活動の工夫としてスピーチの取組例、また、伝統的な言語文化、古典の取組として、草加っ子が親しみやすい「奥の細道」を例に、説明させていただきます。

東京書籍につきましては、第1学年、115ページをご覧ください。「具体例を挙げて伝えよう」というスピーチ活動で、題材としてことわざを取り上げております。学習の流れを提示して見通しを持たせ、次のページ以降で、発音・発声の練習や選んだことわざについての交流、構成メモのつくり方、そしてスピーチ活動へとつなげています。次に第3学年、135、136ページをご覧ください。「奥の細道」の冒頭を2ページに渡って配置しています。上段に原文を大き目の字で、中段に色を変えて現代語訳を、下段に語釈を配置しています。また、137、138ページにある旅程図は折り込み式で、写真入で俳句を紹介し、裏面には江戸から平泉までの旅程の資料を掲載しています。発展学習として、143ページにありますように、「奥の細道」の表現の特徴について話し合う活動を取り入れております。

次に、学校図書につきましては、第1学年、43ページをご覧ください。自分のお気に入りについて紹介し合うスピーチ活動です。学習の見通しを提示した後、次のページ以降で、具体的な話題や構想メモが図で示され、また、スピーチメモや聞き手のメモの例が示されております。その後、コメントを交流するという活動につなげています。第3学年、178ページをご覧ください。「奥の細道」について、導入文の後に、冒頭部を179、180ページにまとめて配置しています。上段に原文を太字で示し、中段に現代語訳、下段に語釈を配置しています。行程につきましては、183ページにございますように、俳句の紹介を多く示しております。また、発展学習として、184ページにありますように、「芭蕉に短い手紙を書こう」という活動を取り入れております。

次に、三省堂につきましては、第1学年、25ページをご覧ください。「聞き上手、話し上手になるために」という単元を設け、次ページ以降で、「話す・聞く」のスキルアップをさせるために、1対1やグループになったのスピーチ実験を取り入れております。その後、紹介したい人物や大切にしているものをテーマにしたスピーチ活動につなげています。第3学年、118、119ページをご覧ください。「奥の細道」の冒頭を見開き2ページで提示し、上段に原文を大き目の字で、中段に現代語訳を青字で、下段に語釈を配置しています。122ページに

ありますように、行程図は半ページにまとめています。発展学習として、123ページにありますように、「学びを広げよう」を設け、「奥の細道」から1句を選んで紹介し合う活動を取り入れています。

次に、教育出版につきましては、第1学年、42ページをご覧ください。情報を分かりやすく伝えるために「フリップを用いて報告する」という活動を取り上げています。43ページには通学安全マップの例や構成の例を、44ページにはスピーチの例文を提示しております。第3学年、104ページをご覧ください。「奥の細道」の導入文を提示した後、旅程図を106、107ページに見開き2ページ、俳句を写真入りで紹介しております。「草加」の地名も記載されております。冒頭につきましては、108ページに1ページでまとめ、上段に原文、下段に現代語訳を配置しています。発展学習として、113ページの「深めよう」にありますように、印象に残った俳句の紹介文を書く活動を取り入れています。

最後に、光村図書出版につきましては、第1学年、56ページをご覧ください。「好きなものを紹介しよう」という活動を取り上げています。57ページからは、クラスの生徒に向けてどうスピーチを組み立てるべきか、スピーチメモの例を示すとともに、実際の場面の写真や絵、スピーチの例文をもとに、見通しを持って主体的に学習できるよう工夫しています。また、スピーチの前と後に交流の場を設け、言語活動の充実を図るとともに、「生活に生かす」で、日常生活の中での活用例を提示しています。第3学年、146、147ページをご覧ください。「奥の細道」の冒頭を見開き2ページで提示し、上段に原文を太字で大きく、中段に現代語訳、下段に語訳を配置しています。行程につきましても、148、149ページで見開きで示し、生徒の興味が高まるように俳句のイメージを写真入りで紹介しています。「草加」の地名も記載されております。発展学習として、154ページにありますように、古典の言葉を引用したメッセージを身近な人を書くという、生徒が古典に親しみを持てる言語活動の具体例を挙げて取り入れています。

最後に、現在使用している光村図書出版の使用実績につきましては、一つ一つの教材の初めと終わりに目標が示され、見通しと振り返りにおいて活用しやすく、また、言語事項において、説明や例、練習問題が適切に示され、生徒にとって理解しやすい構成になっております。

国語の説明は以上でございます。

続いて、書写の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、草加っ子の基礎・基本をもとに、各中学校では、書く姿勢や筆記具の持ち方、書体の違いに留意して、文字を正しく書けるよう指導しております。

市内硬筆展や書き初め展など競い合う場を設けての意欲の向上や、日常生活の中での書写の技能の向上に、学校ごとに工夫していることがうかがえます。しかしながら、書体の違いに考慮して字形や筆順、配置等に気を付けること、また、書写の時間に習得した知識や技能を日常生活における文字を書く場面にかすことが課題となっております。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてございますが、「学年間の系統的・計画的な指導との関連についての工夫」、「硬筆と毛筆との関連についての工夫」、「目的に合わせて文字を整えて書くことについての工夫」、と設定いたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

書写につきましては、各発行者の筆使いの習得のページと、学校生活で多く用いられる、新聞やポスターなど掲示物の書き方を紹介したページを例にとり、説明させていただきます。

東京書籍につきましては、12、13ページをご覧ください。楷書の基本点画について、見開き2ページで示しています。横画や縦画、折れなど九つの基本点画を「トン」「スー」「ピタ」と生徒がイメージしやすいオノマトペ、擬音語を使って示しています。筆圧については、穂先の状態を絵図で示すとともにポイントが説明されており、生徒の理解を助けています。44ページをご覧ください。職場訪問で学んだことを新聞形式でまとめた生徒作品を例に挙げています。この新聞の詳しい書き方を101ページで説明しています。101ページをご覧ください。新聞の基本的な書き方とポイントを端的に示し、生徒が新聞を作る際の参考になるようにしています。

次に、学校図書につきましては、11ページをご覧ください。基本的な点画の復習につきまして、小学校で学習したことの復習という形で1ページで示されています。「点」「右払い」「縦画」など八つの点画の基本について、「はねる」「払う」「とめる」など、ポイントを端的な語句で示しています。続いて、86、87ページをご覧ください。「書写を生活に生かそう」という単元を設け、修学旅行新聞や色紙を題材に、いろいろな筆記具の活用について説明しています。題名や大見出し、リード文、小見出し、本文について示すとともに、実際の生徒作品を示して、相手に伝えるための工夫をイメージしやすくしています。

次に、三省堂につきましては、9ページをご覧ください。「筆使いを確かめよう」ということで、九つの基本的な点画の筆使いを1ページで示しています。それぞれの点画について、「穂先」と「筆圧」のポイントを説明し、生徒の理解を助けています。また、毛筆で書くときの三つのポイントとして、「穂先」「軸」「筆圧」について、絵図で示して説明しています。新聞形式につきましては、40ページをご覧ください。本の紹介として「はがき新聞」を一例とし

て挙げています。続いて72ページをご覧ください。このページでは、掲示物、校内合唱コンクールのポスターを例に挙げて、どのように書き方を工夫するのかを考えさせています。ワークシートを使って、書く内容や用紙、筆記具を決めたり、83ページにありますようにレイアウトの工夫を分かりやすく説明したりしています。

次に、教育出版につきましては、12、13ページをご覧ください。基本点画の種類と筆使いについて、見開き2ページで示して、小学校での学習を振り返っています。筆圧の違いを、1の力、2の力、3の力で示し、生徒が実感できるよう、実際の筆使いの写真で示しています。また、実際の漢字を例にした部分を示しながら、九つの基本点画についてポイントを示しています。続いて96ページをご覧ください。目的や必要に応じて効果的に伝えることを目標に、新聞形式で地域を紹介する学習を取り上げています。文字の大きさや割りつけの工夫、筆記用具の使い方など、読みやすく書くポイントの説明があり、生徒がイメージしやすい内容となっています。

最後に、光村図書出版につきましては、6、7ページをご覧ください。点画の種類と筆使いについて、小学校で学習したことを確認しながら、見開き2ページで示しています。筆圧と線の太さについては、1の力、2の力、3の力の違いを生徒が実感できるよう、実際の筆使いの写真で示しています。また、全ての例にこの「1、2、3」と筆圧を示すとともに、実際の漢字を例にした部分を丁寧に示すことで、生徒はイメージしやすく、系統的で確実な基礎・基本の習得を目指しています。続いて72ページをご覧ください。新しい情報を、より多くの人に伝えたいという目的で、職場訪問を題材にした職場訪問新聞を取り上げています。生徒の作成した実物の新聞をもとに、「見出し」「リード文」「記事」という新聞の3要素について理解を深めるとともに、文字の大きさや目立たせ方、図や表を用いてのレイアウトなど、読みやすく整えて書くために大変参考になると思われます。

最後に、現在使用している教育出版の使用実績につきましては、「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」などの項目があり、生徒にとって学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動ができる構成になっております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 現行で使われている教科書の良い点を何点か、現場の声として挙げてくださったのですが、逆に、改善を望むというような声があったら教えていただきたいのが1点と、

もう1点は、小学校から中学校への連携として工夫されているような内容がありましたら、教えていただきたいと思います。

○説明員 まず1点目の、改善が望まれるという点についての声ですが、これについては私のところには耳に届いていないというのが現状です。

2点目の、小学校と中学校の連携という、接続という観点から効果的な例ですが、いずれの教科書におきましても、小学校で学習した学習内容を中学校でいかせるように、学習内容に系統性を持たせています。

具体的には、東京書籍では、巻末の資料編に「学習を始める前に」という項を設けて、1年生の教科書でございますが、ノートの書き方や情報の調べ方など、中学校での国語学習を進めるための基本事項を適宜確かめられるようになっております。巻末の資料編の「学習を始める前に」という項を設けているということです。266ページ、267ページです。具体的にノートの書き方、情報の調べ方など、中学校での国語学習を始めるための基本事項を適宜確かめられるようになっています。

学校図書につきましては、これも第1学年の教科書になります。冒頭のところで、中学生が小学校2年生で学習しました「スイミー」の勉強を思い出し、話し合いをしているという文章を提示しています。冒頭の2、3ページです。「新しい言葉の学びへ」ここで、小学校2年生で学習しました「スイミー」の勉強を思い出し、中学生になってから話し合いをしているという文章を提示しています。その中で、中学生に成長してからの読みの切り口、あるいは理解の深さというものを実感させ、今後の中学の国語学習への意欲を高めさせている例が挙げられます。

続いて三省堂でございますが、これも第1学年です。「ペンギンの防寒着」という教材が提示されております。32ページになります。この「ペンギンの防寒着」という教材で、小学校で学習した説明文の基本構造を確認できるようにして、その後、次につなげるものとして「クジラの飲み水」、次からの教材になりますが、この説明文教材で、段落相互の関係に着目させながら、文章の展開を捉えるという中学生の学習につなげております。

続いて教育出版ですが、これも第1学年になります。学年当初の冒頭の「言葉と出会う」という解説の中で、ページ数でいうと13ページです。その「言葉と出会う」のページをめくっていただいて、16、17ページになりますが、そこに解説が載っておりますが、そこで、小学校で学んだこと、中学校で学ぶこと、これを対比させ、小学校でどんなことを学習したのかを振り返らせ、そして中学校で新しく学習することを具体的に提示しております。

最後に光村図書出版についてですが、これも1学年の教科書、年度当初の授業開き等で使えるところですが、「言葉に出会うために」という教材が提示してあるページです。13ページからになります。大体、1年生の最初の授業開きで使いますが、学習の基礎・基本を確認できるように、この教材を提示しております。ページをめくっていただいて、このような解説の中で、ノートのとり方を具体的に示したり、24ページ、「続けてみよう」という教材、これは小学校の教科書にも載っているのですが、同じような内容で、小学校の教科書との連携を図っているというのがあります。小中の連携という観点からは以上でございます。

○加藤由美委員 各者の最後のところに、常用漢字であったり、資料であったり、言葉の学習であったり、いろいろと載っているのですが、各者に特徴はありますか。

あと、先ほどご説明でありました、光村図書はうまく活用されているのでしょうか。

○説明員 巻末の資料についてですが、漢字や文法事項その他の内容につきましては、各者それぞれの言語活動等が有効に活用できるようにという方針で、しっかり載せられていると思います。また、文法事項等につきましては、巻末だけでなく、教科書の時々分割して入っていたりして、最後に巻末で、そこを見れば文法事項は書かれているという工夫がなされています。

光村図書につきましても、そのような工夫がなされており、しっかり活用されているというのが現状でございます。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市では、草加市子ども読書活動推進計画を推進しているわけですが、特にそういう意味で、どこの教科書も読書へのいざないというか、それはあると思うのですが、何か特徴的にあるところがあれば教えてください。

○説明員 いずれの発行者につきましても、図書館の使い方や読書紹介等で読書を紹介しております。單元ごとに並行読書を紹介していたり、まとめて読書案内、あるいはブックトークのページを設定したりして、読書指導の工夫をしているところです。

○宇田川久美子委員 現行の光村図書ですが、ページ数が上に付いています。私は、国語で上に付いているのは違和感がありました。特に問題はないと思うのですが、何か、上に付けている意図みたいなものがあるのでしょうか。

○説明員 現場からは特段、そのような声は上がっていませんでしたが、慣れてしまえばというところかと思えます。

○宇田川久美子委員 慣れてしまえばと思うのですが、何となく、国語科だからなおさら、上に付いているのは不思議でした。特に問題はないと思うのですが、発行者の意図として、ページを上にするということは特にないのですか。

○説明員 そこまでは確認できておりません。申し訳ございません。

○高木宏幸教育長 先ほど、古典ということで、「奥の細道」の題材について、各者特徴を比較していただきましたが、細かいことで、「草加」が入っているのは2者だけなのですが、「奥の細道」に草加の帖があって、これはやはり、子どもたち、我々にとっても宝なので、これをいかした指導をされていると思うのですが、同時に、この「奥の細道」の原典、現代語訳や、どういうふうにとどった、そこで詠んだ俳句など、この光村図書の配列というか構成、使用実績で説明をいただきましたが、この配列、構成というのは、学校現場ではどのように評価されているのでしょうか。

○説明員 光村図書出版に関しましては、使用している教科書というのもありまして、現場からの声も結構上がっております。非常に、古典については分かりやすい、扱いやすいという先生方の声は聞いております。そんな中で、取り上げている「奥の細道」の中のものにつきましては、子どもたちにとってもなじみやすいので、理解が深められる教材であると声が上がっている報告があります。

○村田悦一教育長職務代理者 書写で、視点にも、硬筆と毛筆との関連についての工夫ということで、これは小学校3年から毛筆は始まるわけですが、今度は1年生から毛筆への前段で水書書きというものもあります。中学生になって、硬筆と毛筆との関連は実際の授業などは、小学校から中学校に来た子どもたちに、本当に関連した指導がいきってきているのでしょうか。これは教科書というよりも、実際に子どもたちが日常生活における文字を書く場面にかかすことができているという課題にもあったので、その辺りについて何か特徴的なことがあれば教えてください。

○説明員 中学校でも、毛筆を書写の時間に取り扱っております。実際、各学期ごとに、あるいはちょうど年末年始の書き初め等で、実際に競書会などを設けたりする学校もあるというところですが、硬筆との関連といたしますと、やはり日常生活では硬筆を中心にノートを取っております。その中で、書写の中での役割としては、中学校での書写科の目標でもあります、書き方や形などを理解して、効果的に文字に関心を持たせて指導していくということを、各現場では行っているところです。

○高木宏幸教育長 他にご意、ご質問はございませんか。

それでは、次に「中学校 社会・地図」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 社会・地図〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 社会科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、作業的な学習や調べ学習には意欲を示しますが、調べた内容から自分の考えを持つことや、自分の言葉で表現する力、また資料を読み取り、それを活用して多面的・多角的に考察する力が課題でございます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図について、それぞれ次のように設定いたしました。

地理的分野は、「地理的な見方や考え方の基礎を培う工夫」、歴史的分野では、「資料や知識に基づき、多面的・多角的に考察する工夫」、公民的分野では、「国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う工夫」、最後に地図ですが、「地理的な見方・考え方の工夫」といたしました。

学習指導要領における目標にもありますとおり、社会科は、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察することが大事であり、教科用図書はそのための手段として使用いたします。つまり、学習課題を解決するために、資料を適切に収集・選択・処理・活用し、それらの資料に基づいて多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を身に付けさせることが大事です。したがって、教科用図書がどのような資料を掲載し、いかに生徒に多面的・多角的に考えさせることができるのかが、ポイントになると思われれます。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

初めに、地理的分野について申し上げます。各発行者の、日本の山地や平野、河川について記述している単元を例に取り、ご説明申し上げます。

地理的分野については、4者ともに、見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。学習課題が左上、学習内容の振り返りが右下に設けられております。振り返りについては、各者で特色があります。2段階で更に深めるように設定されているものもあります。

それではまず、東京書籍ですが、144ページから147ページをご覧ください。この単元では写真資料が多く、地形の様子がよく分かります。147ページの扇状地と三角州は、写真と地形図を並べて掲載するなどイメージを持ちやすく、地理的な見方の基礎が学習できるという工夫がされています。147ページの上に掲載されている地形の分類表も特色です。教科書全体を通して、写真・地図・表・グラフ等が豊富に掲載され、更にそれぞれの資料についての説明が詳細で、読図や作図などの技能を高め、調査学習を進める上での資料が充実しています。

次に、教育出版ですが、140ページをご覧ください。地図などの資料が大きく、見やすいのが特色です。140ページの扇状地や三角州、リアス式海岸など、代表的な日本の地形を示す写真が効果的に掲載されており、イメージが持ちやすくなっております。教科書全体を通して、写真・地図・表・グラフ等が豊富に掲載され、見開き2ページの左上の導入資料には「見よう」というコーナーで詳細に資料が説明されています。

次に、帝国書院ですが、134ページから137ページをご覧ください。写真資料が大きく見やすいので、地形の様子がよく分かります。137ページには、写真とイラストから「扇状地とその利用」「三角州とその利用」についての解説が効果的に掲載されています。

教科書全体を通して、写真・地図・表・グラフ等が豊富に掲載され「資料活用」というコーナーで資料に関する問題を提示し、資料のポイントとなる点を押さえています。

最後に、日本文教出版ですが、134ページをご覧ください。地図が大きく、見やすくなっております。134ページに、扇状地、三角州の写真が掲載されています。漫画のキャラクターが具体的な学習課題をコメントしています。また、日本の全山脈・山地及び全ての平野を掲載しているのが特色です。教科書全体を通してでは、「スキルup」というコラムで、地理的学習を進めるに当たって必要な技能を系統立てて習得できるように構成されています。

最後に、現在使用している東京書籍の使用実績につきましては、掲載されている写真や地図・グラフ等の資料の質が高く、授業での取り扱いがいろいろと工夫できることが挙げられます。また、各章の冒頭のページで小学校との学習を関連付けたり、世界や日本の諸地域では、単元の学習テーマを確認したりと、挿絵で登場する先生と生徒の会話が様々な場面で役に立っています。

地図については以上でございます。

次に、歴史的分野について申し上げます。歴史的分野については、各発行者とも、「鉄砲とキリスト教の伝来」について記述している単元を例にご説明いたします。

歴史的分野につきましては、8者ともに、見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。そのうちの1者が、2章から生徒自ら課題を設定して取り組むように構成されています。

学習課題が左上、学習内容の振り返りが右下に設けられております。振り返りにつきましては、各者で特色があります。2段階で更に深めるように設定されているものもあります。

それではまず、東京書籍でございますが、104ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2ページで七つの資料が掲載されています。

他社との比較では「キリシタンの増加」のグラフが特色となっております。それぞれの資料についての説明が詳細で、1 単元ごとのメインの資料についても、案内役の人物が資料についての問題を提示しております。104 ページの下には、時代のスケールが掲載され、どの時代になるか分かるように工夫されております。教科書全体を通してでは、109 ページに掲載されているように「歴史にアクセス」のミニコラムや、「私たちの歴史的探検隊」「深めよう」など多種多様な資料を計73のテーマを随所に掲載しております。

次に、教育出版でございますが、94 ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、東京書籍と同じく2 ページで七つの資料が掲載されております。他社との比較では「キリスト教の広まり」の図が特色です。それぞれの資料についての説明が詳細で、さらに、小学校で学習した人物資料と、中学校で学習する人物資料の違いを表示しております。94 ページの課題の上には、世紀を表したスケールが掲載されております。教科書全体を通してでは、「郷土の歴史を探ろう」が5つのテーマ、「資料から歴史を探ろう」が5つのテーマなど、見開き2 ページの特設コーナーで資料を計49テーマ掲載しているのが特色です。

次に、清水書院でございます。98 ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2 ページで五つの資料が掲載されております。資料の中にコラムが掲載されております。教科書のサイズは、他者と比べると小さいため、資料も比較的コンパクトにまとめられています。単元タイトルの横に学習のめあてとなる課題を明示しています。さらに、学習した内容を文章でまとめたり、表に整理したりするための課題を最後に示しています。教科書全体を通してでは、「もっと知りたい歴史」や「歴史のとびら」「地図で見る世界史」など、ミニコラムを中心にして、様々な資料を計43テーマ掲載しております。

次に、帝国書院でございます。90 ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2 ページで六つの資料が掲載されております。他社との比較では「銀の動き」の資料が特色です。90 ページ、91 ページには、地域の歴史を紹介した「地域史」というコラムが掲載されております。教科書全体を通してでは、72 ページにある「タイムトラベル」で、見開き2 ページを使って時代のイラストが描かれ、本文との関係が分かるように記載されています。ミニコラムを初め、様々なコラムを計80テーマ掲載しております。

次に、日本文教出版でございます。104 ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「ザビエル肖像画」など、1 ページで三つの資料が掲載されております。他者との比較では「鉄砲・キリスト教と信長との関係地」を示した図が特色です。また、104 ページの左側には、

縦に時代と世紀のスケールが掲載され、この単元がどの時代なのか分かるように工夫されています。単元のメインになる資料について、案内役が資料の内容について問題を出しています。教科書全体を通してでは、「でかけよう地域調べ」「歴史を掘り下げる」「プラスα」など特設コーナーやミニコラム等、計58テーマの資料を掲載しております。

次に、自由社でございます。114ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2ページで五つの資料が掲載されております。教科書のサイズが小さいため、資料は比較的コンパクトになっております。単元タイトルの下に、その時間で学習する内容の見通しを持つための課題を明示してあります。単元の学習で押さえない要点を問題形式にして示しています。教科書全体を通してでは、「もっと知りたい」「人物クローズアップ」「外の目から見た日本」など、見開き2ページの読み物資料を中心に計35テーマ掲載しています。人物に焦点を当てた資料が多くあります。

次に、育鵬社でございます。106ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2ページで五つの資料が掲載されております。107ページには「歴史的にビュー」があり、本文の内容に関わる事項について解説しているところは、他者とは違う構成になっています。教科書全体を通してでは、各章の導入ページとして「歴史的絵巻」があり、これからの時代の学習の大きな流れを読み取ることができ、更に本文との関係も示されています。単元内容をより詳細に発展させた読み物資料が特徴で、「歴史ズームイン」「人物クローズアップ」「なでしこ日本史」など計64テーマ掲載されています。

最後に、学び舎でございます。96ページをご覧ください。「南蛮人渡来図屏風」や「火縄銃」、「ザビエル肖像画」など、2ページで五つの資料が掲載されております。単元のタイトルの上に大きな資料があり、この資料を第1セクションとして、ここから感じたり疑問に思ったりしたことを出し合い、課題を立てるような構成になっております。98ページにあるような、「フォーカス」という歴史の舞台に焦点を当てたコラムが掲載されています。教科書全体を通してでは、大きさが8者の中で一番大きく、文字や資料等も大きく見やすいのが特徴です。第1章では学習課題が記載されていますが、第2章以降は生徒の疑問から課題設定するような工夫がされております。

最後に、現在使用している東京書籍の使用実績につきましては、見開き2ページで1時間の授業構成になっております。左ページの上には本時の学習課題、右ページ下には振り返りの視点が掲載されているので、取り扱いやすいです。また、小学校との関連や資料同士の比較ができますので、理解に役立つことができます。

続きまして、公民的分野について申し上げます。各者とも、「地方自治」について記述している単元を例に説明いたします。

公民につきましては、7者ともに、見開き2ページが1時間の内容となっており、問題解決学習の構成となっております。学習課題が左上、学習内容の振り返りが右下に設けられています。振り返りについては各者で特色があります。2段階で更に深めるように設定されているものもあります。

まず、東京書籍でございます。102ページから109ページをご覧ください。写真資料を中心に、図、グラフ、表など、4時間の扱いで27の資料が掲載されております。102ページの「公民にアクセス」、107ページの「公民にチャレンジ」は、学習内容を深め、主体的に学習を進めることができるための資料となっております。教科書全体を通してでは、資料が豊富で、章の初めには、その章を特徴付ける資料を掲載し、話し合い活動を通して、公民として必要な基礎的な事柄について考えるような構成となっております。

次に、教育出版でございます。106ページから113ページをご覧ください。グラフ資料を中心に、写真、図、表など、4時間の扱いで25の資料が掲載されております。109ページには「公民の窓」があり、単元の学習に関連している資料を掲載しています。教科書全体を通してでは、114ページの「言葉で伝え合おう」のように、表現力を育成するための効果的な資料が掲載されているのが特色です。また、特に重要なグラフ等の資料には「読み解こう」を設け、資料を読み解く手がかりを示しております。

次に、清水書院でございます。86ページから89ページをご覧ください。写真、図、グラフ、表など、2時間の扱いで九つの資料が掲載されております。教科書全体を通してでは、教科書のサイズが小さいため、資料等はコンパクトにまとめられております。84ページの「もっと知りたい公民」では、学習に関連する資料から更に興味や関心を広げることができたり、90ページの「深める公民」では、学習に関連するテーマを掘り下げ、知識と理解を深めるための資料となっております。このような見開きの特設コーナーでの資料掲載が特色となっております。

次に、帝国書院でございます。88ページから95ページをご覧ください。写真資料を中心に、図、グラフ、表など、4時間の扱いで26の資料が掲載されております。88ページの「クローズアップ」のコラムのように、最初のコラムを単元の課題とともに掲載し、導入や学習課題で活用できるように工夫されております。教科書全体を通してでは、30ページのように、各部の初めに、イラスト等を見ながら身近な出来事と結び付けて考えさせ、各単元の問題解決

学習へと入っていくような構成になっております。

次に、日本文教出版でございます。86ページから93ページをご覧ください。写真資料を中心に、グラフ、図、表など、4時間の扱いで26の資料が掲載されております。また、各単元や学習課題のほかに、導入時に使用することができる資料の中にも課題を提示しているのが特色です。本文の下には、地理的・歴史的分野との関連について記載されています。教科書全体を通してでは、94ページの「明日に向かって」や、84ページの「情報スキルアップ」のように特設ページで解説する資料や、「公民プラスα」「アクティビティ」のようなミニコラムなど、多種多様な資料を掲載しております。

次に、自由社でございます。102ページから105ページをご覧ください。写真資料を中心に、グラフ、図、表など、2時間の扱いで13の資料が掲載されております。教科書全体を通してでは、教科書が小さいため、資料等はコンパクトに配置されています。100ページの「もっと知りたい」、184ページの「課題の探求」のように、写真や図表を示し、見開き2ページの読み物資料を掲載しています。また、各章のまとめでは、単元の重要語句を提示し、学習の発展では、文章でまとめるようなテーマが示されております。

最後に、育鵬社でございます。112ページから117ページをご覧ください。写真資料を中心に、グラフ、図、表など、2時間の扱いで15の資料が掲載されております。1単元ごとに、中心となる資料は、案内役の人物が資料の問題を提示しております。教科書全体を通してでは、118ページの「やってみよう」のように、見開き2ページを使ってテーマを掘り下げて解説したり、80ページの「理解を深めよう」のように、学習内容を深化させるための資料が掲載されております。

最後に、現在使用しています東京書籍の使用実績につきまして、見開き2ページで1時間の授業構成となっております。特に左上の資料やイラストは、導入時に取り扱い、生徒の関心を引き出す効果があります。また、地理や歴史と関連する資料にはマークが記載されており、復習に役立つことができます。

公民については以上でございます。

次に、地図について申し上げます。各者とも、「北アメリカ州」について記述している単元を例に説明いたします。

まずは、東京書籍でございます。55ページから63ページをご覧ください。基本図では、縮尺や図法、北アメリカ州の地球上の位置や国々の国旗を明記しています。資料については、「基本資料」と「テーマ資料」とを区別しており、基礎・基本として押さえるべき知識として

の資料と、課題解決学習として活用する資料とを明確に区別しているのが特色です。59ページ以降の、北アメリカ州の資料をご覧くださいと分かります。全部で22の資料が掲載されておりますが、61ページの「アメリカ合衆国の農業」、63ページの「さまざまな民族が住むロサンゼルス」のように、写真資料も掲載されております。

次に、帝国書院でございます。57ページから65ページをご覧ください。基本図では、東京書籍と同じく、縮尺や図法、北アメリカ州の地球上の位置や国々の国旗を明記しています。必ず同緯度・同経度の同縮尺の日本を掲載しているところが特色です。60ページの北アメリカ州の地図をご覧ください。ニューヨークは青森県と同緯度であること分かります。また、「地図を見る目」を設け、地図を見る際のポイントを押さえております。資料については、最初に基本となる「州の自然や生活」「気温・降水量」等の資料、その次に、問題解決学習として活用する資料を掲載しております。61ページ以降の、北アメリカ州の資料をご覧くださいと分かるかと存じます。

最後に、現在使用しております帝国書院の使用実績につきまして、158ページからの世界統計資料におきまして、各項目上位の国の数値は朱書きで、下位の国は青で記載されており、大変見やすく、授業でも説明しやすいです。また、6ページにありますように、調査学習をする際の使用上の留意点につきまして、丁寧に説明がされており、役に立ちます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 先ほど、東京書籍を三つ使っているということで、歴史や地理等の関連する資料にはマークの記載があるということでしたが、他の発行者も全部、マークがあるのですか。

○説明員 使っている発行者もあれば、付いていない発行者もございます。

○宇田川久美子委員 それは逆に、マークがあることで関連付けて役に立っていますか。

○説明員 そのマークを授業の中で教員が子どもたちに示すことによって、地理を振り返ってみようか、歴史に振り返ってみようかということで、簡単ですが振り返りをすることができる、現場では声が上がっております。

○加藤由美委員 先ほど、地理の、現在使っている東京書籍の中の説明で、資料の質が高いとおっしゃっていましたが、草加の生徒たちが資料を読み取りやすいという意味なのか、もう少し詳しく説明していただければと思います。

○説明員 例えば、説明で申し上げました147ページをご覧いただくと分かると思うのですが、現場の声として非常に役立つということですが、扇状地と三角州の写真と地形図が同じように並べられています。そうすると、地形図だけではイメージしにくいものが、写真が同じページに掲載されることで、地形図と写真がイメージとしてマッチし、具体的に地形を捉えやすい、さらにはその上に、我々も山脈と山地の違いって何ですかと聞かれたときに、やはり説明しづらいところがあると思います。盆地とはどういうところが盆地なのか、そういったことも、147ページの上の資料では、地形についても細かく説明しています。非常に丁寧に、子どもが理解しやすいような資料掲載になっているというところがございます。

○村田悦一教育長職務代理者 中学校では社会科は地理・歴史・公民という形で、教科書も今ご説明いただいたように分かれてしまいます。生徒の興味・関心や、男女差もいろいろあると思うのですが、やはり同じ社会科といっても、好き嫌いはかなり出てきてしまうものなのか、一般的なことも含めて、どうなのでしょう。

○説明員 1年生の社会科の授業を持つ先生に聞いたことがあるのですが、まずはアンケートをとるそうです。社会科は好きかどうか、そうすると、小学校の社会科学習というものがどの程度子どもたちに興味・関心を引き起こして、学習内容の理解度が深まっているかということに関わってしまうのですが、総じて暗記中心の教科であると、覚えることが多いというイメージを持って入ってくる子どもが多いということが、中学校1年生で入ってくる子どもの大方のイメージです。そのため、そのことをどうやって、「そうじゃないんだよ、知識も大事だけれど、それをもとにして思考を深める楽しさが社会科の醍醐味なんだよ」ということを、授業の中でいかに子どもたちに分かってもらうか。そういったところで授業を改善・工夫しているということは聞いています。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市で今、幼保小中を一貫した教育で取り組んでいます、社会科でも小学校、中学校とのつながりがあるわけですから、是非、課題があるのであれば、子どもたちに、暗記だけではなく考えていくことの必要性を中学校からも発信してほしいと思います。もう一つ、私は今、いろいろ聞いていて、やはり地理でも歴史でもキーワードは、「資料」だと思います。まとめて言うと情報処理能力というか、資料をどう活用していくのか、どの資料が大事で、あるいは自分から資料をどう求めていくか、それが社会の中で生きて働く力になっていくかと思うのですが、そういう情報処理能力を社会科、地理・歴史・公民を見た場合に、指導あるいは教科書との関連など、中学校の先生方は意識しているのでしょうか。

○説明員 1時間という授業の中で、教科用図書に掲載されている資料をどう処理していくか

にかかってくると思います。例えば、最初の授業の導入で資料を見せ、子どもの意欲を高める、注意を引きつける、そういうための資料、大体これは、多くの教科書は左上に掲載するのですが、そういった資料の扱いがあります。そして今度は、学習課題を明示して、今日のメインとなる課題解決学習のための資料、その資料をいくつか教員が提示して、この資料から課題を解決していきます。そして最後、振り返りになったときに、今日の1時間の学習を振り返った上で、この学習内容を更に補完・補充するような資料と、大きく分けてその三つの展開の中で、資料をどう子どもに提示し、考えさせるか、そういう意識を持って、情報処理能力という意味ではやっていく必要があるかと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 ある意味で情報過多というか、逆に言うと、教科書以外にも資料集というのを中学でも持っているのですか。

○説明員 それは教員によります。

○村田悦一教育長職務代理者 一般的にはどうなのですか。教科書だけでやろうとしているのか、あるいは資料集を使った方がいいのでしょうか。小学校などではかなり資料集が使われていたと、自分では記憶しています。

○説明員 現在使用している東京書籍につきましては、かなり資料が豊富です。ですので、資料集というよりも、ワーク学習、振り返り学習のためにワークで少し基礎・基本を身に付けようということで、副教材を買っている現場の教員は多いかもしれません。

○村田悦一教育長職務代理者 東京書籍は私もいいと思いますが、是非、この資料を使い切るというか、この資料をいかすことが大事かと思います。

○説明員 それは、逆に言うと課題でもあります。多いのでそれをどう処理するかということになります。

○高木宏幸教育長 関連ですが、資料を読み取って、それを活用して、多面的・多角的に考察するところを狙っているわけですが、そういった読み取りができるというのは、当然、基礎・基本が身に付いていないとできないと思います。どこに分析の視点を置くか、どこに着目するかというのは、当然そういった小学校からの積み上げも含めて、基礎・基本がしっかりと、ただ資料を見て、ここから何が読み取れますかといっても、学習は展開しないと思うのですが、資料の読み取りと同時に社会科としての基礎・基本をどう押さえていくかという意味での教科書の編成、編集、特に今使っている東京書籍の使用実績はどうですか。

○説明員 小学校との関連で言いますと、東京書籍は必ず、地理も歴史も公民も、各章の初めに、小学校の振り返りをしようということで、必ず載せています。他者でもあるのですが、必

ず章の初めにはイラストが出てきて、小学校ではこんなことを勉強したよね、こんなことを深めたよね、それを踏まえた上で章に入っていくという構成になっていますので、そういった意味では、小学校で既習した基礎的な事項についての確認ができるという特徴があります。あとは、資料を読み取るための基礎的な知識がないとできないところがあります。例えば、地理で言いますと雨温図というのがあります。降水量と気温を同時に示した図なのですが、あれは、縦軸が何を示して横軸が何を示しているというのが理解できていないと分かりません。そういった基礎的なところも、小学校と連携しなければいけないと思うのですが、きちんと押さえながら、いきなり資料を示して、これで課題を解決しなさいというのは無理なので、子どもが読み解くべき資料につきましても、基礎的知識は同時に押さえていかなければいけないことだと思っています。

○加藤由美委員 現在使っている歴史の東京書籍の、新たな時代の日本と世界というふうに続いてありますが、令和の時代が変わったことなど、どのように資料を足していられるのですか。

○説明員 新しい時代の資料につきましては、新聞記事、あるいはインターネットで教員が調べて印刷した記事であるとか、そういったものでしかないと思います。教科書ではまだ令和の時代の話は出てきません。やはり公民などは、最新の資料というものがとても大事になってきますから、教科書の資料+αで、例えば、公民などでは株の授業もあるのですが、今現在株価はどうなっているのか、円高や円安の問題でも、為替相場はどうなっているのかということも、今の時代と合わせて話をしていく必要があると思います。

○川井かすみ委員 バリアフリーに関して、各者の特徴があれば教えてください。

○説明員 バリアフリーにつきましては、特に公民の分野で取り上げることが多いです。特に平等権の扱いのところ、ほとんどが取り扱っております。

例えば東京書籍の公民の教科書でいいますと、48ページをご覧ください。公民の学習では、基本的人権を最初に、学ぶのですが、憲法学習の中の一環として人権を学びます。特にその人権の中の平等権の扱いの中で、バリアフリーを取り扱います。48ページの一番下に、「バリアフリー」と太字で書いてあると思います。また右上にも「バリアフリーについて考えよう」、49ページですが、ミニコラムがあります。今の時代、こういった問題はとてもタイムリーですし、我々もきちっと子どもたちに、基礎的なこととして押さえておかなければいけないことですので、各者こういった平等権の扱いの中でバリアフリーを取り扱っています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより中学校国語、書写、社会の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図

の教科用図書に係る採択に入ります。

採択は昨日同様の方法で行いますが、改めて確認をいたします。

採択は、無記名投票により行います。これから委員の皆様へ投票用紙を配付いたします。採択すべきと思う発行者の投票欄に、1者だけ○をお付けください。記載はボールペンでお願いいたします。

なお、複数の発行者に○を付けたり、○以外の印は無効となりますので、ご注意ください。書き損じをされた場合には、はっきり分かるように二重線で消していただいて、新たに○をお付けください。

それでは、投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認をいたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、宇田川委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票の状況につきまして、宇田川委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

国語、光村図書出版株式会社 6票ですので、光村図書出版株式会社といたします。

書写、教育出版株式会社 6票ですので、教育出版株式会社といたします。

社会の地理的分野、東京書籍株式会社 6票ですので、東京書籍株式会社といたします。

社会の歴史的分野、東京書籍株式会社 6票ですので、東京書籍株式会社といたします。

社会の公民的分野、東京書籍株式会社 6票ですので、東京書籍株式会社といたします。

地図、株式会社帝国書院 6票ですので、株式会社帝国書院といたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで午後0時20分まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いた

します。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長 「中学校 数学」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 数学〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、数学科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、全国及び県の学力・学習状況調査においては、全体的に全国及び県の平均正答率を下回る傾向にあります。特に、数学を活用したり、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考えたり、説明したりする力が弱い傾向にあります。

基礎・基本をより確実に定着させるとともに、それらを活用して考えたり、数学的な言葉で表現したり、説明したりする力をより高めることが課題であるといえます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第3学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

東京書籍につきましては、初めに24ページをご覧ください。「目標」「Q」「例」「たしかめ」「問」の順に配列されていて、基礎・基本が確実に定着できるような問題が工夫されており、きめ細やかな指導がしやすくなっています。欄外の「もっと練習！」に補充問題があり、そのページの下に解答が示されているので、生徒が学習に取り組みやすくなっています。次に、156ページをご覧ください。「活用の問題」では、既習事項をもとに、さらに発展的に考えたり、活用したりすることで解決できる問題で、特に事柄や事実、方法、理由などを説明する記述式の問題が取り上げられています。「数学のまど」では、社会や職業における数学の活用が取り上げられています。

次に、大日本図書につきましては、初めに80ページをご覧ください。見開き2ページ分が1時間の授業に対応するよう構成されています。この構成の仕方は教科書全体にわたっていて、必ず左ページから授業をスタートすることができるので、学習に取り組みやすくなっています。次に、172ページをご覧ください。章末の「もっと数学！」では、それまでに学習した内容を使うことにより、数学を活用して考えるなど、発展的な課題に取り組むことができるように工夫されています。

次に、学校図書につきましては、初めに41ページをご覧ください。「まとめの問題」では、これまでの学習を振り返りながら、「基本」「応用」「活用」の順に問題が配列されており、基礎的な内容から活用の問題まで、見通しを持って進められるように工夫されています。次に、236ページをご覧ください。「さらなる数学へ」では、日常的な課題や教科横断的な課題などを設け、レポートの作成や発表の仕方、共同学習の進め方など、今までに学んだことを総合的に活用する内容を取り上げています。

次に、教育出版につきましては、初めに46ページをご覧ください。各章の初めに、ここでは「2章 平方根 を学習する前に」を設け、問題形式で既習事項を振り返ることができるように工夫されています。基本的な内容を押さえ、その章の学習内容にスムーズに取り組めるよう工夫されています。次に、238ページをご覧ください。「数学で大切にしたい考え方」では、数学で使われる様々な考え方について、具体的に問題を解決する中で、それらの考え方が身に付けられるよう工夫されています。また、それらの考え方がどの問題で使われていたか、ページを示し、振り返ることができるようになっています。

次に、新興出版社啓林館につきましては、初めに17ページをご覧ください。問4の右側をご覧ください。ここに「くりかえし練習」のためのページが表示されています。この例では207ページとなっております。さらに進んで取り組んだり、力を伸ばしたりするための問題が用意されています。別冊の「MathNaviブック」をご覧ください。この別冊「MathNaviブック」には、全体を通して様々な形の問題や課題があり、生徒がいろいろな場面で数学を活用することができるように工夫されております。

次に、数研出版につきましては、初めに4ページをご覧ください。「出発前のクイックチャージ」では、今までに学んだ内容を振り返り、新しい学習内容が無理なく身に付けられるように、既習事項の確認とそのためのドリルが用意されています。次に、190ページをご覧ください。「やってみよう」では、その章で身に付けた知識や考え方を活用して、身の回りの日常的な課題を解決し、数学の有用性が分かる活用場面などが設定されています。

最後に、日本文教出版につきましては、初めに92ページをご覧ください。中学生に親しみやすいメインキャラクターの「マテマ」や中学生キャラクターを登場させ、注意を促し、考え方のヒントを示すなどの工夫があります。このキャラクターは、各章の導入にいかされています。次に、117ページをご覧ください。「やってみよう」では、そこで学んだことを用いて問題を解くことで、数学を学ぶ意義やよさが分かるような課題を設定し、数学の有用性を味わわせる工夫がされています。

最後に、現在使用している東京書籍の使用実績につきましては、初めに31ページ、32ページをご覧ください。「学び合い」につきましては、「自分で考えてみよう」「友だちの考えを知ろう」「話し合ってみよう」「ふり返ってみよう」「深めてみよう」と学習の流れが明示されており、生徒が見通しを持って授業に取り組むことができるように工夫されています。次に、232ページから234ページまでをご覧ください。学びをいかす「活用の問題」では、232ページにございます「運賃のしくみ」で日常生活に関連する教材を、234ページにございます「大工道具『さしがね』」で他教科と関連のある教材が用意されています。これまでに学習した内容を活用・発展させることで、学習の有用性を生徒に実感させることができるように工夫されています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○小澤尚久委員 中学校1年生の教科書で、6年生からの連続という意味で、草加の子どもたちにとって有効な取組内容等があったら、いくつか教えてください。

○説明員 例えば東京書籍では、1年生の21ページをご覧ください。「小学校で学んだ足し算の計算法則を、正負の数で考えてみよう」と一番上に書いております。このように、小学校での学習と関連付けるとともに、関連する事柄について、巻末にある「学びをつなげる」で確認できるように工夫されています。このような場面が適宜配置されており、必要に応じて小学校での学習とのつながりを意識して、学習を進められるように工夫されています。

また、東京書籍の2ページ、大日本図書の2ページ、学校図書の4ページ、日本文教出版の2ページをご覧ください。この4者につきましては、目次の各章のところに、小学校での学習内容が記載されています。また、巻末では、算数を復習するための内容や問題が用意されています。これは先ほど申し上げました東京書籍と同じように、各発行者とも、関連する小学校の復習問題等が巻末に用意されており、その都度、振り返ることができるように工夫されてい

ます。

また、啓林館の23ページをご覧ください。ここでは「振り返り」という小見出しを付けた問いを適宜配置し、小学校での学習内容を確認できるように工夫しております。

○宇田川久美子委員 草加市の生徒の実態のところ、「数学的な言葉で表現」の「数学的な言葉」というのは、具体的にどういう表現のことですか。

○説明員 数学の教科書に出てくる専門的な用語ですが、例えば角度で言えば、同じ位置にある角を同位角と言ったり、互い違いな角を錯角と言ったり、始めは「同じ位置にある」という言葉でいいとしても、最終的には専門的な用語をしっかりと使って友達に説明できる、あるいは自分の考えをノートにまとめて発表することができるというようなことをございます。

○宇田川久美子委員 その観点からすると、ここはそういう言葉を教えるのにとてもうまく説明できているという教科書はありますか。

○説明員 各発行者とも、新しく出てくる単語については太字のゴシック体等で強調されております。その言葉について教員がその都度更に補足して説明し、こういった意味であるとか、この用語はしっかり覚えて、説明の中で、あるいは自分の考えをまとめる中で使うことができるということを授業の中で示しております。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど、草加市では幼保小中一貫した教育ということで、例えば、なぜ算数を数学というのだらうと、その辺の素朴な疑問が解決できないと、今まで算数が好きだったけれど数学は嫌いになってしまうのではと思うのですが、いかがでしょうか。小から中という連携は、何か特徴的なことはありますか。

○説明員 説明したり、自分の考えをまとめたりする中で、数学的な用語といったものが、中学に入ってくると非常に多くなります。

そういった用語を使うことによって、子どもたちも最初は多少混乱するところはあるとは思いますが、手で示したり、鉛筆でマークをしたりして、ここここが同じだからこういうことが成り立ちますという説明をする中で、そういう過程を通して、最終的には専門的な言葉等を使って説明することができるようになればいいと考えております。

もちろん、小学校ではこういう学習はこういう観点でしたが、中学校では更にそれを式で表したり、表とグラフと式を関連付けて考えたり、そういう学習をこれからしていきますということで、小学校との関連を図りながら授業を進めていくように工夫しております。

○村田悦一教育長職務代理者 数学を活用して、考えたり判断したりしようとする態度を育てるということで、日常にそういう機会があるのかという、素朴な疑問があります。

○説明員 子どもたちが学校生活や家庭生活を送る中で、算数・数学を使っているといえば、買い物のときの計算程度だと思うのですが、社会全体を通してみると、全ての工作物等には必ず計算というものがございまして、そういったものは子どもたちには難しくて分からないかもしれないかもしれませんが、とにかく数学が一つの言語の代わりとして活用されていますということを説明しています。

また、論理的に証明するなど、筋道を立てて考えるということは非常に重要だと思うのですが、これは社会に出て、例えば自分が何かを会社の人に対してアピールするということに、どのような手順で、どのように筋道を立てて論理的に説明すれば、相手により納得、理解してもらえるか、そういうことを考える上で、この図形の論証の思考過程というのはとても活用できます。ただ「この商品は素晴らしいです」と言って説明しても、相手はそれだけでは納得してくれません。筋道を立て、ここではこういう特徴があります、こういう課題もあります、でもこの課題を克服するためにこういう改良をしました、だから今この商品がありますので、是非活用してください、というように、論理的に筋道を立てて考える、発表するという力を養う教科は、数学しかないと思っておりますので、そういった考え方を少しずつ子どもたちに育成できればと考えています。

○高木宏幸教育長 今の草加市の生徒の実態ということで、数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる工夫という、その視点があるわけですが、それとともに、前提として「基礎・基本をより確実に定着させるとともに」とあります。

先ほど、東京書籍の使用実績のところ、単元の1時間の取り扱いで、こんなふうに授業では使われますという説明がありましたが、例えばこの教科書を、自学自習ではないですが、授業で受け、授業でやり、復習あるいは予習のときに、教科書を読んでいけば十分に理解できるというような筋道というか、ステップ・バイ・ステップを踏んでいるような、そういう工夫というか、子どもたちの実態を見たときに、使用実績でこの辺の編集構成というのはどんなふうに現場では捉えられているのでしょうか。

○説明員 先ほど東京書籍のところでご説明申し上げたように、各単元、小単元ともに、「目標」「Q」「例」「たしかめ」「問」というように、学習の流れが全て一貫して統一されております。

この流れに沿って、学校の授業でやったことを家庭で復習する際に、今日はこの学習をどういう流れでやったのか、もちろんノート以外にも、教科書を見れば学習の流れが分かるようになっております。まず「目標」と「Q」で、今日はこういう流れでこういう力を見付けようと

ということが書いてあります。それに関する例題が書いてあり、例の中には解き方、考え方が細かく書いてあります。それで例題をやった後に、「たしかめ」の問題で自分の力を確認し、更に力を付けるために「問」や補充問題等が準備されています。

全てそのように、基礎・基本、計算力などそういったものを養う工夫が随所になされております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「中学校 理科」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 理科〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは、理科の教科書についてご説明申し上げます。

まず、草加市の生徒の実態でございますが、自然事象への関心・意欲・態度に課題が見られます。また、地震発生の仕組みや水溶液中の粒子の様子など、実際に観察・実験を行うことができず、模式図や映像などのモデルを通して理解を図るような学習内容の定着に、少し課題が見られます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫」「思考力、判断力、表現力等を育成する工夫」「主体的に学習に取り組む態度を養う工夫」「実社会・実生活との関連を図る工夫」といたしました。

それでは、各発行者の特色、特徴等について、主に3年生の「運動とエネルギー」の単元を例に、ご説明申し上げます。

まず、東京書籍についてでございます。3年生の116ページをお開きください。しっかりと定着を図りたい「基礎技能」は、本文と区別した囲み「基礎操作」で示されており、手順や操作上の注意事項も詳細に記述されています。お開きの116ページから119ページにかけてご覧ください。探究の過程に関わる生徒の活動や、課題、観察・実験、考察、活用の場面が、116ページの「はてなマーク」、117ページの「実験1」、118ページの「実験から」、119ページの「びっくりマークのついたまとめ」のように共通のマークや色で統一されており、生徒が探究の流れを意識しやすくなっています。

次に、大日本図書についてです。3年生の3ページ下段をご覧ください。

技能の習得を図る工夫として、観察・実験のための「基本操作」が数多く掲載されており、それを目次でも整理されています。27ページをご覧ください。基礎操作が載っているページ

には、右下にあるようなマークがつけられています。次に38・39ページをご覧ください。科学者の業績を紹介した「科学史」、日常生活との関連を紹介した「暮らしの中の理科」、様々な職業との関連を紹介した「プロフェッショナル」などが多数掲載されており、理科の有用性を実感できるような工夫がされています。

次に、学校図書についてでございます。3年生の5ページと8ページをご覧ください。5ページのような単元の初め、8ページのような各章の初めに、「これまでに学んできたこと」が掲載されています。10ページをご覧ください。本文中にも「思い出してみよう」として既習事項が掲載され、確認や復習ができるようになっており、学習内容との関連や系統性が分かるようになっていきます。次に26ページをご覧ください。公式が出る場面では、公式の提示の後、まず例題とその解き方が掲載されており、その後に学習内容に係る「問い」が出され、生徒が取り組む流れになっており、公式の使い方を定着させる工夫がされています。

次に、教育出版についてでございます。まず、3年生の巻末をご覧ください。学年ごとに付録として、まず3年生には「星座早見作成シート」、2年生には「原子のモデルカード」、1年生には「カメラ作成シート」などがついており、生徒が意欲的に取り組むための一助となっております。次に46・47ページをご覧ください。単元扉で身近な事物・事象などが紹介され、学習への意欲が高まる工夫がされています。次に、55ページから58ページにかけてご覧ください。科学の話題を紹介したコラム「ハローサイエンス」が随所に掲載されており、科学と実生活との関連、環境などについて考えられるようになっていきます。

最後に、新興出版社啓林館についてでございます。3年生の巻末についております別冊の11ページをご覧ください。観察・実験に取り組む前や後で活用できるようになっております。同じく別冊の46ページをご覧ください。用語や要点の確認ができるようになっていきます。次に、教科書本体の295ページをご覧ください。295ページについております青色シートを活用すると、効果的に学習内容の定着が図れるようになっております。次に、200ページをご覧ください。最新の話題や将来の科学技術を紹介する「ひろがる世界」などのコラムが多く掲載されており、学習内容を応用したり、理科の有用性を実感させたりする工夫がされています。

最後に、現在使用している大日本図書の使用実績につきましては、課題の表現が簡潔であり、実験ごとに「結果の整理」「結果から考えてみよう」などが掲載され、目的を持った科学的探究ができるよう工夫されています。また、「暮らしの中の理科」では、日常生活の例を取り上げ、日常生活でどのように活用されているか分かるように工夫されています。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 理科という教科の中で、各発行者が「理科」という表現をしたり、「科学」「サイエンス」としたりしていますが、それぞれ何かそこには発行者のねらいみたいなものがあるのでしょうか。子どもたちが手にとったときに「理科」と書いてあると、教科として小学校からの延長でできるような気がしますけれど、「科学」や「サイエンス」と書かれてしまうと、これから何を学ぶのだらうという気持ちにならないのでしょうか。

○説明員 「理科」という表現は、教科としての表現になります。「科学」や「サイエンス」というのは、英語も学習してきていますので、英語という観点で「サイエンス」という言葉を身近なものにするために使う発行者もあるのではと思います。あと「科学」というのは、とても未来を見通した、これからの人間生活をますます発展させていきたい、そのために理科という教科の学習は必要というような意味が込められているような気がいたします。

○加藤由美委員 理科の教科書ですが、小学生は教育出版を使われていて、小学校の理科の説明の中で、幼保小中が今、一貫した教育がなされていて、中学校の先生が小学校に行って教えることもあるとおっしゃっていました。その中で、同じ教科書の方がいいと考える先生もいらっしゃるかもしれないけれど、小学生では別に教科書が違っていても構わないということをおっしゃっていましたが、中学校の先生としてはどうお考えなのでしょうか。

○説明員 やはり発達段階に応じた学習内容になっておりますので、同じ発行者ではないといけないということは、私も断言することはできないのではないかと思います。小学校の先生が、自分がこの教科書を使って授業をすると考えたときに、たくさんの発行者の教科書を見て、そして選択したものだと思いますので、それはそれで間違いではないかと思います。

また、我々が小学校に出向いて、一貫教育ということで授業を実践する中で、基本的に、それぞれの発行者の特色、すばらしいところはあるのですが、学習する内容は学習指導要領に基づいていて、教える内容は同じですので、それは工夫するなり、小学校の先生と連携を図りながら、授業をどのようにしていくかは、その時その時で工夫して改善できるのではないかと思います。

○川井かすみ委員 大日本図書の2年生の50ページ、銅像（埼玉県草加市）の映像が載っているのですが、他の発行者で草加を記載している教科書はあるのでしょうか。

○説明員 下調べをした中で、入間市、川口市、越谷市、熊谷市、それから深谷市、所沢市、それぞれ各市1つずつ、なるべくいろいろな市からの映像等を載せて、工夫されているのだらう

うと感じております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「中学校 音楽」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 音楽〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 音楽科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、週1時間の授業ではありますが、音楽科の学習に積極的に取り組む生徒が多く見られます。日々の授業や、全ての中学校で実施されている合唱コンクールなどで、着実に表現力、特に歌唱力が向上しています。

しかし、生徒一人ひとりの、これまでの音楽体験の有無により、技能に個人差があります。技能を伴う教科であることから、個人差にかかわらず、生徒の興味・関心を高め、基礎的な能力を伸ばすことが求められます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、音楽科（一般）では、一つ目に「教材選択についての工夫」、二つ目に「鑑賞の活動において言語活動の充実を図るための工夫」。器楽では、一般と同様に「教材選択についての工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。音楽科（一般）につきましては、各発行者の第1学年のものを例にとって、説明させていただきます。

教育出版につきましては、初めに「中学音楽1」の20ページをご覧ください。20ページから21ページにかけて、共通教材「赤とんぼ」が掲載されています。最初のページで学習課題が提示され、大きな写真や歌詞に関する写真によって、情景を想像しやすい工夫がされています。次に、32ページをご覧ください。32ページから35ページにかけて、鑑賞教材のヴィヴァルディ作曲の「春」が掲載されています。最初に2ページで楽曲や作曲者について説明し、次の2ページで、「春」全体の主旋律の楽譜が掲載されています。このように、音楽活動が主体的に行えるよう、写真が豊富に準備され、曲全体の楽譜が掲載されるなど、楽譜からの情報も得ることができます。このことから、言語活動の充実が図られ、発展的な学習にも対応し、幅広い音楽的知識が身に付けられるよう配慮されています。

次に、教育芸術社につきましては、初めに「中学校の音楽1」の24ページをご覧ください。

24ページから25ページにかけて、共通教材「赤とんぼ」が掲載されています。最初のページの上に目標、そしてページの下にその目標を達成するための具体的な学習課題が示さ

れています。次に32ページをご覧ください。32ページから35ページにかけて、同じ鑑賞教材のヴィヴァルディ作曲の「春」が掲載されています。最初の2ページで、楽曲や作曲者について説明し、次の2ページで大きな演奏写真と、イタリアの気候と曲目との関係や、チェンバロについて掲載されています。このように、写真が豊富に準備され、目標や音楽学習で身に付けるべき基礎的・基本的な内容が分かりやすく示されており、言語活動を充実させ、発展的な内容も無理なく取り組めるよう配慮されています。

次に、現在使用している教育芸術社の使用実績につきましては、「中学校の音楽2・3年上」の10ページをご覧ください。このページにある「ここが分かればGreat Up!」では、パートの役割や曲の構成について、生徒が自分たちで気付くことができるようにしており、生徒の主体的な学習を促す資料として活用されています。このように、生徒の実態に応じた教材、具体的な学習課題の提示、生徒の主体的な学習を促す資料等により、生徒の興味・関心を高め、基礎的な能力を高めることができています。

次に、器楽について説明させていただきます。

教育出版につきましては、初めに「中学器楽」の9ページをご覧ください。アルトリコーダーで、「オーラ・リー」という曲を、「全体の響きを感じ取って、合わせて演奏しよう」となっております。ヘ長調で書かれております。8小節のきれいな合奏ができるようになっております。次に78ページをご覧ください。ヴィヴァルディ作曲の「春」の合奏の楽譜が掲載されています。ト長調で書かれています。ソプラノリコーダーと低音楽器に、アルトリコーダーも加えて演奏できる編曲で、「全体の響きを感じ取って、合わせて表現しよう」となっております。このように、豊富な資料や教材が掲載され、楽曲が持っている美しさやよさが生かされた調号で表記された曲が多く、より高度な演奏ができる曲を多く取り上げています。

次に、教育芸術社につきましては、初めに「中学生の器楽」の11ページをご覧ください。同じ「オーラ・リー」という曲が全曲掲載されています。運指を段階に応じて示しており、低音と左手の練習を1人で吹けるようになっております。ヘ長調で書かれています。次に57ページをご覧ください。ヴィヴァルディ作曲の「春」の合奏の楽譜が掲載されています。ヘ長調で書かれています。「原曲のイメージを大切に、フレーズ感を生かしながら、アーティキュレーションを工夫して演奏しましょう」となっております。このように、豊富な資料、教材が掲載されております。取り組みやすい調号で表記された曲が多く、生徒が取り組みやすく、段階的に技能を高めやすくなっております。

次に、現在使用している教育芸術社の使用実績につきましては、「中学生の器楽」の46ペ

ージをご覧ください。46ページから49ページにかけて、器楽の奏法について、写真により分かりやすく掲載しています。また、78ページにある「打楽器のための小品」という教材とともに、打楽器の基礎的な能力を高める資料、教材として活用されており、多様な音楽経験を積むことができます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○川井かすみ委員 草加市は音楽都市宣言をしていて、特にここ文化会館では、ハープフェスティバルがもう30回目を迎えたわけですが、中学生でハープと触れ合う機会というのはあるのでしょうか。

○説明員 今現在、実際に、直接学校でハープに触れるというような授業は行われていません。ただ、音楽都市宣言をしていますので、そういうときに演奏をされたり、実際にそれを聴いたりということはあるかと思えます。

○宇田川久美子委員 草加市の生徒の実態を踏まえた観点というところで、「鑑賞の活動において言語活動の充実を図るための工夫」とありますが、言語活動の充実というのはどういったことなのか、そして、それが教科書でどのようにいかされているのかを教えてください。

○説明員 先ほどご説明した、例えばヴィヴァルディの「春」の教科書は、教育出版の教科書では「中学音楽1」の32ページに載っていて、「春」について説明させていただいたのですが、この「春」には、ソネットという標題が付いています。ここでいうと32ページにA、B、C、Dと書いてあるのですが、このようなところは音楽的な諸要素があるから標題はこうなったのではないかと、音楽の諸要素に気付いていくというようなことを、音楽の鑑賞によって言語活動の充実を図っております。

これは今、教育出版のご説明をしましたが、同じく教育芸術社でも同様のことが書いてあります。

○加藤由美委員 今使っている教育芸術社の中で、リコーダーはみんな使っていると思うのですが、その後にギター、琴、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器と出てきていますが、草加の生徒たちが実際に手にして、授業の中で演奏できる楽器は、この中にどれぐらいあるのでしょうか。

○説明員 今お話があったアルトリコーダーについては、全員の生徒が新たに購入して使っております。それに加えて、和楽器は1種類以上行うことになっておりますので、箏、琴につい

ては全部の学校で、全員の生徒が触れることになっています。打楽器につきましても、全ての学校で何らかの打楽器に触れるような授業は行われています。

一部の学校では、ギターや太鼓を器楽の実技の授業として行っております。

○村田悦一教育長職務代理者 中学校は教科担任制ですが、国語科のところで、言語活動を豊かにする工夫というのがありました。当然これは同じと考えていいとすると、教科間の、例えば音楽科が国語科のような教科の先生と言語活動を充実、豊かにするための何か話し合いをしたり、お互いに授業を見合ったりといったことはなされているのですか。

○説明員 各学校の実態を正確に把握しているわけではないのですが、今ご指摘のあったとおり、国語科にある言語活動の充実というのは、各教科の基盤になるものだと思いますので、やはり国語科の授業を、他の教科の先生が見るなど、そういうことが行われている学校もあるのではないかと思います。そういうことは進めていかなければならない内容ではないかと思っています。

○村田悦一教育長職務代理者 幼保小中を一貫した教育ということで、小学校から中学校という縦の連携も大事ですが、横の、各教科間の連携というものも、特に中学校へ行くと専科で縦割りになってしまうと、やはり全体としての児童生徒の豊かな心の発達という面では少し心配ですので、是非連携をとっていただきたいと思います。

それから、音楽については、特に中学校になると、かなり興味・関心というか、極端な話をすると、中学校の音楽ではなくて、もっとはやりの音楽を聴いたり、実際に表現したりしている生徒もいるかもしれません。その辺の実態と、授業とのずれというか乖離というかが出てきて、義務教育として行っている音楽科の授業に、興味・関心がなくなってしまうのではないかと、私は思っているのですが、実際にはどうなのでしょう。

○説明員 今ご指摘された、生徒が興味を持っている音楽ということに関しては、大分、教科書の中にもそれが入ってきて、様々なジャンルに関して学ぼうというような姿勢で発行者も考えていますので、その乖離というのは、昔の教科書に比べれば大分工夫されて、生徒の興味・関心に近いものになってきているのではないかと思います。

それと同時に、やはり学校で教えなければいけないこともあります。例えば合唱などは学校でしか味わえない、集団での経験というものがありますので、例えばクラシック音楽なども含めて教えることによって、子どもたちも興味・関心が高まっていますので、大切ではないかと思っています。

○高木宏幸教育長 今のことに関わりますが、草加市の生徒の実態という中に、個人差にかか

わらず興味・関心を高めて、基礎的な能力を伸ばす、音楽の得意な子、苦手な子、音楽に小さいときからいろいろな形で慣れ親しんでいる子とそうでない子、この差は大きいと思います。それを踏まえて、音楽一般も器楽合奏も、教材選択についての工夫というのは、個人差があっても取り組めるような観点かと思うのですが、教材選択の工夫は、一般も器楽合奏も両方とも観点として入っており、この点についてもう少し、実際に使われている教育芸術社の使用実績等について、説明を加えてもらえますか。

教育芸術社はハ長調とで書かれていたかと、私は音楽は苦手なので、ト長調、ヘ長調と言われても、ハ長調ならイメージがぱっと、音符を見ても分かるけれど、ト長調とかヘ長調とかになると、♭や♯などが入ってきますから、難しいという感じを受けてしまいます。

○説明員 今ご指摘のあったとおり、教育芸術社はハ長調で書かれているものが、教育出版に比べれば多いです。つまり、シャープ、フラットがないということは、吹きやすいとか演奏しやすいということがあります。やはり、例えば生徒で初めてアルトリコーダーを習うといったときに、まずはシャープやフラットということではなくて、ハ長調の曲をしっかりと吹けるようになることが、やはり基本的なことをしっかりと教えていくということになるかと思しますので、そういった意味で、生徒の実態に合った教材が、現在使われている教育芸術社では多いのではないかと考えております。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「中学校 保健体育」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 保健体育〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 保健体育科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査や草加市体力向上推進委員会での調査におきまして、朝食を食べない生徒が見られることが分かっております。その要因としては、就寝時刻の遅さや、そこから連動して起床時刻の遅さが影響していると考えられます。さらに、体育以外で運動する生徒と、ほとんど運動しない生徒の二極化が見られます。これは生活習慣や運動習慣の個人差によるところが大きいと考えられます。

以上の実態を考え、日常生活において、健康な生活を営む資質や基礎を培うことが、草加市で生活する生徒の課題であると考えます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点でございますが、「健康な生活を営むための資質や能

力の基礎を培うこと」を課題としたことから、「健康の保持増進のための実践力の育成」といたしました。

次に、各発行者の特徴、特色についてご説明申し上げます。保健体育科につきましては、各発行者の教科書の構成及び2年生が学習する自然災害に関する部分と、応急処置を例にとりて説明させていただきます。

まず、東京書籍「新編 新しい保健体育」につきましては、各章の扉に小・中・高で学習する内容が示され、小中高連携した見通しを持つことができます。また、学年別に保健編・体育編とまとめてあり、その学年で学習すべき内容が把握できるよう工夫された構成になっています。教科書の74ページをご覧ください。項目の先頭に、生徒が自主的に学習できるよう「今日の学習」「やってみよう」「考えてみよう」という構成になっており、学習の流れがはっきりと示され、生徒にとって取り組みやすいように工夫されています。「考えてみよう」では、自分の意見をまとめて発表し、グループで話し合ったことを実践にいかすため、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイングを意図的に設定することができ、思考力・判断力・表現力の育成を図れるようになっています。1単位時間の最後に「生かそう」が設けられており、学習した内容を日常生活にいかせる構成になっています。また、登場するキャラクターが注釈の役目を果たしており、学習を支援するポイントを示すことで、更に理解が深まるよう工夫されています。80ページをご覧ください。心肺蘇生法と応急手当の手順について、豊富に配置されたイラストや写真によって、分かりやすく学習できるよう工夫されています。この実習を通して、日常生活にいかせる実践力を高められるようになっています。章末資料は、災害の危険性についての理解を更に深め、危険を予防できる力を養う構成になっています。90ページ、91ページをご覧ください。各章末に学習内容が理解できたか確認できる「確認の問題」「活用の問題」があり、基礎的・基本的な知識が確実に習得できるような構成となっております。

次に、大日本図書「新版 中学校 保健体育」につきましては、教科書85ページをご覧ください。章の扉には、この章で学習する内容が明示され、生徒が興味・関心を持って学習できるようになっております。問題提起から、この章で目指す生徒像が示されており、見通しを持って学習することができます。教科書94ページをご覧ください。学習の流れとして、今日の課題を明示し、「考えよう」で身の回りの生活に関わる疑問から学習が進められ、生徒が見通しを持って学習に取り組めるように構成されております。「学習を活かして」では、学習した内容から更に考えを深められる構成になっております。学習を進めていく上で必要な資料が豊

富にあります。写真・イラスト等、生徒が分かりやすく理解できるように配慮されております。また、重要語句を太く強調しており、次のページの写真による資料はページを多く使い、自然災害の恐怖と対策を学習するために効果的に使用しており、日常生活の中でも災害に対して意識を高めていくことができるよう工夫されております。学習の内容が2ページ見開きでまとめであり、終わりには「キーワード」として、学習した重要語句を再確認できるよう構成されており、学習に必要な思考力・判断力・表現力の育成を図っております。100ページをご覧ください。心肺蘇生から応急処置に至るまで、写真とイラストを活用し、手順を確認しながら実習できるよう工夫されております。章の最後には「学習のまとめ」があり、重要な語句や要点を振り返りながら、学習内容の理解が図れるように構成されています。太文字で表記し、関連ページを示すことで、学習を振り返り、自主的な学習ができる構成となっております。

次に、大修館書店「保健体育」につきましては、教科書94ページをご覧ください。項目名の下に「Question-クエスチョン-」の導入発問があり、学習する内容をつかむことができるようになっております。学習を進めるに当たって、重要語句を太字にし、学習内容を理解するために写真・図を豊富に明示しています。また、資料から読み取ってほしい重要ポイントは黄色の吹き出しで、基礎的・基本的な知識を習得できるように工夫されております。「Challenge-チャレンジャー-」では、学習内容を基に、自分の考えやディスカッション、ブレインストーミングの記入欄があり、思考力・判断力・表現力の育成を図れるようになっております。本文全体を薄黄色で区別することによって、とても見やすく、めりはりのある教科書となっております。また、教科書の章ごとに検索しやすいように、色別に工夫されています。学習の内容で、パソコンで詳しい説明や参考となるサイトにアクセスできるように、インターネットのアドレスが紹介され、自発的に学習を深められるような工夫がされています。98ページをご覧ください。応急処置から心肺蘇生の実習を分かりやすく支援するため、ポイントでイラストと吹き出しを豊富に活用するとともに、心肺蘇生法ではフローチャートを示し、傷病者の状況に応じて手順よく実習ができるよう構成されており、即実践に移せるようになっております。教科書の108ページをご覧ください。各章の最後に「学習のまとめ」のページを設け、「学んだことを振り返ってみよう」「学びを生かそう」「学びを広げよう」とすることで、復習、生活への応用、学習の発展として、自主的・自発的な学習として活用できるようになっております。

次に、学研教育みらい「新中学保健体育」につきましては、章の扉に小学校で学習したこと、中学校で学習すること、更に高校で学習することが明示され、小中高一貫としての学習の見通

しが持てるようになっております。教科書66ページをご覧ください。各項目の冒頭に「学習の目標」で学習内容を明確にし、自分の生活体験を基盤として、本文と資料で基礎的・基本的な内容を理解しやすいように「キーワード」を設けたり、重要な語句を太字にしたりするなど工夫されております。また、「エクササイズ」で自分の考えをまとめたり話し合ったりする学習場面も持て、思考力・判断力・表現力の育成を図っております。教科書68ページをご覧ください。この章の「もっと広げる・深める」では、生徒の興味関心に応じて学習が深められるよう、写真や工夫された図などを豊富に掲載し、視覚的に捉えやすいように工夫されています。今日的課題の災害についても、分かりやすく掲載しています。また、災害から身を守るヒントを考え、実践にいかせることができるように配慮されております。教科書74ページからをご覧ください。心肺蘇生から応急処置について学習した内容が実習できるよう、分かりやすいチャート図を示し、また写真やイラストを豊富に使い、基礎的・基本的な知識を活用することができるよう構成されています。生徒が自主的に学習できるよう、ポイントを押さえてあり、いつでも復習や定着ができるような構成となっております。80ページの「探究しよう」では、事故防止・被害防止の現代的な課題や、生徒の興味・関心に応じて学習できるようになっています。次のページには「章のまとめ」があり、学習した知識を確認し、日常生活にいかせる記述式の問題を設けるなど、基礎・基本の定着と、実践力の育成を図れるように配慮されております。

現在使用している「学研教育みらい」の教科書ですが、使用実績につきましては、全体を通して、説明の文字、図・写真・表などの資料が見やすく扱いやすいので、それらを活用して課題を見つけたり、考えを深める発展学習に取り組んだりしています。特に、事故防止の単元で「自転車事故と運転者の責任」の図表は理解しやすく、生徒一人ひとりが問題意識を持って考えを深め、自分事に捉えさせることができるものとなっております。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○加藤由美委員 2020年に東京オリンピックがあるということで、生徒たちが興味を持って、身近に感じられるような掲載はありますか。

○説明員 オリンピックについては、国際スポーツというところで、各発行者ともに体育理論の分野で取り扱っています。写真や資料を使って、特に口絵の部分で、学研教育みらいでは最後の資料の部分ですが、オリンピックの精神や国際交流などについて考えを深める内容になっ

ております。身近にオリンピックの選手がいたりする市町村なので、それらも含めながら授業に発展させていけると思います。

○宇田川久美子委員 中学生になると大分関係してくることもあると思うのですが、薬物乱用については、何か特徴的に取り扱っているところはありますか。

○説明員 薬物乱用について取り扱っている単元がございますので、そこでどの発行者も取り扱っております。

学研では「薬物乱用と健康」という単元がございますので、各発行者ともそのような内容、方法で掲載されております。

○宇田川久美子委員 L G B Tについて触れているところはありますか。

○説明員 「L G B T」という言葉は、まだどの教科書にも載っていないと思いますが、性の成熟や、性とどう向き合うかなど、性の多様性や個人差、自己形成、社会性といったようなものが載っている単元がありますので、そちらで取り上げられていると思います。

○宇田川久美子委員 実際には、この教科書を使って、1年を通じて全体を網羅して学ぶことはできているのですか。

○説明員 この教科書を1年生、2年生、3年生と使っていきますので、年間の時間でちゃんと全部網羅して学習に取り組んでいます。

○宇田川久美子委員 ボリュームが多過ぎたり少な過ぎたりというような問題はなくやれているということですか。

○説明員 はい。

○川井かすみ委員 A E Dについての取り扱いというのは、各者どのような特徴があるのでしょうか。

○説明員 応急処置のところで、実習を通して学習したりしています。各者の差は特になくと思います。同じように取り扱われていると思います。

○川井かすみ委員 実際に、A E Dのモデルを使って実習されるのでしょうか。それとも教科書だけでしょうか。

○説明員 教科書だけを使ってやるところもあるかもしれませんが、大体、実習をしながらやっている学校の方が多いと思います。ほとんどが使ってやっていると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 小中学校ですと不登校という形ですが、最近8050問題というようなことも言われていて、社会的に問題のひきこもりについては、心のところで具体的に扱いが出ていますか。

○説明員 心の健康や自己形成の部分では取り扱うこともあると思いますが、特にそういった現状について注釈は入っていないかと思います。

○村田悦一教育長職務代理者 実際に教科書にあるなしということではなくて、学校では不登校ですが、義務教育が終われば今度は不登校ではなくてひきこもりと呼ばれます。そういった中で、中学校では今、不登校などの心の問題、これは保健だけの指導ではないと思うのですが、どういう形で生徒と向き合っていますか。

○説明員 学級活動の授業の中などで、お互いに理解し合うために、例を取り上げながら学習したり、また道徳の授業の中で学習したりしていると思います。

○加藤由美委員 先ほどのAEDのところ、実際、実習をされるということですが、人工呼吸までいくのか、そこまではいかないのですか。

○説明員 例を取り上げれば、人形を何日か借りてきて実習をしたり、小さな模型みたいなものを作って取り組んだりなど、実際に実習などを行って、時間をとっています。授業の中では、消防署の方に来ていただいています。

○高木宏幸教育長 先ほども少し出たのですが、保健編で、心身の発達と心の健康というところで、学研の教科書でいくと、心の発達、自己形成、欲求不満やストレスへの対処ということで、中学生は思春期で、心身のバランスが崩れやすい、そういう中であって、いろいろな悩みを抱えた子どもたちも多いわけで、ここの單元というのは非常に子どもたちにとって切実な、自分の問題として関わられる、また、友達の問題として関わられるような單元だと思うのですが、学研の使用実績という意味では、この編集について、学校現場ではどのように受け止めていますか。使用の中での評価はいかがですか。

○説明員 ここを学習することで、他の領域と組み合わせながら、例えば学級活動の時間で話し合ったり、道徳の授業と一緒に絡めたりして、教科間で横に連携をとりながら取り組める單元だと思います。

特に、1年生の初めの部分での取り扱いなので、友情を深めたり、他を理解し合ったりというところでは、活用できていると思います。

○宇田川久美子委員 今の続きなのですが、中学生になって、専科になってしまうと、横のつながりというところが難しいかと思うのですが、例えば学級活動のときに、実際に保健の教科書を使うという取組はされているのでしょうか。

○説明員 中学校の最初の基礎として、体の発達と今の心の発達、性とどう向き合うかというような授業を行い、草加市では多くの学校で助産師さんを授業に招いて、性への理解を深めた

り、特別活動にいかしたりしています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより中学校数学、理科、音楽の一般、器楽合奏、保健体育の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、川井委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、川井委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

数学、東京書籍株式会社 6 票ですので、東京書籍株式会社といたします。

理科、大日本図書株式会社 6 票ですので、大日本図書株式会社といたします。

音楽（一般）、株式会社教育芸術社 6 票ですので、株式会社教育芸術社といたします。

器楽合奏、株式会社教育芸術社 6 票ですので、株式会社教育芸術社といたします。

保健体育、株式会社学研教育みらい 6 票ですので、株式会社学研教育みらいといたします。

以上でございます。

○高木宏幸教育長 ここで、午後 2 時まで休憩にしたいと思います。休憩後、再開いたします。

————— 休憩 —————

◎再開の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、再開させていただきます。

○高木宏幸教育長 「中学校 技術・家庭」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 技術・家庭〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 技術・家庭科の教科書についてご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、技術分野・家庭科分野とも実習や製作活動には興味・関心が高く、意欲的に取り組みます。しかし、基礎的・基本的な知識・理解の授業につきましても、生活経験不足や小学校での学び方の違いから、習得の個人差が課題となっています。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、技術分野・家庭科分野について、それぞれ次のように設定いたしました。技術分野では、一点目は、「実践的・体験的な学習活動を行う工夫」、二点目は、「安全や衛生、技術に関わる倫理観への配慮についての工夫」、家庭分野では、一点目は、「小学校家庭科の学習内容との関連についての工夫」、二点目は、「安全や衛生への配慮についての工夫」でございます。

それでは、各発行者の特色、特徴について、ご説明申し上げます。

初めに、技術分野について申し上げます。各者とも「材料と加工に関する技術」の内容についてご説明申し上げます。

まずは、東京書籍でございます。32ページから33ページ、「材料に適した加工法を知ろう」をご覧ください。授業目標や「考えてみよう」マークで表示し、学習内容の見通しができるように工夫されています。けがきや切断、削り、折り曲げ、穴あけ、ねじ切りなどの方法を、イラストを中心にピンポイントで写真で提示し、実践的・体験的な学習が主体的にできるよう工夫されています。安全について、34ページをご覧ください。安全・衛生マークがあり、実習や作業の安全徹底を図るための資料が掲載されています。なお、安全については、2ページから5ページの特設ページを設け、より一層の安全指導の徹底を図る工夫がされています。また、特徴としましては、教科書サイズがA B版で、机上での見開きがしやすく、学習指導要領の内容項目A・B・C・Dの順番で、教科書内容が構成されているのが特徴です。

次に、教育図書でございます。32、33ページをご覧ください。32ページでは、図1、図2、図3と具体物を示すことで、ものづくりに求められる正確性を意識付けています。33ページでは、分かりやすい写真を使って、さしがね、のこぎりびき、穴あけ、やすりがけなど

の方法を掲載しています。また、写真の下には矢印でページが示されており、「墨つけ」については37ページ、「のこぎりびき」については38ページというように、矢印に沿ってページを開くことにより、更に分かりやすい加工方法を調べることができるように工夫されています。安全指導につきましては、43ページをご覧ください。「基礎技能」のページの中で、下段にあるような「注意」マークを用いて注意喚起をする工夫が見られます。また、写真やイラストを多く使用し、視覚的に理解を深めることができるといった特徴が見られます。

次に、開隆堂でございます。24、25ページをご覧ください。これから行う学習について、図で分かりやすく示されており、見通しを持って学習に取り組めるよう工夫されています。また、24ページ上段には、「思い出してみよう」コーナーやその本文で、小学校で学んだことに触れ、小中の接続を意識した導入となっております。安全指導につきましては、56、58、61ページをご覧ください。安全・衛生マークを使い、生徒の実習や作業時の安全を意識させる工夫を図っています。次に16、17ページをご覧ください。2ページにわたり特設ページを設け、安全指導の徹底が図れるような工夫がされています。また、学習指導要領の内容項目A・B・C・Dの内容が、学習の順で構成されているところが特徴です。

続きまして、家庭科分野について申し上げます。各者とも「私たちの食生活」の内容についてご説明申し上げます。

まずは、東京書籍でございます。「中学生に必要な栄養素」については、28、29ページをご覧ください。本時の「目標」と「話し合ってみよう」を提示し、学習の見通しを持たせるようにしています。また、図や表、資料を掲載し、なぜ栄養が必要なのかを考えさせる工夫がされています。また、33、34ページの見開きページを使い、六つの食品群について、小学校のときと同じ三つの色で分類し、小中学校の系統性を図っています。安全・衛生について、53、55ページをご覧ください。「安全マーク」「衛生マーク」を付け、囲み枠で強調しています。また、安全と衛生を意識付けるほか、6、7ページのように見開き資料で扱い、安全指導の定着が図れるよう工夫されています。

次に、教育図書でございます。74ページをご覧ください。学習の目標とグラフの資料をもとに、Qマークを使って学習課題を示し、主体的な学習ができるよう工夫しています。76、77ページでは、多くの図を掲載し、資料から栄養の大切さを理解できるよう、工夫されています。基礎食品群について、80、81、82ページをご覧ください。3ページにわたり六つの基礎食品群について説明しています。小学校と同じパステルカラーで六つの色に分け、小学校からの学びがいかされるよう工夫しています。安全について、108ページをご覧ください。

左下にある安全マークを要所要所に掲載するほか、103ページにございますように、更に詳しく安全についての確認ができるように工夫されています。

最後に、開隆堂でございます。66、67ページをご覧ください。学習の目標とグラフの資料をもとに、「考えてみよう」と課題を提示し、興味・関心を持って学習できるよう工夫してあります。また、図や表を基に、栄養の必要性について考える工夫がされています。また、70、71ページをご覧ください。「発展」ページを設け、たくさんの写真やイラストを用いて、生徒自身が更なる課題を設定し、実践につなげられるよう工夫されています。次に、72、73、74ページをご覧ください。小学校で学んだ五大栄養素と六つの基礎食品群が連動して分かるような資料を提示し、小・中学校の系統性が明確になる工夫がされています。安全・衛生について、100、101ページをご覧ください。「安全マーク」「衛生マーク」で詳しく説明するほか、各ページでも示しています。また、89ページをご覧ください。食物アレルギーについての資料も掲載しているのが特色となっています。さらに270ページにも、安全についての資料が掲載されており、安全指導の定着の徹底を図る工夫がされています。

最後に、現在使用している開隆堂の使用実績についてです。技術分野では、89ページをご覧ください。評価と活用例が工夫されています。また、134、135ページをご覧ください。探究と活用の資料が充実しており、知識・理解のページと考え方・工夫のページのバランスがよく、振り返りをしっかりと行える工夫がされています。

次に家庭分野では、111ページの「加熱による変化」、179ページの衣服の「素材の変化」、96ページの「手ばかり」など、視覚でしっかりと伝え、理解しやすい資料が豊富にあること。また、17ページの参考資料をご覧ください。生徒に近い言葉や、実際に関わる人のメッセージが多く、生徒に伝わりやすい工夫がされています。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員 草加市の生徒の実態というところで、生活経験不足があるとのことでしたが、家庭科については、家庭生活の中で取り入れていると経験も豊富だと思うのですが、実際には、家庭科分野で、家庭と学校が連携して、子どもに家庭で何かを促すというようなことは、どのように指導されているのですか。

○説明員 まず、家庭分野の中では、特に食物の調理の部分が家庭とのつながりが多いです。また、衣服の部分も非常に多いと思いますので、例えば夏休みの課題として、家庭で学んだこ

とをいかした調理を試みようとか、衣服についてはボタンつけを裁縫の宿題として実践してみようと提示して、家庭とのつながりを意識しています。また、その課題の中に、学習カードを用いて、家庭とのコメントのやりとりから、家庭でもこういうことを意識していただきたいというような内容を取り入れています。

○加藤由美委員 教科書によって、1、2、3、4という順番が変わっていきたりするのですが、教える上で、特に効率が良い順番はあるのでしょうか。

○説明員 学習指導要領では、A、B、C、Dも同一の順番で並んでいるのですが、授業の学習の段階では、A、B、C、Dの順ではなく、開隆堂の並びの順番で進めているのが現状です。

○村田悦一教育長職務代理者 草加市の小中を一貫した教育という形でいうと、家庭分野は小学校家庭科の学習内容との関連についての工夫という視点が出ていますが、技術では図画・工作の、工作の部分とのつながりもあると思います。中学校の技術に関して、小学校との連携はどのように捉えているのでしょうか。まるきり新しいものが始まるのか、あるいは、つながっているものなのか、小学校とのつながりについては、どういう話をしているのですか。

○説明員 各者、出だしのところに「小学校」というマークを活用して小学校との関連性を示している部分があり、例えば図画・工作では、どういう工具を使って作品作りをしているのかというような、小学校で学んだことを中学校でこのように発展していこうというものが載っています。また、今は情報教育が小学校も大分進んでいますので、その辺の関連性については、小学校と連携をとって、どういう内容を教えているかということを合同研修会の中で情報共有しています。

○村田悦一教育長職務代理者 そういう意味では、確かに開隆堂の4ページ、5ページを見ると、算数、図画だけではなくて、理科、総合など、いろいろな小学校の学びが中学校で生きていく大事な教科だと改めて今、感じました。

また、先ほどのお話で個人差というものがありました。男女差というのはどうなのですか。今は当然実習をしているわけですね。男女差というのはあまりないですか。

○説明員 男女差はあるのですが、例えば技術・家庭科においては、男子の方が得意かという点意外にもそうではなくて、女子の丁寧さがいきてくるということもありまして、授業を行っている中で非常におもしろいところです。

ただ、今は、日曜大工と一緒に料理をするという時間が少ない家庭もあるので、そういう意味では、初めて使う道具や調理といったものに差が出てくる気はします。

○小澤尚久委員 技術分野の生徒の実態のところ、倫理観への配慮という記述がありますが、

その部分について、草加の生徒たちへの投げかけとして適切な内容である、特にこれは効果的だということがあったら教えてください。

○説明員 特に倫理観については、情報教育の中で、個人情報や今、子どもたちの世界の中でも非常に大きな問題というか、関わりを持っている部分ですので、各者、興味・関心、又は子どもたちが気付けるような内容で、取り上げていると思います。

○小澤尚久委員 特にここ、というところはどこにありますか。

○説明員 開隆堂の196ページの「利用するときのモラル」、ここがスマートフォンを中心に、近年大きく変わった内容だと把握しています。

○高木宏幸教育長 この情報モラルは、何年生から扱うのですか。

○説明員 モラルについては、コンピューターの使い方を含めて、最初にやらなければいけないことだと思うので、1年生で取り扱っています。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「中学校 美術」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 美術〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 美術科の教科書について、ご説明申し上げます。

草加市の生徒の実態でございますが、作品の制作については「発想や構想の能力」に課題が見られます。また、鑑賞の能力では、特に「伝統文化等の作品への理解と、鑑賞における能力の向上」に課題が見られます。

草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、「発想や構想の能力」につきまして、表現や鑑賞の活動を通して、視覚や触覚などを十分に働かせ、形や色彩、材料などからそれらの性質や感情、イメージなどを豊かに感じ取るような指導及び思考力、判断力、表現力を育成して、豊かな発想力を引き出すことが重要であることから、「創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫」としました。

伝統文化等の作品への理解と、鑑賞における能力の向上につきまして、古くからの美術作品や生活用具を鑑賞することにより、各時代に生きた人々の美意識や創造的な精神などを感じ取り、それらを踏まえて現代の美術や文化を捉えることにより、文化の継承と創造性の重要性を理解する指導が重要であることから、「よさや美しさなどを味わわせる工夫」といたしました。

それでは、各発行者の特色、特徴等について、本市の課題を基にした観点を含めてご説明申

し上げます。なお、具体的には、「創意工夫し美しく表現する技能を高める工夫」については美術1、「よさや美しさなどを味わわせる工夫」につきましては美術2・3の教科書で説明させていただきます。

開隆堂出版につきましては、まず、絵や彫刻などの表現より風景の表現を例にとりてご説明させていただきます。美術1の10ページから15ページをご覧ください。「心ひかれる風景」という題材で、身近な風景をよく観察する中で、注目させたい場所をクローズアップしたり、主題の見付け方や、色彩や光の変化の捉え方などを掲載したりして、表現する技能を高める工夫があります。また、15ページの風景写真は、主題設定へのヒントとして、掲載されている作家や生徒作品には作者の言葉が添えられているなど、工夫が見られます。次に、絵や彫刻などの鑑賞より日本の美術についてご説明させていただきます。美術2・3の6ページをご覧ください。富士を題材とした、江戸時代から近代までの作家の作品を紹介しています。横山大観の作品は3ページ分を使用して紹介されています。実際に折り曲げることもできるので、屏風の作品のよさを味わうことができます。また、多くの年代の作品から、多様な表現を比べて味わうことができます。さらに、43ページをご覧ください。「絵巻物の世界」として「伴大納言絵巻」及び「鳥獣人物戯画」を上下に並べながら、見開き2ページにわたって紹介しています。

次に、光村図書出版につきましては、まず、絵や彫刻などの表現より「風景の表現」を例にとりてご説明させていただきます。美術1の12、13ページをご覧ください。「心安らぐ私の風景」という題材では、自分が好きな、心引かれる風景を構図や色を工夫して表そうというねらいがあります。1人の作家の作品には「作者の言葉」が添えられており、作者が描きたいと感じた気持ちが分かり、作品制作の参考になる工夫があります。次に、絵や彫刻などの鑑賞より日本の美術についてご説明させていただきます。美術2・3の101ページから103ページをご覧ください。「鳥獣人物戯画」を「絵巻物」のスタイルに沿って、3ページ分を横長に使って、そのよさを味わい、また、部分を取り出して現代の漫画やアニメーションに共通する表現を紹介しています。これらの対比により、伝統の継承と文化の創造について考えさせることができます。併せて、美術1の22から27ページをご覧ください。扉に風神・雷神像を掲載し、扉を開くと俵屋宗達の国宝「風神雷神図屏風」が見開きで掲載されています。

最後に、日本文教出版につきましては、まず、絵や彫刻などの表現より風景の表現を例にとりてご説明させていただきます。美術1の12、13ページをご覧ください。「なぜか気になる情景」という題材で、見慣れている場所から、表したい主題を明確にして表現の構想を練り、工夫して表そうというねらいがあります。スケッチやカメラでの記録をいかして、作者の意図

を焦点化した作品が紹介されています。生徒作品には「作者の言葉」が添えられており、切り取った場所の何に心を引かれたのかが分かり、作品制作の参考になる工夫があります。次に、絵や彫刻などの鑑賞より日本の美術についてご説明させていただきます。美術2・3の上24から29ページをご覧ください。浮世絵版画をメインに、ヨーロッパ美術が浮世絵から受けた影響を紹介し、美術がつなぐ人と文化について紹介しています。特に、26ページから29ページにかけての見開きの二つの葛飾北斎の作品は、原寸大に和紙を用いたことにより、浮世絵のも強さを味わわせることができます。さらに、美術2・3の下24ページから25ページをご覧ください。「教科書美術館」と題して、修学旅行で奈良・京都を訪れた際には注目させたい仏像を示し、扉を開くと、三十三間堂の国宝「妙法院蓮華王院」の写真が掲載されており、興味・関心を持たせるとともに、伝統文化のよさを感じさせることができます。

最後に、現在使用している開隆堂の使用実績について説明いたします。全学年の教科書の表紙をご覧ください。日本の作家の作品を取り入れ、生徒に興味・関心を高めるよう工夫が見られます。また、全ての題材に四つの評価規準が明示してあります。

美術1の9ページ右下をご覧ください。色分けした割り振りが分かりやすく明示されており、生徒が学ぶべきねらいを明確にし、振り返りがしやすいような工夫が見られます。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長　ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○宇田川久美子委員　草加市の生徒の実態で、鑑賞における能力の向上ということがあります。教科書には、どれも迫力のある作品を目にすることができますが、実際に中学生が美術鑑賞に行って、本物を見る機会はどれぐらいあるのですか。

○説明員　草加市には美術館はありませんが、美術館からは、来てくださいということで様々な申し出や、貸し出してくれる写真など、本物というわけにはいかないのですが、申し出れば学校に貸してくれるものなどがあります。

中学校におきましては、美術は専門教師が授業をしておりますので、先生の描いた絵を見せるなど、実際に描くところや、描いたものを提示したり展示したりということをしております。

特に、子どもたちが美術を専門的に勉強したいということであれば、その美術館を教えたり、様々な催しを教えたりなど、情報提供をすることで機会をつくるようにしております。

○宇田川久美子委員　鑑賞ということですと、一番は実物を見て、それに対してどう見えるかということに取り組んだほうが、生きた勉強になるかと思いました。

○説明員 授業で教える時には、小学校では、造形遊びという形でいろいろなことに触れるということが一番なのですが、中学校になりますと、様々なものを専門的な教員が教えるということで、まず題材として、教員が作ったものを見せることから導入をするといった取組があります。

○村田悦一教育長職務代理者 小中学校では社会科見学で、いろいろな所へ行って見ることが大切だと思います。私は高校生 のときに、日展見学が1年生の時にありまして、上野へ行って、いろいろな博物館や美術館を見学しました。

先ほどのお話を聞いていたら、草加は東京に近いので、家族で行ければ良いのですが、美術館見学などをどこかに入れて本物を見る機会があると良いと思いました。

伝統文化については、先ほど国語でも「おくのほそ道」の話があったのですが、当然、麦倉先生の松尾芭蕉像や曾良像、あるいは草加駅のおせんさん像などが草加にはあります。また、麦倉先生の作品は、市内でもいろいろな所にありますので、授業の中に取り入れていくことで、私は、草加の文化力の向上につながると考えています。

それは、美術科だけではできないと思います。中学校は教科担任制で、美術は美術、国語は国語、社会は社会ということではなくて、社会や国語など、横断的に取り組む必要があります。簡単な案内でも良いと思います。例えば、今、上野の博物館ではすばらしい作品が来ているから、もし行けるのであればご家族と行ったらどうかなど、伝統文化に触れることで、子どもたちの文化力、それが草加の文化力の向上につながるのかと思うので、教科書を見て終わるのではなくて、その次の一歩踏み出せるように、是非、授業を通して取り組んでいただければ良いかと思っています。

○小澤尚久委員 生徒の実態に、発想や構想の能力に課題が見られるため、「創意工夫と美しく表現する技能を高める工夫」と挙げていただけていますが、技能を高める工夫という、スケッチや写真を活用するといったことが出てきました。その他にも、更なる技能の高まりを考えた場合に、良い取組、草加の子どもたち、生徒たちに合った取組があれば、いくつか教えていただければと思います。

○説明員 草加の子どもたちだけではなくて、昔、美術科は2時間続きでした。長い時間、取り組めるということで、今、欠けてしまっているものは、1時間になり、長い時間ずっと集中させて取り組むということができなくなったがゆえに、やれることが限られてきてしまったということが背景にあるかと思っています。

ただ、現在はそれに代わる、例えばICTなどを使って修学旅行の際に、仏像などを見せる

のにも、カラーで見せながら説明することができたりするということで、違った形でアピールをして、子どもたちの中に、平面で見せるだけではなくて、視覚的に訴えながら、動くものを見せながらアプローチをしていくという切り口で、最近は授業に取り組んでおります。

○小澤尚久委員 そういった限られた時間の中で、教科書を使うということを考えた場合に、この教科書のこういうところはより効果的に工夫されているといったところがもしあったら教えてください。

○説明員 現状の教科書では、教科書自体に様々な特色がありますので、良いところは多くあるのですが、開隆堂については、興味・関心、意欲の向上につながるようなことを感じられる参考作品を載せていただいていたたり、今、草加市で中学校のカリキュラムの中に、教育課程の中に入れてあるものを、段階をへて入れていただいていたたり、教員が使うことに対して使いやすさということがあります。

○高木宏幸教育長 草加市の生徒の実態から、作品の制作について発想や構想の能力に課題があるというでした。これは、制作と鑑賞は別々のものではなく、当然関連してくるものだと思います。ここにはいろいろな芸術家の作品等がありますが、これは本物で芸術家の作品です。しかし、現実には中学生なので、すごいなというだけで終わってしまうとそれで終わってしまうので、中学生の発想で考えた時に、どういう作品構想が練れるかという意味では、開隆堂は生徒の作品、自分と同世代の子どもたちの作品で、こんなふうを描いてある、こんなふうに作られていると、本物と同時に、自分たちの同世代の子どもたちがこんなものをつくり上げているとなると、更にその発想が身近になってくるのかと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

○説明員 美術科では副教材を用いることが多いので、デザインの分野であったり絵画の分野であったり、複合した教材などを使うのですが、作品が出来上がった時には、クラスの垣根を越えて、学年で、学校の中で、美術室を、本校の場合は美術室と隣の家庭科室などに全部の作品を展示して鑑賞し、同世代の子どもたちがどんなものを作っているかというのも、鑑賞会というような形で実施しておりますし、県の美術展の写真等も持ってきて、子どもたちに見せたりということで、今、他の学校でこういうことをやっている、うちの学校ではこういうことをやっているということで、共通点から違うところなども含めながら示しているところです。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、次に、「中学校 英語」の選定資料の報告に入らせていただきます。

〈中学校 英語〉

○高木宏幸教育長 説明員の方、お願いいたします。

○説明員 それでは外国語（英語科）についてご説明申し上げます。

まず初めに、草加市の生徒の実態でございますが、平成30年度に行われました草加市学力・学習状況調査の質問紙の「外国語活動の授業は楽しいですか」という質問に対して、小学校5年生は9割近く、小学校6年生は8割近くの児童が「楽しい」と答えており、小学校外国語活動で「聞くこと」「話すこと」について、慣れ親しんでいる子どもたちが中学校に入学してくることが分かります。一方、中学校では、「聞く」「話す」に「読む」「書く」が加わり、4技能をバランスよく習得することが求められています。

そこで、草加市の生徒の実態を踏まえての観点についてでございますが、英語においては、「小学校の外国語活動との関わりを通しての基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫」といたしました。

次に、各発行者の特色、特徴等についてご説明を申し上げます。各発行者の第1学年、一般動詞、例えば「I like ○○」を取り扱っている単元を例にとり、ご説明させていただきます。

初めに、東京書籍「NEW HORIZON」についてでございます。2ページ、3ページをご覧ください。Unit、Daily Scene、Presentationの3部構成となっております。38ページ、39ページをご覧ください。Unitのパートは、基本文を練習するための基本練習、Listen、Speak、Writeの練習問題があり、毎時間同じ流れで学習が展開されるような工夫が見られます。41ページをご覧ください。基本文は、文章であったり会話文であったり、パートにより様々でございますが、このページに見られるように、文の構造が視覚的に分かりやすく書かれており、右側に文法の説明が書かれているといった特徴が見られます。

次に、現在使用している開隆堂「SUN SHINE」についてでございます。4ページ、5ページをご覧ください。PROGRAM、Power-Up、My Projectの3部構成となっております。PROGRAMで学んだ4技能を伸ばすPower-Up、My Projectではスピーチを中心にした技能の統合的活用を図る活動について工夫が見られます。30ページ、31ページをご覧ください。PROGRAMの各セクションでは、Basic Dialogで基本的な文法を学習させた後に、Listen、Speak、Tryの三つの段階を追った後、右ページで本文に取り組み、最後にWriteで自己表現に取り組みせるといった、毎時間同じ流れで学習が展開されております。次に、44ページをご覧ください。My Projectの単元は、指導内容がやや高度な部分も含まれ、英語を得意とする生徒が更に力を伸ばすこ

とができます。最後に、56、57ページをご覧ください。このPOWER-UPの单元では、生徒が英語を使って楽しく活動をすることができるといった特徴が見られます。

次に、学校図書「TOTAL ENGLISH」でございます。2ページ、3ページをご覧ください。Chapter 1には、三つのLessonがあり、Chapterは全部で四つございます。各Chapterの最後に自己表現力に取り組みさせるProjectがございます。20ページ、21ページをご覧ください。Lessonの各セクションにおいて、Target Sentenceで基本的な文法を学習させた後に、Listening、Speaking、Writingの練習問題があります。毎時間同じ流れで学習が展開されるという点で工夫が見られます。Target Sentenceは、文章であったり、会話文であったり、文法によって様々で、簡単な文法が矢印で示されております。他の発行者はbe動詞から学習が始まりますが、Lesson 1に一般動詞を導入しているといった特徴が見られます。

次に、三省堂「NEW CROWN」でございます。4ページ、5ページをご覧ください。統合的な活動として、Projectが3か所配置されております。Lessonは四つのパート、とびら、GET、Use、文法のまとめに分け、GETで聞いたり話したりしながら基本文の定着を図り、Useでは読む力、話す力、書く力等の育成を図るといった工夫が見られます。Lessonによって、GET、Use、の構成は様々でございます。具体的には、36ページ、37ページをご覧ください。聞いてみよう、話してみよう、書いてみようといった流れで1時間の構成がされています。46ページ、47ページをご覧ください。Projectのページでは、統合的な活動が行えるといった特徴が、この教科書では見られます。

次に、教育出版「ONE WORLD」でございます。見開き2ページ目の「この教科書で英語を学ぶみなさんへ」をお開きください。Lessonは全部で九つあり、Projectは三つあります。一つのLessonの中は、Hop、Step、Jumpの三つで構成されています。36ページ、Lesson 3はHopであり、37ページには、Listen、Speak、Writeの活動がございます。40、41ページはStep、さらに44、45ページはJumpで、活用を求めた内容について工夫が見られます。また、この教科書は別冊が付いており、PLUS Activityとして、様々な活動を通して、更に活用するための冊子が付いているといった特徴が見られます。

次に、光村図書「CLUMBUS21」でございます。2ページ、3ページをご覧ください。Unitは全部で11あり、その中にGo for It!が三つ、まとまった分量の英文を読むLet's Readの二つで構成されております。48、49ページをご覧ください。Unitのパートごとに基本文で基本的な文法について学習させ、Listen、Speak、Writeで練習をさせ、まとめとして、54、55ページのGo For It!で、基本的な表現力を身に付けさせる構成になっている点で工夫が見られ

ます。また、全体的に色使いが優しくなっている点と、本文が一貫したストーリーになっており、物語の展開を期待しながら読み進むことができる工夫がされているといった特徴が見られます。

最後に、現在使用している開隆堂「SUN SHINE」の使用実績についてでございます。見開き2ページで1時間の授業が完結しており、使いやすく、分かりやすい教科書であるという意見が聞かれます。例えば30ページ、このリスニング教材は、英語が苦手な生徒も取り組みやすい内容となっており、ほぼ9割の生徒が正解できるので、生徒が自信をもって取り組むことができるという意見があります。生徒の実態に応じた指導が可能です。

本文の量や、内容、難易度も適切であり、身近なテーマや、生徒が興味・関心をもつようなテーマが設定されております。英語学習だけでなく、今後どう生きていくかといったことも考えられるという感想も聞かれます。また、リーディングはもちろん、リスニング、スピーキング、ライティングなど、様々な活動が盛り込まれていて、4技能をバランスよく指導することができる、という良い評価があります。

説明は以上でございます。

○高木宏幸教育長 ただ今、報告が終わりました。それでは、質疑及び協議に入りたいと思います。ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○村田悦一教育長職務代理者 確認をさせていただきたいのですが、ここでは小学校外国語活動との関わりということが出てきます。6年生は外国語活動で、来年からは外国語（英語）になりますので、外国語活動から英語になっても、小中のつながりは変わらないのでしょうか。外国語活動が小学校5、6年生で英語、3、4年生から外国語活動となった時に、中学校で何か変わってくるのでしょうか。

○説明員 現行の外国語活動では、主に「聞く」「話す」を中心とした学習内容になっておりますが、外国語に変わった段階で、文字指導も入ってきます。そういった意味で、この教科書につきましては、接続ということではないのですが、それを踏まえた指導に変えていく必要があると考えております。

○村田悦一教育長職務代理者 小学校ではコミュニケーション能力、「聞く」「話す」の学習で、四つの技能の中で中学校ではコミュニケーションのことは、説明の中で出なかったと思うのですが、小学校での英語を通してのコミュニケーション能力については、中学校でも取り組んでいると思います。小学校で学んだコミュニケーション能力を中学校で更に伸ばすような教科書なのか、それとも4技能で、それとは違うということになるのでしょうか。

○説明員 現行の教科書は、4技能のバランスで教科書が構成されています。ただ、今の小学校6年生から、新しい外国語を学んで進学しますので、今までは文字も0からということで考えていたのですが、ある程度文字も単語も頭の中に入れて入学してくるということで考えていく必要があると思います。

○村田悦一教育長職務代理者 先ほど、平成30年度の調査で、外国語について、5年生が9割、6年生が8割、興味・関心を持っているということでしたが、英語になってそれがどうなるのか、楽しみであり心配でもあるのですが、そのことも踏まえて、草加市では小中一貫教育の中で、今度は3年生からの活動が英語になり、最終的には草加市で英検の補助もして、3級の取得率も数字として出しているのので、目標に向かって、教科書がしっかり使われるようお願いしたいと思います。

○高木宏幸教育長 現行の外国語科の学習指導要領で、コミュニケーション能力は4技能全てですよね。4技能全てがコミュニケーション能力、つまり書くことも読むこともコミュニケーションの一つであるということ、ただ、今回の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、スピーキングの結果は非常に正答率が低く、これが課題になっています。

ですので、「聞くこと」「話すこと」は、小学校の外国語活動からも十分取り組んでいます。実際にテストで求められている、リスニングはかなりの正答率なのに対して、スピーキングは低いということに対して、現行の教科書の使用実績でいくと、開隆堂の編集構成は、スピーキングに対してはいかがでしょうか。

○説明員 スピーキングに関しては、濃い内容とは言えませんが、それぞれのページで用意されておりますので、授業の中でどのように使っていくかが重要だと思います。特に、小学校では、ICT等を非常に活発に活用されていますので、中学校でもICT等を取り入れて教科書を使っていく必要があると思っております。

○加藤由美委員 昨年度、5、6年生の外国語の授業を見させていただいて、みんな楽しそうに、ジェスチャーを加えて授業を受けていたことがとても印象的で、中学校で英語の授業が始まって、その姿が見られなくならないように、積極的にコミュニケーションをとる子どもたちの姿がなくならないような授業を続けてほしいと思います。

○宇田川久美子委員 中学校では、辞書を使おうということがありますが、辞書は必携ですか。

○説明員 ほとんどの学校で、学校に持って来させてはおりません。ただ、自宅にある今は電子辞書をかなりの割合で使用していると思うのですが、また、各校の図書室等で1クラス分は

常備していると思います。「SUN SHINE」では、23ページに「辞書を引いてみよう」というページがございます。授業中及び家庭学習等で、単語の意味等が分からなくなったり調べたくなったりした時には、各社とも巻末に単語と熟語をそれぞれ使われている内容での意味は載っているのです、そういったものを活用して自習学習及び予習学習をしているのが実態です。

○宇田川久美子委員 私たちの時代は、辞書が真っ黒になったら学習能力が高まったということが言われていました。白かった辞書が黒くなるのがうれしいという感覚があったのですが、今は、現実的には分からなくなったら電子辞書を引いてみるということですか。

○説明員 はい。辞書指導にあまり多くの時間は割いておりません。

○高木宏幸教育長 他にご意見、ご質問はございますか。

それでは、これより技術・家庭科の技術分野、家庭分野、美術、英語の教科用図書に係る採択に入ります。

投票用紙を配付いたします。

記入はお済みでしょうか。

次に、投票箱が空か確認いたします。

(「空でございます」と言う者あり)

○高木宏幸教育長 それでは、加藤委員から投票をお願いいたします。

(投 票)

○高木宏幸教育長 それでは、開票状況につきまして、加藤委員と事務局で確認をお願いいたします。

(開 票)

○高木宏幸教育長 お待たせしました。集計結果を発表いたします。

技術・家庭科の技術分野、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

技術・家庭科の家庭分野、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

美術、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

英語、開隆堂出版株式会社6票ですので、開隆堂出版株式会社といたします。

以上でございます。

以上で、第32号議案につきましては、決定をいたしました。

○高木宏幸教育長 続きまして、その他の報告がございましたらお願いいたします。

○教育総務部長 特にございません。

○高木宏幸教育長 その他の報告がないようでしたら、次回の教育委員会の日程について、事務局からお願いいたします。

○説明員 次回の教育委員会の日程でございますが、第8回定例会を8月20日、火曜日、時間は午前9時から、教育委員会会議室でお願いしたいと思います。

◎閉会の宣言

○高木宏幸教育長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了いたします。

午後3時15分 閉会